

〔縣令〕宛  
(第二號) 用紙同上  
賣藥改正願

府縣「大小區」國郡村(町)番地  
營業人族籍 氏 名

一方名  
藥品分量  
製法  
用法服量  
功能

右ハ何年月日御検査濟鑑札御下渡營業仕候處今般何々ノ廉左ノ通改正仕度御差支無之候ハ、鑑札御書替被下度此段奉願候也  
一改正ノ廉ヲ詳記スヘシ

年 號 月 日  
願人 氏 名 印  
「戶長」氏 名 印  
區長 氏 名 印

(第三號) 用紙同上

賣藥請賣願

一方名 一同 一同 一同 一同

右營業人 府縣「大小區」國郡村(町)番地  
族籍 氏 名

但營業者異ナレハ假令一方タリトモ必ス各營業者ノ族籍住所氏名ヲ上ノ例ニ倣ヒ之ヲ區別シテ書記スヘシ  
右ノ賣藥幾方今般請賣仕度依テ別紙營業者へ御免許ノ御指令寫並約定書相添此段奉願候也

年 號 月 日 府縣「大小區」國郡村(町)番地  
「縣令」宛 請賣願人族籍 氏 名 印  
區「戶長」 氏 名 連 印

賣藥請賣約定書

一方名 一同上 一同上 一同上 一同上  
右ハ何某ノ官許ヲ得タル賣藥ニシテ今般何某請賣可致示談相整候ニ付請賣者ニ於テ請賣鑑札ヲ願受ケ營業者ノ製調シタル賣藥ヲ取次販賣致スヘシ然ル上ハ營業者鑑札免許期限内ハ總テ賣藥ニ關スル御規則及御達ノ趣旨ヲ確守シ不正ノ所業致ス

問敷候依テ約定書如件

年 號 月 日

府縣「大小區」國郡村(町)番地

賣藥營業人 族籍 氏 名 印

府縣「大小區」國郡村(町)番地

賣藥請賣人 族籍 氏 名 印

(第四號)

用紙同上

賣藥營業鑑札満期御書替願

府縣「大小區」國郡村(町)番地

營業人 族籍 氏 名

一方名

藥品分量

製法

用法服量

功能

但藥方數種アルトキハ上ノ例ニ從テ一々連書スヘシ

右ハ何年月日御檢査濟鑑札御下渡營業仕候處來ル何月満期相成尙引續營業仕度別紙鑑札幾枚返納仕候間御詮議之上御差支無之候ハ、御書替被下度此段奉願候也

十年甲第百三十五號ニヨリ第四號書式消滅

(第六號)

用紙同上

年 號 月 日

願人 氏 名 印

「戶長」 氏 名 印

區長 氏 名 印

「縣令」宛

賣藥營業鑑札或ハ賣藥請賣鑑札(遺失毀失)ニ付

御書替願

府縣「大小區」國郡村(町)番地

賣藥營業人 族籍 氏 名

賣藥請賣鑑札ナレハ左之通認ムヘシ

府縣「大小區」國郡村(町)番地

賣藥營業人 族籍 氏 名

府縣「大小區」國郡村(町)番地

族籍 氏 名

右ハ何年月(確ト記臆セサレハ概畧ヲ記スヘシ)御下渡被下候(賣藥營業鑑札或ハ請賣鑑札)何月日何々ノ事故ニテ(遺失毀失)仕候間更ニ御下渡被下度此段奉願候也

年 號 月 日

賣藥營業人或ハ請賣人 氏 名 印

「戶長」 氏 名 印

「縣令」宛

(第七號)

用紙同上

賣藥營業鑑札讓渡願

區長 氏名 印

府縣「大小區」國郡村(町)番地

營業人族籍 氏名

一方名

藥品分量

製法

用法服量

功能

但賣藥數種アルトキハ上ノ例ニ從テ連書スヘシ

右ハ何年月御検査濟鑑札御下渡營業仕候處今般(府)縣族籍何某示談之上讓渡申度  
依テ所持之鑑札返納仕候間御書替被下度此段奉願候也

府縣「大小區」國郡村(町)番地

年 號 月 日 賣藥鑑札主族籍 氏名 印

同 上

右讓受人族籍 氏名 印

鑑札主所住ノ區「戶長」氏名 連 印

「縣令」宛

讓請人ノ同上 氏名 連 印

(第八號)

用紙同上

他府(縣)之者へ賣藥營業鑑札讓渡御届

府縣「大小區」國郡村(町)番地

營業人族籍 氏名

一方名

藥品分量

製法

用法服量

功能

但賣藥數種アルトキハ上ノ例ニ從テ連書スヘシ

右ハ何年月御検査濟鑑札御下渡營業仕候處今般(府)縣族籍何某へ讓渡之儀何月何  
日付府(縣)へ願上候間此段御届申上候也

年 號 月 日 營業人 氏名 印

區長 氏名 印

「戶長」氏名 印

十四年布告第二十  
六號ニヨリ鑑札料  
ノ廉(但書共)消滅

十四年布告第二十  
六號ニヨリ但書ノ  
次々鑑札料以下四  
行消滅

十六年甲第百三十  
一號ヲ以テ右ハ  
ノ下「當」ヲ「府」ト  
改ム

二十二年告示第五  
十五號ヲ以テ郡長  
與共廢止

十三年乙第百二號  
參看

◎甲第百三十五號 (明治十年十一月五日)

賣藥行商願書式ノ義本年甲第五十四號ヲ以テ及布達是マテ聽屆ノ上鑑札料上納致  
來候處自今後指令及ハス候條別紙書式ノ通願書一通ニ鑑札料并上納證書相添可差  
出此段布達候事  
(但)

賣藥行商願 用紙美濃栴白紙

一 賣藥行商鑑札一枚

但何湯 何丸 何散 何膏 何丹

右ハ府縣國郡村(町)番地何某或ハ私雇人何某ヲ以行商爲仕度鑑札料相添此段奉願  
候也

府縣國郡村(町)番地族籍

賣藥營業人又  
ハ請賣藥人

氏 名 印

「縣令」宛

「戶長」

氏 名 印

區長

氏 名 印

◎乙第八十一號 (明治十三年八月廿四日)

賣藥營業ノ者廢業或ハ禁止ノ節ハ其請賣行商者其鑑札返納可致義ニ付他郡内ニ於  
各郡町村

テ請賣行商ヲ爲スモノアルハ本業者所管ノ郡役所ヨリ其旨速ニ請賣行商者所管  
ノ郡役所ニ通知可致此段相達候事

但他府縣内ニ於テ請賣行商ヲナス者アルハ住所姓名方名共取調其都度可届出事

◎乙第百二號 (明治十三年九月廿九日)

各郡町村

本年八月乙第八十二號ヲ以賣藥營業者廢業或ハ禁止ノ節其請賣行商者アル郡役所  
へ通知及他府縣内ニ係ル分届出方等ノ儀相達置候處右ハ豫テ本業者ヨリ請賣行商  
者ノ住所姓名方名共届出サセ置其都度通知方等不洩様可取計此段相達候事

◎丙第百九號 (明治十三年七月十日)

各 郡

賣藥受賣又ハ行商營業者免許期限中轉居ノ節鑑札取扱手續左ノ通相定候條此段相  
達候事

但他府縣轉居ニ係ルモノハ此限ニ非ス

一 賣藥受賣營業者免許期限中轉居ノ上鑑札書替願出ルルハ鑑札面住所朱書訂正  
裏面片隅ノ餘白へ年月日轉居ニ付書替下附スト朱書主任(郡書記)捺印シテ下渡  
スヘシ

一 甲郡ヨリ乙郡へ轉居ノ節ハ乙郡役所ニ於テ前條ノ手續ヲナシ其旨甲郡へ通報  
ス可シ

十四年丙第九十四  
號ヲ以テ「受賣」ノ  
下「又ハ行商」ノ四  
字追加



二十一年連乙第二十四號參看

◎丙第一百一號 (明治十六年八月二十日)

各郡

賣藥請賣及行商鑑札ノ儀ハ明治十年(三月)内務省乙第三二號達ノ雛形ニ準ヒ方名五方ヲ限リ記載致來候處自今五方以上ト雖モ便宜記載致シ不苦候條此旨相達候事但賣人ニシテ數人ノ賣藥ヲ請賣及行商スルルハ方數ニ拘ラス營業者異ナル毎ニ鑑札別製下附スヘシ

◎丙第二號 (明治十七年一月十一日)

各郡

賣藥營業者死亡退隱等ニテ其業ヲ相續スルモノ又ハ都合ニ依リ他人へ讓渡シ或ハ改姓名等ニテ營業鑑札書換願出ルルルハ其請賣行商者モ鑑札書換可願出ハ勿論ノ處往々前營業人名記載ノ鑑札ヲ以テ依然受買行商スルモノモ有之甚タ不都合ニ候條右營業鑑札書換願濟ノ節ハ速ニ本店ヨリ其請賣行商者へ通知可致旨賣藥營業ノ者へ可申聞此旨相達候事

◎乙第二百二十八號 (明治十九年七月廿日)

各郡町村 各警察署

石炭酸溶解ノ義ハ明治十三年甲第五百十號論達ニ據リ虞利斯林又ハ亞爾兒保爾ヲ以テ媒合致來候處今般制定發布相成候日本藥局法ニ記載有之候左ノ方法ヲ以テ溶解方當廳ニ於テ試驗爲致候處容易ク溶解セリ依テ該法施行ノ上果シテ好結果ヲ得

ルニ至ラハ爾后リスリン又ハ亞爾兒保爾等ノ媒介ヲ廢止スヘシ此旨相達候事

(局法拔萃)

本品十分ニ水一分ヲ混和スレハ澄明ノ液トナリ之ニ稍々多量ノ水ヲ加フレハ濁濁シニ百分ノ水ヲ和スレハ全ク溶解シテ澄明ノ液トスル

但下ノ方法ヲ用ユレハ尙簡便トス即一磅(和量百二十匁)入結晶石炭酸塩ノ栓塞ヲ拔キ凡水一匁半(和量十五匁)ヲ加ヘ時々振盪シ六時間許ヲ過クレハ流動狀トナルナリ之ニ水ヲ加フルニ三十倍以上ニ至レハ全ク溶解スヘシ

◎告示第十九號 (明治十九年九月二十九日)

明治十二年(四月)報告第二十四號阿片受拂手續ヲ廢止シ更ニ阿片受拂手續左之通相定ム

阿片受拂手續

- 一 阿片ヲ拂下クルハ明治十一年太政官第二十一號公布ニ據リ鑑札ヲ受ケタル特許藥舖ニ限ルヘキモノトス
- 一 拂下クル所ノ阿片ハ粉末一匁ヲ以テ一器トシ每器ニ衛生局試驗所檢査印紙及ヒモルヒ子含量等明記セル藥名箋ヲ貼付シタルモノニ限ルヘシ
- 一 拂下ノ定期ハ毎年兩度(四月十月)トス
- 一 但欠乏ノ節ハ規則第七條ニ據リ臨時拂下ケテ出願スヘシ
- 一 特許藥舖ハ阿片元受並賣捌ノ高及ヒ賣渡人ノ姓名住所等規則第十條ニ據リ詳

二十二年告示第四十九號ヲ以テ一明

細表ノ下「正副  
二通」ノ四字削除

二十二年告示第四  
十九號ヲ以テ明細  
表形中番號ノ欄  
削除

細簿記シ置キ毎一年(會計年度ニヨル)分別紙雛形ニ準シ明細表ヲ造リ四月十日  
限リ差出スヘシ

一 特許藥舖ニ於テ阿片ヲ販賣スルハ内務省ヨリ告示ノ價格ニ相當ノ手数料ヲ加  
ヘ販賣スルモノトス

明細表雛形

明治何年度阿片受拂明細表

元 受

特許藥舖住所姓名

| 總計     | 何月何日   | 何月何日   | 何月何日   | 前年度ヨリ越高 | 受入月日          |      | 一瓶ノ價  |
|--------|--------|--------|--------|---------|---------------|------|-------|
|        |        |        |        |         | 百分中モル<br>ヒ子含量 | 瓶數   |       |
| 九乃至十   | 九乃至十   | 九乃至十   | 九乃至十   | 九乃至十    | 何百何拾          | 何百何圓 | 拾何錢何厘 |
| 十一乃至十二 | 十一乃至十二 | 十一乃至十二 | 十一乃至十二 | 十一乃至十二  | 何百何拾          | 何百何圓 | 拾何錢何厘 |
| 九乃至十   | 九乃至十   | 九乃至十   | 九乃至十   | 九乃至十    | 何百何拾          | 何百何圓 | 拾何錢何厘 |
| 十一乃至十二 | 十一乃至十二 | 十一乃至十二 | 十一乃至十二 | 十一乃至十二  | 何百何拾          | 何百何圓 | 拾何錢何厘 |

賣 拂

| 總計     | 何月何日   | 何月何日   | 何月何日   | 賣拂月日   | 賣拂            |    | 姓名<br>病院ナ<br>長姓名 |
|--------|--------|--------|--------|--------|---------------|----|------------------|
|        |        |        |        |        | 百分中モル<br>ヒ子含量 | 瓶數 |                  |
| 九乃至十   | 九乃至十   | 九乃至十   | 九乃至十   | 九乃至十   | 何百何拾          | 何圓 | 何 某              |
| 十一乃至十二 | 十一乃至十二 | 十一乃至十二 | 十一乃至十二 | 十一乃至十二 | 何百何拾          | 何圓 | 何 某              |
| 九乃至十   | 九乃至十   | 九乃至十   | 九乃至十   | 九乃至十   | 何百何拾          | 何圓 | 何 某              |
| 十一乃至十二 | 十一乃至十二 | 十一乃至十二 | 十一乃至十二 | 十一乃至十二 | 何百何拾          | 何圓 | 何 某              |

元受賣拂差引殘

阿片何百何拾瓶

明治何年三月三十一日現在

丙 譯

九乃至十

何百何拾瓶

前書之通相違無之候也

年 月 日

姓 名 印

訓第一二九號 (明治二十二年七月二十五日)

郡役所 警察署

數種ノ藥品相合スル片ハ各個固有ノ藥力ヲ變スルヲアルハ言ヲ竣サル義ニ有之候  
處傳染病消毒上往々混同使用スルモノアリ爲メニ消毒施行ノ勞力ハ徒勞ニ屬シ藥  
品消費ノ費用ハ徒費ニ歸スルノ結果ヲ視ルハ往々免ル能ハサル所ナリ依テ向後ハ  
其藥品ノ何タルニ拘ハラズ一物ヲ消毒スルニ全時ニ二様ノ消毒藥ヲ併用セサル様  
注意スヘシ

右訓令ス

二十三年縣令第二十六號參看

◎縣令第六十一號 (明治二十二年十一月十一日)

何人タリトモ格魯兒酸加溜謨(鹽素酸加溜謨又ハ鹽酸加里)ヲ賣買授受スル片ハ豫  
メ其斤量及需用ノ目的ヲ明記シ左ノ書式ニ從ヒ賣主授主ノ管轄警察署ニ届出認可  
ヲ受クヘシ

但警察官ハ臨時其現品ヲ検査スルヲアルヘシ

前項ノ手續ニ違反シ賣買授受ヲ爲シタルモノハ三日以上十日以内ノ拘留ニ處シ又  
ハ壹圓以上壹圓九拾五錢以下ノ科料ニ處ス  
本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

格魯兒酸加溜謨

斤 量

右ハ(醫業)(工職用何々)必要ニ付前書ノ斤量(賣買)(授受)致度御認可被成  
下度候也

本籍何縣何市何町番地族籍

現住所何縣何市何町番地職業

(買主)(受主) 氏名 實印

年 齡

何縣何市何町番地職業

(賣主)(授主) 氏名 實印

年 齡

警察署長宛

◎縣令第十三號 (明治二十三年二月十三日)

外國輸入ノ賣藥ヲ販賣セントスル者ハ自己調製ノ賣藥ト同シク明治十年第七號布  
告賣藥規則第三條ニ據ルヘキハ勿論明治十五年第五十一號賣藥印紙規則ニ據ルヘ  
シ

◎縣令第十八號 (明治二十三年二月二十六日)

藥種商營業取締細則左ノ通之ヲ定メ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス



藥種商營業取締細則

第一條 藥種商タラント欲スルモノハ願書ニ履歷書ヲ添ヘ市役所又ハ町村役場ヲ經鑑札下付ヲ願出ヘシ

第二條 藥種商ノ業ヲ相續セントスル者ハ履歷書ヲ添ヘ鑑札書換ヲ願出ヘシ

第三條 藥種商ハ左ノ雛形ニ倣ヒ看板製シ之ヲ店頭ニ掲クヘシ  
縦 二 尺  
横 七 寸

|           |     |
|-----------|-----|
| 許 免       | 第 號 |
| 藥 種 商 營 業 |     |
| 氏 名       |     |

第四條 一容器ノ藥品ヲ更ニ數容器ニ分ツトキハ其分チタル容器ニ製造者(藥品製造會社ナレハ其所在地名及會社名)若クハ外國藥品取引人ノ住所氏名ト自己ノ住所氏名トヲ併記スヘシ

但毒劇藥ハ封緘ヲ開キテ小分スル事ヲ得ス

第五條 數容器ニ分チタル藥品ニハ其容器ニ一定ノ封緘ヲ爲スヘシ

第六條 封緘用印紙ノ衛生試驗所検査印紙ニ紛ハシキ者ト認ムルトキハ改訂ヲ命スル事アルヘシ

第七條 藥品ハ醫藥用品ト醫藥用外品トヲ區別シ置クヘシ

第八條 藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品販賣ノ業ヲ營マントスル者ハ第一條ノ免許鑑札ヲ受クルニ及ハス下雖モ該條ニ準シ届出其他尙ホ第四條(但書ヲ除ク)第五條第六條第七條ヲ遵守スヘシ

第九條 鑑札ヲ亡失毀損シタル者或ハ改氏名又ハ管内轉居ノ節ハ其事由ヲ記シ十日以内ニ再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第十條 死亡廢業又ハ他府縣ニ轉籍寄留セントスルトキハ十日以内ニ鑑札ヲ返納スヘシ

第十一條 第四條第五條第七條ニ違背シタル者第六條ノ命令ニ違ハサル者及第八條ノ届出ヲ怠タル者ハ二十錢以上一圓二十五錢以下ノ科料ニ處ス

第九條第十條ニ違背シタル者ハ五錢以上五十錢以下ノ科料ニ處ス

◎縣令第十九號 (明治二十三年二月二十六日)

製藥營業取締細則左ノ通之ヲ定メ明治二十三年三月一日ヨリ施行ス

製藥營業取締細則

第一條 製藥者タラント欲スル者ハ履歷書ヲ添ヘ市役所又ハ町村役場ヲ經テ鑑札

下附ヲ願出ヘシ

第二條 製造シタル藥品ニハ其容器ニ一定ノ封緘ヲ爲スヘシ

第三條 封緘用印紙ノ衛生試驗所検査印紙ニ紛ハシキ者ト認ムルトキハ改訂ヲ命

二十三年縣令第二十三號ヲ以テ第八條中第三條ヲ削リ第四條ノ下ニ劃書ヲ加フ

スルコトアルヘシ

第四條 藥品ハ醫藥用ト醫藥用外品トナ區別シ置クヘシ

第五條 製藥者ハ每年末其年間製造セシ各藥品ノ名稱及量數ヲ記シ翌年一月三十

一日限届出ヘシ

第六條 藥劑師ニシテ藥局ヲ開設セス單ニ藥品製造ノ業ヲ營ントスル者ハ第一條

ノ免許鑑札ヲ受クルニ及ハスト雖モ該條ニ準シ届出其他尙第二條第四條第五條

ヲ遵守スヘシ

第七條 鑑札ヲ亡失毀損シタルカ或ハ改氏名又ハ管内轉居等ノ節ハ其事由ヲ記シ

十日以内ニ再渡又ハ書換ヲ請フヘシ

第八條 死亡廢業又ハ他府縣ニ轉籍寄留セントスルトキハ十日以内ニ鑑札ヲ返納

スヘシ

第九條 第二條第四條ニ違背シタルモノ第三條ノ命令ニ違ハサルモノ及第六條ノ

届出ヲ怠タル者ハ貳拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第七條第八條ニ違背シタル者ハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス

◎告示第三十三號 (明治二十三年三月十三日)

明治二十二年三月法律第十號藥品營業並藥品取扱規則藥品監視員ノ證票左ノ通之

ヲ定ム

紙製

曲尺二寸二分

表 藥品監視員之證

一寸七分

愛媛縣

◎縣令第二十六號 (明治廿三年三月廿六日)

明治廿二年縣令第六十一號ヲ以テ何人タリトモ格魯兒酸加溜謨ヲ賣買授受セント

スルトキハ所轄警察署ニ届出テ認可ヲ受クヘキ旨及布令候處自今醫師藥劑師藥種

商製藥者相互間ノ賣買授受ニ限り届出ニ及ハス

◎告諭 (明治廿三年六月十三日)

明治廿二年三月法律第十號藥品營業并ニ藥品取扱規則第廿六條及第廿七條ノ義ハ

素ト直チニ醫療ニ供用スヘキ藥品ニ適用スル精神ニ出タルモノナレハ左記ノ如キ

藥品ハ該兩條ニ依ルヘキモノニ無之尤右藥品ト雖モ毒劇藥ニ係ルモノハ其危險ヲ

防禦スルノ各條ニ依リ取扱フヘキモノナリト心得ヘシ

一 製藥原料藥品

藥局製劑(例令ハ水劑、硬膏劑、越後斯篤拉屈篤劑、揮發油類、丸劑、舍利別

- 一 劑、丁幾手皂劑、錠劑、軟膏劑、酒劑、浸劑、擦劑、臨時可製藥等ヲ除ク
- 一 繪具染料用
- 一 香油香水等製造用
- 一 飲食物用
- 一 工職用、化學試驗用
- 一 外國輸出藥品

◎縣令第三號 (明治廿四年一月十九日)

賣藥部外藥劑取締規則左ノ通之ヲ定ム

但明治十四年七月本縣甲第百二十二號並二十五年六月本縣甲第百六十七號布達  
ハ廢止ス

賣藥部外藥劑取締規則

- 第一條 本則ニ於テ賣藥部外藥劑ト稱スルハ飲食物ノ防腐髮染防臭鼠取蠅取蚤除  
虱除蚊遣等治病ヲ目的トセサル藥劑ヲ云フ
- 第二條 第一條ノ藥劑ヲ調製販賣セントスルモノハ方名藥味分量製法用法効能ヲ  
詳記シ現品ヲ添ヘ第一號書式ニヨリ願出許可ヲ受クヘシ
- 第三條 許可ヲ受ケタル藥劑ヲ販賣スルトキハ方名用法効能ヲ詳記シ包紙ヲ用ヒ  
鄭重ニ取扱フヘシ
- 第四條 許可ヲ受ケタル藥劑中其藥味分量及製法ヲ改正セントスルトキハ現品ヲ

二十四年縣令第四  
十三號ヲ以テ第五  
條中藥劑ノ下ニ取  
入ル以下十二字挿  
入  
二十五年則第三一  
號參看

添ヘ其旨ヲ記シ第二號書式ニヨリ願出許可ヲ受クヘシ但用法効能及方名ノミヲ  
改正セントスルトキハ其旨ヲ記シ第三號書式ニヨリ届出ヘシ

第五條 許可ヲ受ケタル藥劑或ハ他府縣免許ノ部外藥劑ヲ請賣又ハ行商セントス  
ル者ハ第四號書式ニヨリ所轄郡役所市役所ニ願出行商者ハ免許鑑札ヲ受ケ行商  
スルトキハ必ス之ヲ所持スヘシ但製劑者ニシテ自ラ行商シ又ハ賣子ヲ派出シテ  
行商セシムルモノモ本條ニ從フヘシ

第六條 營業者改姓名死亡廢業管内轉居若クハ他府縣ニ轉籍寄留スルトキハ直ニ  
其旨届出ヘシ

第七條 第六條ノ場合又ハ販賣ヲ禁止セラレタルトキハ直ニ其旨ヲ請賣人及行商  
人ニ通知スヘシ

第八條 免許ノ藥劑ト雖モ其有害危險ナルカ又ハ用法効能不適當ナルヲ更ニ發見  
シタルトキハ其發賣ヲ禁止スルコトアルヘシ

第九條 第二條第三條第四條ニ違背シタルモノハ二日以上五日以内ノ拘留ニ處シ  
又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス

第五條及第七條後段ニ違背シタルモノハ一日以上二日以下ノ拘留ニ處シ又ハ貳  
拾錢以上壹圓貳拾五錢以下ノ科料ニ處ス

第六條及第七條前段ニ違背シタルモノハ五錢以上五拾錢以下ノ科料ニ處ス  
(第一號書式)

藥劑發賣願

一 方名

藥味分量

製法

用法

効能

右ノ藥劑調製販賣仕度候間御許可被成下度製劑相添此段奉願候也

何郡(市)町(村)大字何々何番戶居住(寄留)

族籍

氏名印

年月日

知事宛

(第一號書式)

藥劑改正願

一 方名

藥味分量

製法

用法

効能

右ノ藥劑明治何年何月何日付ヲ以テ調製發賣ノ御許可ヲ得營業罷在候處今般(改

正ノ項目ヲ記スヘシ)左ノ通改正仕度候間御許可被成下度製劑相添此段奉願候也

何郡(市)町(村)大字何々何番戶居住(寄留)

族籍

氏名印

年月日

知事宛

(第三號書式)

藥劑改正願

一 方名

藥味分量

製法

用法

効能

右ノ藥劑明治何年何月何日付ヲ以テ調製發賣ノ御許可ヲ得營業罷在候處今般(改

正ノ項目ヲ記スヘシ)左ノ通改正仕度候間御許可被成下度製劑相添此段奉願候也

一 改正ノ願ヲ詳記スヘシ

何郡(市)町(村)大字何々何番戶居住(寄留)

族籍

氏名印

年月日

知事宛

(第四號書式)

藥劑請賣(行商)願

一方名 何郡(市)町(村)大字何々何番戸居住(寄留) 製劑人族籍 氏名

右ノ藥劑何方請賣(行商)仕度此段製劑人連署ヲ以テ奉願候也

年月日

請賣(行商)人 氏名 印

郡(市)長宛

◎告示第六十一號 (明治二十四年五月七口)

本年五月二日內務省令第三號ヲ以テコソホ結核病治療液使用法達セラレ候ニ付テハ公私立病院其他醫師ニシテ該液使用ノ認可ヲ受ケントスル者ハ願書ニ左ノ各項ヲ添付スヘシ

- 一 院長若クハ醫師ノ履歷
  - 一 病室ノ數其廣狹及該患者ヲ入ルヘキ豫定數
  - 一 助手及看病人ノ數其每人ニ受持タシムヘキ患者豫定數
- 但助手ハ履歷ノ概畧ヲ添フヘシ

一 結核菌ヲ檢スルニ必要ナル顯微鏡ノ有無其他檢査用ノ器具  
○訓第三一號 (明治二十五年二月十口)

郡役所 市役所

明治二十四年(一月)縣令第三號賣藥部外藥劑取締規則第五條請賣及行商願ニ係ル取扱方左ノ通心得ヘシ

- 一 賣藥部外藥劑ノ請賣ヲ願出タルトキハ指令ノミヲ與フヘキ事
- 一 賣藥部外藥劑ノ行商鑑札ヲ願出タルトキハ普通營業ノ行商鑑札ニ製劑者ノ府縣名氏名及其方名ヲ記シ下付スヘキ事
- 一 行商鑑札所持ノ者他ノ方劑ヲ販賣セントスルトキハ其都府豫テ交付ノ鑑札ニ製劑者ノ府縣名氏名及其方名ヲ記入シテ交付スヘシ
- 但方數夥多ニシテ其余白キトキハ更ニ別途鑑札ヲ下付スヘキ事
- 一 或ル方劑ノ販賣禁止ノ命ヲ受タルトキハ速ニ請賣者ニハ其指令ヲ取消ヲナシ行商鑑札ハ引揚又ハ訂正ヲ爲スヘキ事
- 一 二種以上ノ藥劑ヲ記載シタル行商鑑札ニシテ或ル一劑ヲ廢業シタル場合ニ於テハ其方劑ハ朱抹シ主任檢印ノ上下付スヘキ事
- 一 從前下付ノ行商鑑札ハ前各項ノ規定ニ依リ此際更正スヘキ事

◎告示第四百四十四號 (明治二十五年十月十五日)

藥劑師中藥師開業免狀所持ノ者ニシテ免狀書換テ願出ルトキハ其試験ヲ受ケタル  
管轄廳及受験年月大學卒業ノ者ハ卒業年月ヲ願書ニ記載スヘシ

◎告示第六十號 (明治二十六年五月五日)

爾後下付スル賣藥行商鑑札ハ紙製ノモノヲ以テス

◎訓令第四十九號 (明治二十七年十一月八日)

市町村

本年本縣告示第四百四十三號ニ據リ賣藥營業鑑札下付之節徴シタル受書ハ即日本廳  
警察部へ送付スヘシ

二十七年訓令第四十九號參看

◎告示第四百四十三號 (明治二十七年十一月八日)

明治二十五年二月大藏省令第四號ニ據リ登記印紙ヲ以テ納付スル賣藥營業鑑札料  
ハ來ル十二月一日以後鑑札下附ノ節其金額相當ノ印紙ヲ貼用シタル受書ヲ認メ所  
轄市役所又ハ町村役場へ差出スヘシ

但明治二十五年本縣告示第四十六號ハ廢止ス

◎告示第四百七十四號 (明治二十七年十二月二十二日)

自今賣藥ニ關シ本廳へ提出スル願書ハ三通其屆ニ係ルモノハ二通ヲ差出スヘシ  
但明治二十四年八月本縣告示第八十八號ハ廢止ス

第六章 飲食物及着色料

◎丙第五百五十四號 (明治十三年十月九日)

各郡

各郡内ニ於テ藥品ノ誤用或ハ飲食物等ニヨリ中毒セシ患者有之候節ハ其毒物ノ名  
稱中毒ノ症狀及ヒ患者ノ姓名治死等詳細取調毒物現品(品質ニヨリ「アルコール」  
「グリスリン」ニ浸漬スル等適宜防腐ノ手當ヲナシ)相添可届出尤郡内醫員ヘモ無  
洩可達置此段相達候事

但客年二月乙第十一號達ハ消滅候儀下心得ヘシ

◎甲第百號 (明治十四年五月三十日)

飲料水ハ衛生上最モ重要ノモノナレトモ從來ノ餘習ニテ其性質ノ良否及ヒ井泉ノ造  
拵河湖導管ノ裝置等ノ如何ハ更ニ願慮セサルモノ、如シ右ハ其水源ノ模様或ハ穿  
過スル所ノ地質及其流通集溜スル所ノ外圍底面等裝置ノ如何ニ隨ヒ各其品性ノ良  
否ヲ生ス縱令ヒ其原質ハ純良ナルモ井泉ノ造拵ト導管ノ裝置粗惡ナル片ハ四邊ノ  
土壤ヨリ汚物ヲ浸透シ爲メニ其水ヲ清潔純良ニ保存スルヲ能ハサルナリ若シ其不  
潔汚穢ナルニ至テハ各種ノ傳染病ヲ輪傳スルニ於テ尤モ迅速ナリトス夫レ一家或  
ハ一間ノ生命ヲ繫ケル所ノ飲料水ヲシテ疾患ノ驛使タラシムルニ至ルハ豈懼レサ  
ルヘケンヤ依テ飲水取締規則左之通相定候條此段布達候事

飲水取締規則

第一條 井泉或ハ導管ヲ新設セント欲スルモノハ其造拵裝置ハ以下第五條マデニ

十四年乙第七十五  
號參看  
十八年甲第百二十  
二號ヲ以テ衛生委  
員停止

準據スヘシ

第二條 井泉ヲ新設セント欲セハ其地質及ヒ位地ヲ擇ムヲ第一トス便所汚物溜芥溜等ニ遠ク隔離(近クモ三間以上)シタル場所ヲ撰ミ可成深濶ヲ要スヘシ殊ニ埋葬地ニ遠隔ナルヲ要ス

但シ不得止シテ三間内ニ浚堀スル片ハ事由ヲ明記シテ衛生委員ニ届出其指示ヲ受クヘシ

第三條 井泉外圍或ハ導管ハ鑄鉄鍛鉄石瓦陶器或ハ木竹等ニテ可及的堅固ニシ其接際ハ打濕險ノ類ヲ填充シ汚水滲透小動物等ノ濫入ヲ防クヘシ

第四條 鉛ハ屈撓シ易キノ便利アルヲ以テ導水管ヲ製スルニ實用スト雖モ通過スル所ノ水質ニヨリ毒ヲ發スルノ性アルモノナレハ決シテ用ユヘカラス是迄用ヒ來タル者ハ漸次改装スヘシ

第五條 井泉或ハ導管ヲ新設セハ必ス水道ヲ附設シ其水道ハ可成暗渠ニシ下水ノ溜滯セサル様注意スヘシ

第六條 村落ノ如キ宅地ノ周圍餘地アルモノハ必シモ第五條ニ倣フヲ要セス

二十四年縣令第三  
十四號ヲ以テ第七  
條但番追加

第七條 便所肥溜汚物溜ハ其外圍底面ハ必ス打濕險ノ類ヲ以堅牢ニ填充シ適宜ノ覆蓋ヲ設ケ雨水ノ溜滯及ヒ尿尿汚水ノ地中ニ滲透スルノ防キヲナスヘシ

但新設ヲナスモノハ飲水ノ距離第二條ニ據ルヘシ  
第八條 從來所用ノ井泉又ハ導管等ハ左ノ各項ニ準據シ必ス補理ヲ加フヘシ

十七年甲第三十一  
號參看

第一項 井泉外圍及ヒ導管ノ破壞シテ汚水滲透スルノ患ヒアルモノ及ヒ下水々導ノ破損シテ汚水溜滯ノ患ヒアルモノハ第三條第五條ニ倣ヒ速ニ補理スヘシ  
第二項 井泉及ヒ導管ニ下水々道ナキモノハ第五條ニ據リ可成速ニ水道ヲ新設シ下水溜滯ノ患ヲ除クヘシ  
第三項 土地ノ高低或ハ人家稠密等土地ノ景况ニヨリ下水々道ヲ設クル能ハサル場所ハ當分ノ中汚水溜ヲ設クルモ妨ケナシト雖モ其造摺ハ汚物溜ト同一ニスヘシ

第四項 現ニ汚物ヲ含有シ又ハ含有スルノ恐レアル水ハ飲料ニ供ス可カラズ若シ不得己ノ場合アリテ之ヲ用ユルハ木炭末或ハ海綿砂石ヲ以テ濾過スル等適宜ノ淨却法ヲ施シ然ル後用ニ供ス可シ

◎甲第二百十九號(明治十四年十月二十七日)

飲食物及玩弄品着色料取締規則

第一條 飲食物及小兒玩弄品ノ彩色料ハ從來慣用ノ品種ト雖モ第二條ニ掲グルモノ、外ハ其品名成分製法及產地等ヲ詳記シ現品ヲ添ヘ伺出スヘシ  
第二條 無害着色料ハ左ノ如シ

赤色之部

ベンガラ(一名鐵丹即チ第二酸化鐵)

茜 草

猩脂(コーセニールヲ以テ製シタルモノ) 蘇木  
日本紅(紅花ヲ以テ製スルモノ)

黄色之部

山梔子

鬱金

鬱金粉(但鬱金砂ハ毒アリ用エハカラス)

洎芙蓉

ズミ并練ズミ(サワ梨ノ皮ヲ以テ製シタルモノ)

青色之部

日本藍(藍葉ヲ以テ製スルモノ)

青粉(野菜ヲ以テ製スルモノ)

末茶

紫色之部

紫根

黑色之部

木炭

油煙

金色并銀色之部

金箔

銀箔

以上十八種ハ諸食物并玩弄品ノ着色ニ用ユル品類ニシテ單味或ハ調合シ用ユルモ妨ナシ

胡粉(炭酸石灰)

眞鍮箔

十八年甲第百二十  
二號ヲ以テ衛生委  
員廢止

十六年告第  
四十六號及  
十七年甲第  
三十一號參  
看  
十六年甲第  
二十九號ヲ  
以テ背テレ  
ノ  
下  
副  
書  
削  
除

銅箔

錫箔

以上(小兒ノ紙ルヘキ玩弄品ニハ用ユヘカラス)

角粉

石膏

砥ノ粉

地ノ粉

黄土

代赭石

麒麟竭

玉墨

以上十二種ハ玩弄品ノ着色ニ用ユル品類ニシテ此品類及ヒ前項十八種ノ内單味或ハ調合シ用ユルモ妨ケナシ

◎乙第七十五號 (明治十四年五月三十日)

各郡町村 衛生委員

今般甲第百號ヲ以テ飲水取締規則布達候ニ就テハ第二條但書ニ據リ届出候者有之節ハ町村衛生委員ニ於テ實地ヲ検査シ實際不得已分ハ其周圍ヲ十分堅固ナラシメ汚水滲透ノ患ナキ様指示致スヘク此段相達候事

◎甲第二十一號 (明治十六年二月十五日)

河豚販賣之儀ニ付管テ及布達置候次第モ有之候處自今乾魚ヲ餘ク外右販賣禁止候條此旨布達候事

◎告第四十六號 (明治十六年二月十五日)

今般甲第二十一號ヲ以テ河豚販賣禁止之儀布達候處該河豚ノ毒タル肝腸或ハ卵或



ハ寄生虫(民間蝶ト稱フ)ニアリトシ或ハ其種類ニヨルトシ或ハ調理ノ巧拙ニヨルトシ種々ノ説アリ然リ而シテ其實際ニ就キ之レヲ考フルニ調理ニ注意シテ毫モ疎漏ナキモ或ハ其毒ニ中ルアリ又之レニ反シテ調理ノ如何ハ指テ問ハス肝腸皮肉ノ別チク貪食スルモノニシテ嘗テ中毒ノ患ナキアリ又タ一鍋ノ肉ヲ數人共食スルニ甲ハ何等ノ患ヒナキモ乙丙丁皆其毒ニ中リ斃ル、モノアリ是ヲ以到底危險ノ食物タルヲ免レサルモノニ付生魚ハ斷然販賣ヲ禁止シタル儀ニ候條可成食用セサル可致此旨諭告候事

◎甲第七十八號 (明治十九年六月十七日)

蠅類飲食物ニ點集スル片ハ之ヲ不潔ナラシムルノミナラス往々傳染病毒傳播ノ媒介ト爲ル虞アルニ付販賣スル飲食物ニシテ其儘食用スヘキモノニハ適宜ノ覆蓋ヲ設クヘシ

右布達候事

二十二年訓令第五十七號參看

◎縣令第十六號 (明治二十年一月二十四日)

受取

牛乳營業取締規則左ノ通改正來ル二月十五日ヨリ施行ス

但明治十四年甲第四十六號布達全年乙第三十六號達ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

牛乳營業取締規則

第一條 牛乳ヲ搾取リ販賣セントスルモノハ第一號式ノ願書ニ畜場搾乳場ト四隣人家ノ距離ヲ記シタル圖面ヲ添ヘ地元「戸長」及郡長ヲ經テ出願許可ヲ請クヘシ

二十年縣令第五十七號  
以下順次繰上テ  
第二條改正

第二條 搾乳場及畜場ハ左ノ各項ニヨルベシ

- 一 搾乳場ハ専ラ清潔ヲ旨トシ搾乳ノ都度掃除シ汚物塵埃ヲ堆積セサル様注意スヘシ最畜場ト搾乳場トヲ相兼ヌルヲ得ス
  - 一 畜場ハ濶大ナル窓戸ヲ設ケ地盤ハ勾配ヲ附シ堅牢ナル板ヲ敷クカ又ハ漆喰ニテ作り其一方ニ小溝ヲ設ケ尿ヲ場外尿溜ニ注流セシメ尙毎朝敷藁ヲ除キ充分洗浄スル等清潔法ニ注意スヘシ
  - 一 尿溜ハ緻密ナル桶蓋又ハ漆喰ニテ造リ十分ナル覆蓋ヲ設クヘシ
  - 一 畜舎内ニ在テハ乳牛一頭ヲ繫クニ横幅一間奥行一間以上慣ニハ其半ノ區域ヲ備ヘ且其區域ノ前後ニハ半間以上ノ通路ヲ設クヘシ
- 第三條 若シ畜場内ニ於テ疾病ニ罹ル牛アルハ速ニ他ニ隔離シ決シテ混同畜養スヘカラス

第四條 乳牛ハ体格強壯性質溫和且其系統善良ニシテ血液ニ毒質ヲ遺殘スヘキ疾病ニ罹リタルノ兆ナキモノヲ撰用スヘシ

第五條 乳牛ハ每頭番號ヲ附シ第三號式ニ依テ所轄警察署又ハ分署ニ届出スヘシ但増減アル片モ亦本文ニ準ス

第六條 乳牛若シ疾病ニ罹リタルハ其發病全癒トモ直チニ所轄警察署又ハ分署ニ届出スヘシ

第七條 乳牛ノ飼料ハ大麥裸麥等成ルヘク澱粉質ノ多キモノヲ撰用スヘシ

二十四年縣令第五  
號ヲ以テ第九條中  
モノハノ下ニ飲用  
ノ爲ニチ加フ

二十四年縣令第五  
號ヲ以テ第十四條  
改正

- 第八條 牛乳ヲ搾取スルルハ必ス乳房ヲ洗滌シ汚濁ヲ拭取リ汚物ノ乳中ニ混入セサル様處置シ尙搾リタル乳汁ハ清潔ナル麻布等ヲ以テ濾過スヘシ
- 第九條 左ノ各項ニ係ルモノハ飲用ノ爲メ販賣又ハ授受スルコトヲ許サス
  - 一 乳牛分娩後二週日ヲ經サル内搾取シタル乳汁
  - 一 疾病又ハ其疑アル牛ノ乳汁
  - 一 狂病犬ノ咬傷ヲ受ケ全癒後一ヶ月ヲ經サルモノ、乳汁
  - 一 血液膿汁又ハ腐敗乳若クハ水其他異物ヲ混シタル乳汁
  - 一 乳酪ヲ收取シタル乳汁
  - 一 一日以上ヲ隔テ、搾取シタル初度ノ乳汁
  - 一 變敗ヲ防止スル爲メ藥品ヲ混シタル乳汁
- 第十條 牛乳ヲ運搬販賣スルルハ第四號式ノ木札ニ所轄警察署ノ檢印ヲ受ケ容器又ハ他ノ看易キ場所ヘ附ケ置クヘシ
- 第十一條 牛乳ノ容器ハ銅質鉛質等ノモノ又ハ蓋ナキモノヲ用ユヘカラス
- 第十二條 傳染病者アル家ニハ乳器ヲ留置キ又ハ自他ノ器物ヲ混同觸接セジムヘカラス
- 第十三條 係官吏ハ臨時搾取場ヲ監視シ又ハ乳質検査ノ爲メ營業人若クハ行商人ヨリ乳汁ヲ徴スルコトアルヘシ
- 第十四條 第一條第二條(摺造)第三條第四條第九條第十二條ニ違背シタルモノハ

二日以上五日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五拾錢以上壹圓五拾錢以下ノ科料ニ處ス  
 第六條第八條第十條第十一條ニ違背シタルモノハ一日ノ拘留ニ處シ又ハ拾錢以上壹圓以下ノ科料ニ處ス  
 第一號願書式

牛乳營業願

私儀何郡何(町村)何番地へ畜場搾乳場相設ケ牛乳營業仕度別紙圖面相添此段奉願候也

年月日

郡(町村)番地身分

氏名印  
「戸長」氏名印

知事宛

營業人ノ住所卜營業地ノ異ナルルハ其住所々轄戸長ノ連署ヲ要ス

第二號標札式

豎曲尺 二尺

△印ハ朱書

|         |    |    |
|---------|----|----|
| 横       | 七  | 寸  |
| 免許牛乳販賣場 | 住所 | 氏名 |

第三號式

乳牛之儀届

第 號

一何種 年 齡 毛 色

但何年何月何日分娩

右ノ通乳牛ニ供用致候間此段御届仕候也

年 月 日

住 所 氏 名 印

第四號式

豎曲尺五寸

搾取免許人

|   |               |
|---|---------------|
| 横 | 何郡何町村何番地何某行商人 |
| 二 | 何ノ 誰          |
| 寸 | 牛乳販賣免許        |

◎縣令第十九號 (明治二十年一月二十四日)

屠畜肉販賣取締規則左ノ通定メ來ル三月一日ヨリ施行ス

屠畜肉販賣取締規則

第一條 屠畜肉ヲ卸賣小賣又ハ行商セント欲スルモノハ所轄警察署又ハ分署若クハ交番所へ届出スヘシ

第二條 屠畜肉ハ屠畜免許人ノ屠殺シタル檢印濟ノモノニアラサレハ一切販賣スルヲ許サス

第三條 屠畜肉ヲ店頭ニ排列シ又ハ行商スルルハ麻布綿布ノ類ヲ以テ之ヲ覆ヒ蚊蠅等ノ蟻集ヲ拒クヘシ

第四條 屠畜肉販賣中ハ其毎片檢印アル部分ハ其一片ヲ賣了スルニ至ルマテ存置スヘシ

第五條 檢査印アル屠畜肉ト雖警察官ニ於テ臨時之レヲ檢査シ若シ食用ニ適セスト認ムルルハ其販賣ヲ停止シ現品ヲ棄却セシムルコトアルヘシ

第六條 屠畜肉卸賣小賣又ハ行商人トモ買入元帳及賣拂帳ヲ製シ元帳ニハ賣主住所氏名及ヒ買入月日斤量ヲ記シ賣拂帳ハ賣却斤量及其月日ヲ記載シ置クヘシ

第七條 他府縣免許ノ營業人ヨリ買請販賣セントスルルハ其營業人ノ住所姓名ヲ所轄警察署又ハ分署ニ届置キ其肉ハ買請ノ都度檢印(屠畜營業取締規則第四號捺印式ニ據ル)ヲ受クルニアラサレハ販賣スルヲ得ス

第八條 本則第一條第二條第三條第四條第六條第七條ニ違犯シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニヨリ罰セラルヘシ

◎縣令第二十二號 (明治二十年一月二十四日)

製氷積雪販賣取締規則左之通相定メ來ル二月一日ヨリ施行ス

但明治十二年甲第五號布達ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

製氷積雪販賣取締規則

第一條 氷ヲ製造シテ販賣セント欲スルモノハ第四條ニ掲グル各項ノ取調書及現況ヲ記シタル圖面ヲ添へ願出スヘシ

第二條 河川等ノ天然氷又ハ積雪ヲ貯藏シテ販賣セント欲スルモノモ亦第一條ノ手續ヲナスヘシ

第三條 器械藥品ヲ以テ製造スルモノハ其器械ノ裝置藥品ノ種類及製造方法書ニ用水(凡三升)ヲ添へ出願検査ヲ受クヘシ

第四條 第一條第二條ノ製氷及氷雪採收ハ左ノ各項ニ觸レサル場所ニ限ルベシ  
一 製氷用水ノ源流及製造地ノ位地ハ道路埋火葬場芥溜溝渠下水等ニ隔絶シテ汚物混入ノ患ナキ場所タルヘシ

一 結氷積雪ヲ採收スルノ位地モ亦前項ニ同シ

一 製氷積雪ヲ貯藏スルハ清潔ナル倉庫又ハ窖穴等ノ汚物混入ノ患ナキ場所タルヘシ

二十二年縣令第四十八號ヲ以テ第五十八號「郡役所」ヲ「戸長役場」ト改ム

第五條 第一條第二條ノ願出アル片ハ戸長役場ニ於テハ吏員ヲ實地ニ派遣シ第四條各項ノ當否ヲ検査シ詳細添申スヘシ

第六條 製造場及貯藏場ハ時々係官吏ヲ派遣シ若シ汚物ノ混入スルカ又ハ不潔ノ製造ト認ムル片ハ其製造貯藏ヲ差止メ現品ハ投棄セシムルコトアルヘシ

第七條 貯藏ノ氷雪ヲ發賣セントスル片ハ其期ニ際シ現品(量目凡壹貫目)ニ最前許可ノ指令寫ヲ添へ出願検査ヲ受クヘシ

但氷雪ハ清潔ナル瓶又ハ箱ニ入レ溶解モサル樣裝置スヘシ (第八條)

第九條 試験ノ上性質善良ニシテ食用ニ害ナシト認ムル片ハ別紙第一號式ノ發賣許可證ヲ附與スヘシ

第十條 氷雪販賣ノ許可ヲ得タルモノハ別紙第二號式ノ標札ニ免許證寫ヲ添へ所轄警察署ニ届出標札ニ檢印ヲ受ケ其門戸ニ表示スヘシ

第十一條 發賣許可ノ氷雪ヲ請賣セントスル片ハ營業人連署ノ届書(發賣許可寫ヲ添フ)ニ別紙第三號式ノ標札ヲ添へ所轄警察署ニ差出シ檢印ヲ受ケ店頭ニ表示スヘシ

但他府縣ニ於テ發賣許可ノ氷雪ヲ請賣スルモノモ亦本文ノ手續ヲ爲スヘシ

第十二條 營業人又ハ請賣者目ヲ行商シ若クハ雇人ヲシテ行商セシメントスル片ハ其旨所轄警察署ニ届出別紙第四號式ノ木標ニ檢印ヲ請ケ其荷桶等ノ看易キ場

二十一年縣令第四十七號ヲ以テ第十條但書追加

二十一年縣令第四十七號ヲ以テ第八條削除

所ニ表示スヘシ

第十三條 氷雪ヲ運搬若クハ販賣スル片ハ清潔ナル桶又ハ瓶等ニ入レ汚穢物ノ混入セサル様装置スヘシ

第十四條 係官吏ハ時々氷雪販賣所ニ臨檢シ或ハ行商人ニ對シ品質検査ノ爲メ現品ヲ徴スルヲアルヘシ

但此場合ニ於テ容器又ハ取扱ノ不適當ニシテ汚物ノ混入シタルトアリト認ムル片ハ其販賣ヲ停止スルヲアルヘシ

第十五條 發賣期ノ検査ヲ經サル前ニ於テ醫療用ノ爲メ醫師ノ請求アル片ハ賣渡スヲ得

但シ本文ノ場合ニ於テ其賣渡シタル量目年月日住所姓名ヲ記シタル証書ヲ請取置クヘシ

第十六條 本則許可ノ効ハ前年十一月ヨリ翌年十月迄一ケ年限トス滿期ニ至レハ免許証ヲ返納シ標札又ハ木標ハ消印ヲ請フヘシ

第十七條 本則第一條第二條第三條第四條第七條第八條第十條第十一條第十二條第十三條第十五條第十六條ニ違背シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニヨリ罰セラルヘシ

第一號式

發賣許可之証

縣國郡町村

製造(貯藏)人 氏 名

一製氷 (又ハ積雪)  
右検査ノ上食用ノ爲メ販賣ヲ許可ス

年 月 日

愛 媛 縣 印

第二號式

檢印  
三 尺

明治何年何月ヨリ明治何年何月限

免許氷雪販賣所

製造(貯藏)人 氏 名

第三號式

檢印  
三 尺

明治何年何月ヨリ  
明治何年何月限 製造(貯藏)人 氏名

氷雪請賣免許

住 所  
請 賣 人 氏 名

第四號式

檢印  
六寸

三  
明治何年何月限

水雪行商免許

住所製造(貯藏)(請賣)人氏名  
賣子氏名

二十一年告第九號

◎告第八號 (明治廿一年二月七日)

飲料水ノ人身健康ニ大ナル關係ヲ有スル固ヨリ言テ俟タス宜敷注意撰擇シテ之ヲ  
供用セサルヘカラス依テ其試験ヲ望ム者ハ左ノ各項ニ據リ縣立病院ヘ申出ヘシ  
但明治廿年告示第四十五號ハ取消ス  
右告示ス

- 一 試験用水ハ大約一升以上タルヘシ
- 一 水ノ容器ハ明燈等透明ニシテ内部ニ不潔物ノ附着ナキヲ視得ヘキ者ヲ撰ムヘシ
- 一 其容器ハ試験ヲ乞ハント欲スル水ヲ以テ之ヲ洗ヒ而シテ水ヲ充タシ「キユル  
ク」等ヲ以テ其口ヲ密閉スヘシ
- 一 試験ヲ乞フモノハ其掘井ノ構造及便所下水等トノ距離ヲ明記シタル書面ヲ添  
フヘシ

- 一 試験用水ノ遞送費試験費(水一種毎ニ金五錢)ハ本人自辨タルヘシ
- 一 試験成績ノ概略ハ病院ヨリ告知書ヲ交付スヘキニ付飲料ニ適スル井水ハ左ノ  
雛形ニ據リ標札ヲ製シ其門戸ニ掲グヘシ



◎告第九號 (明治廿一年二月七日)

今般飲料水試験ヲ望ム者ハ縣立病院ヘ可申出旨告示スト雖モ遠隔ノ地方ニ於テ各  
自ノ便宜ニ依リ最密公私立病院開業醫師ニ就キ水質ノ検査ヲ受ケ良水ヲ供用スル  
ノ注意ヲ怠ル可カラス  
右告示ス

◎訓令第五十七號 (明治二十二年七月八日)

「戸長役場」

牛乳屠畜斃畜剥剥場設置ノ出願者アルトキハ其都度實地ヲ検査シ四隣障害ノ有無  
ヲ願書ニ添申スヘシ

### 第七章 墓地

◎甲第八十六號 (明治十三年十二月二十日)

上世以來御陵墓所在未定ノ分即今取調中ニ付云云去ル七年五月第五十九號ヲ以テ公達ノ趣有之就テハ古墳ト相見候地ハ人民私有地タリトモ猥リニ發掘不致等ニ候ヘ凡自然風雨等ノ爲メ石槨土器等露出シ又ハ開墾中不圖古墳ニ掘當リ候様ノ次第有之候ハ、口碑流傳ノ有無ニ不拘凡テ詳細ナル繪圖面ヲ製シ其地名并近傍ノ字等ヲモ取調可申出旨其筋ヨリ達シ相成候條此段布達候事

◎甲第四十號 (明治十四年三月五日)

古來諸王ニテ奉祀ノ子孫無之方々(賜姓又ハ親王宣下ノ有無ニ拘ラス)墳墓ハ自今惣テ皇子御墓ニ準シ取扱候條各管内ニ於テ該墳墓現存ノ向ハ地方傳説等詳細取調繪圖面相添可申出其筋ヨリ達シ相成候條此段布達候事

◎甲第二十六號 (明治十五年二月一日)

埋葬地ハ常ニ臭氣ヲ蒸發シ附近ノ空氣ヲ汚穢ナラシメ人身ノ健康ヲ害スル勢ナガラサル儀ニ付左ニ掲クル市街内ノ埋葬地ハ本年五月一日ヨリ新葬禁止候條是迄別ニ共葬墓地ノ設ケナキ箇所ハ更ニ適當ノ場所撰定ノ上可願出此段布達候事

(但) 一 西條 今治 松山 三津 大洲 八幡濱 吉田 宇和島

◎丙第十四號 (明治十五年二月一日)

讀岐國ニ係ル分ハ省ク十五年丙第十號全甲第九十號參看  
十八年甲第三十五號ヲ以テ但書申改正二十四年縣令第四號ヲ以テ削除

#### 各 郡

埋火葬場ノ儀ハ常ニ不良ノ臭氣ヲ蒸散スルヲ以テ人家ニ接近スルルハ健康ノ妨害甚カラサルニ就テハ新ニ同場ヲ設ケントスルルハ人家ヲ距ル二町以外ノ地ニアラサレハ許可致サル筈ニ有之候處住々同場ニ接近シテ人民居住ノ家屋ヲ新築スルモノアリ思ハサルノ甚シキモノト謂フヘシ依テ自今右埋火葬場接近ノ地へ家屋ノ新築ヲ爲サル様郡内へ諭告可致此段相達候事

◎甲第九十號 (明治十五年三月廿三日)

本年二月甲第二十六號ヲ以テ及布達候高松丸龜以下十三ヶ所市街内埋葬地ノ新葬禁止ハ土葬ニ限り候儀ニシテ火葬ノ遺骨ヲ埋却スルハ不苦候條埋却前所轄警察署へ可届出此段布達候事

◎甲第三十二號 (明治十七年七月二日)

墓地内ニアル樹木ノ義ハ衛生上ニ關係ナ有シ最モ保存ヲ要スヘキモノニ付民有ト雖凡勝手ニ伐採不相成尤墓地ノ障害トナルガ又ハ不得止事故アリテ伐採ヲ要スル節ハ其事由ヲ詳記シ願出ヘシ

但枯損木ハ本文ノ限りニアラスト雖モ伐採前其旨所轄警察署へ届出ヘシ  
◎丙第六十五號 (明治十七年七月四日)

#### 各 郡

十七年丙第六十五號參看  
十八年甲第六十號ヲ以テ但書所シテ「警察署」ト改ム

墓地内ニアル樹木伐採ノ儀ニ付今般甲第三百二十二號ヲ以テ及布達候條枯損木伐採方届出ノ節ハ不都合無之標注意可致此旨相達候事

◎甲第二百十六號 (明治十七年十二月二十七日)

本年(十月)第二十五號公達墓地及埋葬取締規則ニ依リ細則別冊之通制定シ來ル明治十八年一月一日ヨリ施行ス

但明治十四年本縣甲第七十四號全年全甲第二百二十七號十五年全甲第二百二十九號十六年全甲第十二號十七年全甲第二號全年全甲第十五號布達ハ本則施行ノ日ヨリ取消ス

右布達候事

(別冊)

墓地及埋葬取締細則

第一條 墓地及火葬場ハ從前許可シタル區域ニ限ルモノトス

第二條 已チ得サル事情アリテ墓地及火葬場ヲ取廣メ又ハ新設スル場合ハ諸項ノ手續ニ依リ郡役所ヲ經テ縣廳ヘ願出スヘシ

一 墓地及ヒ火葬場新設ヲ要スル事情アルモ一町村各一ヶ所ニ限ル若シ一町村内部落數ヶ所ニ分レ其距離遠隔等ニテ實際増設ヲ要スルモノハ其旨ヲ願書ニ詳記スヘシ

二 墓地又ハ火葬場ヲ新設スルハ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス人家ヲ隔ル凡六十

十八年乙第七號參看

二十二年告示第五十五號ニヨリ郡役所經由テ要セサルトナル

十八年甲第四十一號ヲ以テ第四條中傳染病ノ下ヘ劃書追加

間(火葬場ハ百二十間)以上ニシテ土地高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ撰ムヘシ

三 墓地ヲ新設スル片ハ人口千人ニ付貳反歩ノ割合ヲ以テシ火葬場ヲ新設スルニハ反別凡ソ壹畝歩以內トシ可成荒蕪不毛及山林等ノ薄稅地ヲ撰擇スヘシ然レモ右等ノ地無之歟又ハ事故アリ耕地中ヘ設置ヲ要スルモノハ其事由若又官地ヘ設置ヲ要スル片ハ相當代價取調拂下之義等願書ニ詳記スヘシ而シテ新設願書ハ總テ其町村總代二名以上及衛生委員連署ノ上差出スヘシ

但四隣ノ地形明瞭ニ模寫シ夫々色分ヲナシ國道縣道大川人家飲用水ノ距離ヲ詳記シタル圖面ヲ願書ニ添フヘシ

第三條 墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ニ葬ルコトヲ得其從前別段ノ習慣アル者ハ此限ニアラス

但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一隅ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スルモノトス

第四條 傳染病(虎列刺病、發疹瘰癧扶私病、痘疹病)死屍埋葬ハ郡村地ニ限り通常墓地ノ人家ヲ隔ル百二十間以外ニシテ國道縣道鐵道大川ニ沿ハス且土地高燥飲用水ニ障ナキ地ノ一隅ヲ區劃シ埋葬スルヲ得

但本文墓地ノ新設ヲ要スル片ハ本則第二條第二項第三項ニ準シ願出ルハ勿論猶人家ヲ隔ル百二十間以外ノ地ヲ撰フヘキモノトス

第五條 墓地ノ周圍(墓地ト墓地ニ非サル地トノ境界ヲ云フ)ニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塙塙ヲ存スヘカラサルモノトス



但従前ヨリ現存スル者ハ此限ニアラス

第六條 墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除及修繕ヲ怠ルヘカラス

第七條 火葬場ハ火燭烟筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ装置ヲナシ且周圍ニ塀垣ヲ設クヘシ  
但山林原野等ニシテ人家ヲ隔タル場所ナルハ格別ナリトス

第八條 火葬ハ成ルヘク日没後之ヲ行フヘシ

第九條 墳穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別ナリトス

第十條 墓地及ヒ火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其姓名ハ其町村總代ヨリ(分署所轄ハ分署ヲ經テ)所轄警察署及(戸長役場)ヲ經テ(郡役所)へ届ケ置クヘシ

第十一條 取締規則第七條ニ依リ墓地ノ内外ヲ問ハズ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻スル碑標ヲ建立セントスルハ其碑標ノ圖面及碑文ヲ添ヘ所轄警察署へ願出許可ヲ受クヘシ尤死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止リ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セサル墓標ハ此限リニ非ス

但墓地外ノ官有地又ハ全社寺境内地ニ碑標ヲ建設セントスルハ其使用ノ箇所面積實測ハ勿論其近傍地景地目社寺境内ハ其建造物ノ位置等明瞭ナル色分圖面相添ヘ別途地所使用ノ義縣廳へ願出許可ヲ受クヘシ

第十二條 死亡届埋火葬執行並ニ醫師檢案書「戸長」認可証請求及附與等ノ手續ハ左ノ諸項ニ從フヘシ

十九年甲第五號ヲ以テ第十一條改正

一 死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ主治醫ノ死亡届書ヲ添ヘテ「戸長」ノ認可証ヲ乞フヘシ

但火葬ノ遺骨ヲ墓地へ埋葬セントスルモノモ亦別ニ「戸長」ノ認可証ヲ乞フヘシ

二 醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノヲ埋葬又ハ火葬セント欲スルハ速ニ最寄醫師ニ就キ死體檢案書ヲ請求シ自家ノ死亡届書ニ添ヘテ「戸長」ノ認可証ヲ乞フヘシ

三 妊娠四ヶ月以上ニシテ死胎分娩ニ係ルハ速ニ最寄醫師若クハ産婆ノ死産証ヲ請求シ自家ノ死亡届書ニ添エテ「戸長」ノ認可証ヲ乞フヘシ

但出産ノ後一時呼吸シテ死亡セシ者ハ先ツ出産届ヲナシ更ニ死亡届ノ手續ヲナスヘシ

四 變死ニ係ルハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒ自家ノ死亡届書ニ添ヘテ「戸長」ノ認可証ヲ乞フヘシ

但變死ニ係リタル者ハ假令二十四時間以内ト雖モ檢視官ノ許可ヲ得ルニ於テハ埋火葬スルヲ得

五 囚徒ノ死屍ヲ引取埋葬又ハ火葬セント欲スルモノハ獄醫ノ死亡証書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒ之ヲ以テ「戸長」ノ認可証ヲ乞フヘシ

六 患者死亡シタルハ主治醫ニ於テ即時第一號書式ノ届書一通ヲ作り調印ノ

十八年甲第十九號  
十九年甲第二十號  
二十一年甲第二十一號  
二十二年甲第二十二號  
二十三年甲第二十三號  
二十一年甲第二十三號  
二十二年甲第二十四號  
二十三年甲第二十五號  
二十一年甲第二十六號  
二十二年甲第二十七號  
二十三年甲第二十八號  
二十一年甲第二十九號  
二十二年甲第三十號  
二十三年甲第三十一號  
二十一年甲第三十二號  
二十二年甲第三十三號  
二十三年甲第三十四號  
二十一年甲第三十五號  
二十二年甲第三十六號  
二十三年甲第三十七號  
二十一年甲第三十八號  
二十二年甲第三十九號  
二十三年甲第四十號  
二十一年甲第四十一號  
二十二年甲第四十二號  
二十三年甲第四十三號  
二十一年甲第四十四號  
二十二年甲第四十五號  
二十三年甲第四十六號  
二十一年甲第四十七號  
二十二年甲第四十八號  
二十三年甲第四十九號  
二十一年甲第五十號

- 七 上死者ノ家人ニ附與スベシ
- 死体檢案ヲ請フ者アルハ醫師ハ何時ニテモ之レニ應シ死体ヲ檢案シ第二號書式ニ依リ死胎分娩ニ係ルモノ其檢案ヲ乞フ者アルハ醫師又ハ產婆ハ全樣速ニ之レニ應シ死屍ヲ檢案シ第三號書式ニ依リ檢案書一通ヲ作り其家人ニ附與スベシ此場合ニ於テ死体ニ異狀アルカ又ハ疑ハシキ景狀アリト認ムルハ直ニ最近ノ警察署又ハ分署ヘ申報スベシ
- 八 「戸長」ハ死亡ニ係ル屆書檢案證書等ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬ノ認許證ヲ與フヘカラス
- 九 「戸長」ニ於テハ死者ノ家人ヨリ差出ス處ノ屆書ヲ調査シ死亡ハ第四號死胎分娩ハ第五號書式ノ埋火葬認許證ヲ作り其家人ニ附與スベシ
- 十 住所氏名不詳ノ變死又ハ行倒等ノ死屍ヲ(檢視濟)戸長役場ニ於テ假ニ埋葬ヲ行ハントスル場合ハ其旨ヲ其墓地ノ管理者ニ報告スベシ
- 十一 傳染病ノ死体ハ墓地及埋葬取締規則第三條時間ノ限ニアラス
- 十二 墓地ノ區域ハ本則第一條ニ掲グルカ如シト雖モ全第二條二項ニ抵觸スル一己人持ノ墓地ニ於テハ左ノ諸項ヲ除ク外自今埋葬スルヲ許サス
  - 一 火葬ノ遺骨ヲ埋葬セントスルハ所轄警察署又ハ分署ヘ届出然ル後之ヲ執行スベシ
  - 二 夫妻ノ内已ニ死セル一人ヲ埋葬シ今後其夫又ハ妻ノ死屍ヲ合葬セント

十八年乙第七十七號參看

十八年甲第八十五號  
十九年甲第八十六號  
二十年甲第八十七號  
二十一年甲第八十八號  
二十二年甲第八十九號  
二十三年甲第九十號  
二十一年甲第九十號  
二十二年甲第九十一號  
二十三年甲第九十二號  
二十一年甲第九十三號  
二十二年甲第九十四號  
二十三年甲第九十五號  
二十一年甲第九十六號  
二十二年甲第九十七號  
二十三年甲第九十八號  
二十一年甲第九十九號  
二十二年甲第一百號  
二十三年甲第一百零一號  
二十一年甲第一百零二號  
二十二年甲第一百零三號  
二十三年甲第一百零四號  
二十一年甲第一百零五號  
二十二年甲第一百零六號  
二十三年甲第一百零七號  
二十一年甲第一百零八號  
二十二年甲第一百零九號  
二十三年甲第一百一十號  
二十一年甲第一百一十一號  
二十二年甲第一百一十二號  
二十三年甲第一百一十三號  
二十一年甲第一百一十四號  
二十二年甲第一百一十五號  
二十三年甲第一百一十六號  
二十一年甲第一百一十七號  
二十二年甲第一百一十八號  
二十三年甲第一百一十九號  
二十一年甲第一百二十號  
二十二年甲第一百二十一號  
二十三年甲第一百二十二號  
二十一年甲第一百二十三號  
二十二年甲第一百二十四號  
二十三年甲第一百二十五號  
二十一年甲第一百二十六號  
二十二年甲第一百二十七號  
二十三年甲第一百二十八號  
二十一年甲第一百二十九號  
二十二年甲第一百三十號  
二十三年甲第一百三十一號  
二十一年甲第一百三十二號  
二十二年甲第一百三十三號  
二十三年甲第一百三十四號  
二十一年甲第一百三十五號  
二十二年甲第一百三十六號  
二十三年甲第一百三十七號  
二十一年甲第一百三十八號  
二十二年甲第一百三十九號  
二十三年甲第一百四十號  
二十一年甲第一百四十一號  
二十二年甲第一百四十二號  
二十三年甲第一百四十三號  
二十一年甲第一百四十四號  
二十二年甲第一百四十五號  
二十三年甲第一百四十六號  
二十一年甲第一百四十七號  
二十二年甲第一百四十八號  
二十三年甲第一百四十九號  
二十一年甲第一百五十號  
二十二年甲第一百五十一號  
二十三年甲第一百五十二號  
二十一年甲第一百五十三號  
二十二年甲第一百五十四號  
二十三年甲第一百五十五號  
二十一年甲第一百五十六號  
二十二年甲第一百五十七號  
二十三年甲第一百五十八號  
二十一年甲第一百五十九號  
二十二年甲第一百六十號  
二十三年甲第一百六十一號  
二十一年甲第一百六十二號  
二十二年甲第一百六十三號  
二十三年甲第一百六十四號  
二十一年甲第一百六十五號  
二十二年甲第一百六十六號  
二十三年甲第一百六十七號  
二十一年甲第一百六十八號  
二十二年甲第一百六十九號  
二十三年甲第一百七十號  
二十一年甲第一百七十一號  
二十二年甲第一百七十二號  
二十三年甲第一百七十三號  
二十一年甲第一百七十四號  
二十二年甲第一百七十五號  
二十三年甲第一百七十六號  
二十一年甲第一百七十七號  
二十二年甲第一百七十八號  
二十三年甲第一百七十九號  
二十一年甲第一百八十號  
二十二年甲第一百八十一號  
二十三年甲第一百八十二號  
二十一年甲第一百八十三號  
二十二年甲第一百八十四號  
二十三年甲第一百八十五號  
二十一年甲第一百八十六號  
二十二年甲第一百八十七號  
二十三年甲第一百八十八號  
二十一年甲第一百八十九號  
二十二年甲第一百九十號  
二十三年甲第一百九十一號  
二十一年甲第一百九十二號  
二十二年甲第一百九十三號  
二十三年甲第一百九十四號  
二十一年甲第一百九十五號  
二十二年甲第一百九十六號  
二十三年甲第一百九十七號  
二十一年甲第一百九十八號  
二十二年甲第一百九十九號  
二十三年甲第二百號

- スル情願アルハ其事由ヲ詳記シ所轄警察署又ハ分署ヘ願出許可ヲ受ヘシ
- 第十三條 葬主ハ「戸長」ヨリ受ケタル認許證ヲ埋火葬場管理者ヘ差出シ葬儀ヲ執行スベシ
- 第十四條 管理者ハ葬主ヨリ領收シタル「戸長」ノ認許證ヲ編纂シ每三ヶ月所轄警察署又ハ分署ノ檢閱ヲ受ケテ「戸長役場」ヘ差出スベシ
- 第十五條 管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クベシ
- 第十六條 火葬ノ灰ハ其管理者ニ於テ時々其境內ノ一隅ヘ埋却スベシ
- 第十七條 改葬ヲサント欲スル者ハ第六號書式ニ依リ親屬連署ノ上「戸長役場」ヲ經テ現在埋葬墓地ヲ所轄スル警察署ヘ願出許可ヲ受ケ該證書ハ現在埋葬ノ墓地管理者ニ示シ尙改葬スヘキ墓地管理者ニ差出シ之ヲ行フベシ  
但改葬スヘキ墓地他ノ警察署所轄ニ係ルハ本文許可寫ヲ添ヘ該警察署ヘ届出ヘシ
- 第十八條 墓地及火葬場取締上ニ關シ警察官又ハ巡查ヨリ指揮ヲ受タル場合ニ於テハ管理者ハ之レニ從フベシ
- 第十九條 墓地及埋葬取締規則並ニ此細則ニ違背シタルモノハ本縣違警罪ニ依リ處分セラルヘシ  
但細則第五條及第十二條中第八項第九項第十項ハ本文ノ限ニアラス  
第一號書式(用紙美濃又ハ大半紙)

死亡届

何府(縣)何國郡(町)村(番地)或ハ寄留身分  
何某(父母兄弟妻子等)

姓 名

年 齡

一 戶主ノ職業(但シニ業以上ヲ兼ルモノハ其主ナル業ヲ記載スヘシ)

一 死者ノ職業(但書前同上)

一 病 名

一 原 因

一 死亡ノ年月日午前午後何時

右者拙者主治ノ患者ニ候處死亡候ニ付此段及御届候也  
何國郡(町)村(番地)身分

年 月 日

醫 師 姓 名 印

「戸 長」宛

第二號書式(用紙同上)

死體檢按書

何(府縣)何國郡(町)村(番地)或ハ寄留(身分)

何某(父母兄弟妻子等)

姓 名 年 齡

一 戶主ノ職業(但書前同上)

一 死者ノ職業(但書前同上)

一 病名

一 死亡原因ヲ詳記スヘシ

一 死亡ノ年月日午前午後何時

右之者前書ノ原因ニヨリ死亡シタルニ相違無之モノト檢按候也

何郡何(町)村(番地)身分

年 月 日 時

醫 師 姓 名 印

「戸 長」宛

第三號書式(用紙全上)

死胎分娩檢案書

何(府縣)何國郡(町)村(番地)或ハ寄留(身分)

何某(妻妾或ハ私生)

職業(但ニ業以上ヲ兼ル者ハ其  
主ナル業ヲ記載スヘシ)

姓 名

年 齡

十八年甲第十九號  
ヲ以テ第三號書式  
第三項何時ノ下  
男女ノ二字挿入

十三年布告第三十  
六號ニヨリ安消  
滅十八年三月十四  
日無號達參看

十八年甲第十九號  
ヲ以テ「男女」ノ二  
字挿入

- 一 妊娠年月
- 一 死胎分娩ノ原因ヲ詳記スヘシ
- 一 年月日午前午後何時(男女)死胎分娩
- 右ハ前書ノ原因ニヨリ死胎分娩致シタルニ相違無之モノト檢察候也

年月日  
「戸長」宛  
醫師或ハ産婆 姓名 印

第四號書式 (用紙西ノ内四ツ切)

第何號

埋火葬ノ証

- 一 住所
- 一 職業
- 一 病名
- 一 死者姓名
- 一 何某父母兄弟妻子等ノ別
- 一 年齢
- 一 死亡ノ年月日午前午後何時

右死屍ヲ本月何日何時以后何郡村字何々へ埋葬或ハ火葬スルヲ認許ス  
年月日 何郡町村 「戸長」 姓名 印

(火葬ノ遺骨埋葬ニ係ルルハ本文書式中死屍トアルヲ遺骨トシ何時以后ノ四字

ヲ删除ス)

第五號書式 (用紙同上)

第何號

死胎分娩屍埋火葬ノ証

- 一 住所
- 一 男女ノ別
- 右死胎分娩屍ヲ本月何日何時以后何郡村字何々へ埋葬又ハ火葬スルヲ認許ス
- 一 何某妻女等ノ死体分娩屍
- 一 死胎分娩ノ年月日午前午後何時

年月日 何郡町村 「戸長」 姓名 印

第六號書式 (用紙美濃又ハ大半紙)

改葬ノ義ニ付願

何年何月何病死(又ハ何死)

故氏名

何國何郡何(町村)何々墓地ニ埋葬  
右ハ私(父母兄弟姉妹妻子)ニ有之候處今般何々(改葬スヘキ事由ヲ詳記スヘシ)  
ニ付何國何郡何(町村)何々墓地へ改葬仕度候間御許可被成下度此段奉願候也

何縣何國何郡何(町村)番地族籍

年月日 願主 姓名 印

肩書全上

親族 姓名 印

愛媛縣 何警察署御中

◎乙第二百二十四號 (明治十七年十二月廿七日)

各警察署分署 各郡町村

墓地及火葬場ノ管理者選定方並墓地火葬場等ニ關スル費用收支法ハ左ノ諸項ニ依リ「戶長役場」ニ於テ可爲定此旨相達候事

- 一 共葬墓地又ハ共有火葬場ノ管理者ハ土地ノ便宜ニ依リ其一町村若シクハ關係アル數町村聯合シテ一人ヲ置カシムヘシ
- 一 共葬ニアラサル墓地(寺院持又ハ檀家持若クハ一己人持)ノ管理者ハ左ノ例ニ從ハシムヘシ
- 一 寺院持ニ係ル管理者ハ其任職又ハ檀家中ニテ便宜一人ヲ選定セシムルモノトス
- 一 檀家持ニ係ル管理者モ亦前項ノ例ニ依ラシムルモノトス
- 一 一己人ニ係ル管理者ハ其本人ニ於テ定メサスモノトス
- 一 共有ニアラサル火葬場ノ管理者ハ其持主又ハ本場設置願總代等ニ於テ定メサスヘシ

- 一 共葬墓地及共有火葬場ノ管理者給料又ハ墓地ノ圖面及墓籍調製等ノ爲メニ要スル諸費ハ其一町村又ハ關係アル數町村若クハ葬主ヨリ支辨スヘキモノニ付其支出方ハ便宜協議セシムヘシ
  - 一 寺院持又ハ檀家持ニ係ル前項ノ費用ハ其寺院又ハ檀家中ヨリ支辨スヘキモノニ付便宜協議セシムヘシ
  - 一 一己人持ニ係ル前項ノ費用ハ其本人ノ自辨タラシムヘシ
  - 一 墓地買入ノ代價及火葬焼口手数料等ノ義ハ其地ノ慣習ニ從テ慣習ナキ者ハ其管理者ト葬主者ノ協議ニ任セシムヘシ
- 警第五十五號 (明治十七年十二月廿七日)

「警察本署」警察署

分署

本年甲第二百十六號ヲ以テ墓地及埋葬取締細則布達候ニ付テハ左ノ心得ニ依リ取締事務可取扱此旨相達候事

取締事務取扱心得

第一條 各警察署分署ニ於テハ所轄内墓地及火葬場へ時々巡查ヲ巡邏セシメ墓地及埋葬取締規則並ニ細則ニ依リ取締ヲ爲サシムヘキハ勿論若刑法等ヲ犯シタル者アリタルハ治罪ノ手續ヲ爲スヘシ且墓所崩壞シ棺槨顯出スルカ若クハ石碑塀欄等顛倒ノ虞アル場合ニ於テハ速ニ其持主ニ修補ヲ爲スヘキ旨其管理者ヲシ

十九年警第一號ヲ以テ第四條中一取調サセシメ下割註及「許否スヘシ」ノ下「尤」以下追加

テ傳達セシムヘシ

第二條 墓地及火葬場ノ新設ヲ縣廳ヘ願出タルルハ時宜ニ依リ所轄警察署ヘ實地検査方ヲ命スルヲアルヘシ尤此場合ニ於テハ故障ナキヤ否ヲ詳密取調申報スヘシ

第三條 警察署分署ニ於テハ所轄内墓地及火葬場管理者ノ住所氏名ヲ帳簿ニ登記シ出入アル毎ニ加除訂正スヘシ

第四條 警察署ニ於テ誌銘傳贊等ノ碑文ヲ刻セル碑表建設願ヲ受込タルルハ先其碑文ノ保安上ニ障害アルヤ否ヲ審按シ猶巡查ヲ實地ニ派遣シ他ニ妨害ノ有無ヲ取調サセ(墓地外ノ官有地又ハ全社寺境内ナルルハ地所使用許可ノ有無ヲモ問糺シ)然ル後之ヲ許可スヘシ尤官有地又ハ官民有地社寺境内ニ建設ヲ許可シタルルハ其願書及碑文寫ヲ添ヘ「警察本署」ヘ報告スヘシ

但碑文ノ保安上ニ障害スルト否トニ就キ疑惑ヲ生シタル場合ハ經同ノ上指揮ヲ爲スヘシ

第五條 規則第七條ニ違背シタル者アルルハ違警罪ヲ以テ處分ノ上仍ホ碑表ヲ取除カシムヘシ

第六條 警察署ニ於テ改葬願ヲ受込タルルハ篤ト其事山ヲ取糺シ其情狀ノ當否ヲ審按シ許否ノ指令ヲ爲スヘシ尤其許可シタルルハ別ニ左ノ書式ニ依リ認可ノ証ヲ付與スヘシ

書式 (用紙十三行野紙)

改葬認許証

何年何月何日(何病又ハ何死)

故 氏 名

何國何郡何町(村)何墓地へ埋葬

右ハ今般何國何郡何(町村)何某願ニ依リ何國郡(町村)何々墓地へ改葬スルヲ認許ス

年 月 日 何 警 察 署

第七條 碑標建設願並ニ改葬願ヲ許否シタルルハ其回議書及願書碑文等別ニ編輯保存スヘシ

第八條 管理者ヨリ三ヶ月毎ニ「戸長」ノ認許証ヲ差出シタルルハ毎葉檢閲シ異議アレハ相當ノ取調ヲ爲シ異議ナケレハ左ノ書面ヲ作り認許証ニ添ヘ下渡スヘシ

書式 (用紙十三行野紙)

何國何郡何(町村)字何々(墓地火葬場)管理者何某ヨリ差出シタル何年何月ヨリ何月迄三ヶ月分(埋葬火葬)「戸長」認許証檢閱候事

何警察署又ハ

何警察署何分署印

年 月 日 各警察署 各分署

各郡町村

明治十七年甲第二百十六號布達中管理者撰定迄ハ「戸長」ニ於テ假リニ管理者ヲ置キ規則ニ依リ施行スルモ不苦此旨相達候事

◎乙第七十六號 (明治十八年四月二十日)

何警察署各分署

各郡町村明治十七年(十二月)甲第二百十六號布達墓地及埋葬取締細則第十二條十

項住所氏名不詳ノ變死又ハ行倒ノ死屍檢視濟ミ「戶長役場」ニ於テ假ニ埋葬ヲ行ハ  
ントスル場合ハ死後二十四時間以内ト雖モ執行スルヲ得此旨相達候事

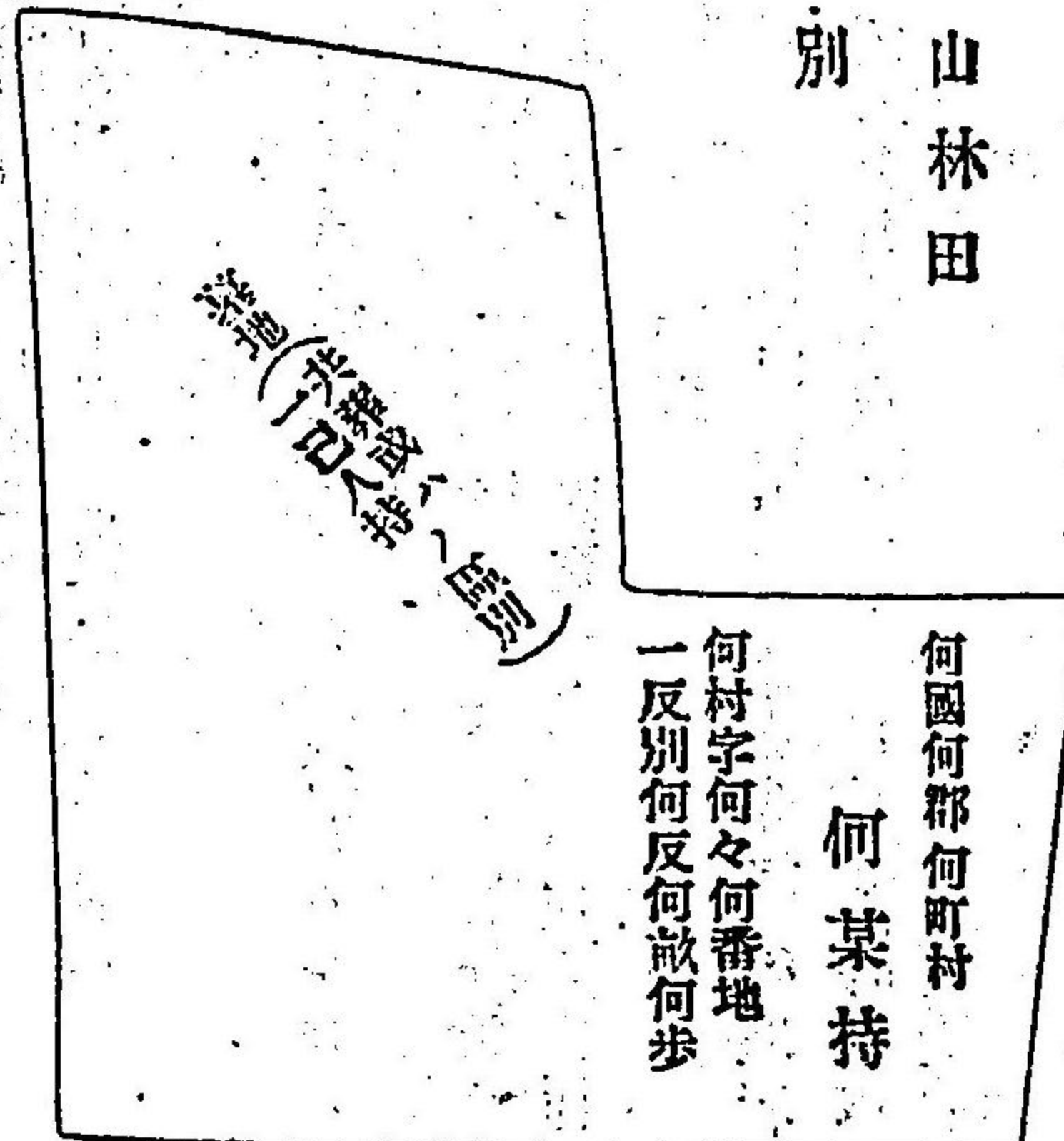
◎乙第百十七號 (明治十八年六月十一日)

各郡町村 各警察署  
各分署

明治十七年甲第百十六號布達墓地及埋葬取締細則第十五條ノ墓地給圖及墓籍ハ  
別紙離形ノ通調製スヘキ旨「戶長」ヨリ墓地管理者ヘ告示可致此旨相達候事

墓地外山林田

畑ノ區別



墓籍ノ離形 (備考 番號ハ毎年改ムルモノトス)

| 何何號 | 番號  |     | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 |
|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
|     | 月日  | 月日  |     |     |     |     |     |     |
| 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 |
| 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 |
| 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 |
| 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 |
| 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 |
| 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 | 何何號 |

### 第八章 獸醫及蹄鐵工

二十三年訓令第四三八號參看

◎告示第九十八號 (明治二十三年九月九日)

明治二十三年法律第三十一號蹄鐵工免許規則第十二條ニ據リ蹄鐵工假免狀ノ下付ヲ農商務省ニ出願セント欲スル者ハ其營業地ノ區域ヲ定メ之ヲ願書中ニ記載シ尙該業ニ關スル履歷書ヲ添ヘ町村ハ郡長市ハ市長ヲ經テ當廳ニ差出スヘシ

◎訓令四三八號 (明治二十三年九月九日)

郡役所 市役所

本縣告示第九十八號ニ依リ蹄鐵工假免狀ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ其營業區域ノ廣袤地勢ノ便否馬匹ノ頭數及許可スヘキ營業年限等ヲ調査シ其意見書ヲ付シ進達スヘシ

右訓令ス

◎縣令第六十號 (明治二十三年十一月二十一日)

明治二十三年法律第七十六號獸醫免許規則第十四條ニ據リ獸醫假免狀ヲ得タルモ其區域内ニ於テ獸醫免許規則第二條ノ資格ヲ以テ免狀ヲ得タル獸醫ノ新ニ開業スル者アルトキハ免許年限中ト雖トモ假免狀ヲ返納セシムルコトアルヘシ

◎訓令第九十六號 (明治二十三年十一月二十一日)

郡役所 市役所

二十四年訓令第二十四號ヲ以テ「其營業」以下八字ヲ「營業」以下十五字ニ改ム  
二十三年訓令第九十六號參看  
二十四年告示第四十三號ヲ以テ「營業」以下八字ヲ「營業」以下十五字ニ改ム

本縣告示第二百二十三號ニ依リ獸醫假免狀ノ下付ヲ出願スル者アルトキハ營業ヲ許可スヘキ區域並ニ其廣袤地勢ノ嶮夷區域内牛馬ノ頭數及許可スヘキ營業年限等ヲ調査シ其意見書ヲ付シ進達スヘシ

◎告示第二百二十三號 (明治二十三年十一月二十一日)

明治二十三年八月法律第七十六號獸醫免許規則第十四條ニ依リ獸醫假免狀ノ下付ヲ農商務省ニ出願セント欲スル者ハ該業ニ關スル履歷書ヲ添ヘ町村ハ郡長市ハ市長ヲ經テ當廳ニ差出スヘシ

◎縣令第三十一號 (明治二十四年六月十二日)

獸醫ニシテ其開業地ヲ變更シ又ハ新ニ其出張所ヲ設ケ若クハ其出張所ヲ移轉セント欲スルモノハ其場所ヲ定メ郡市役所ヲ經テ豫メ届出ツヘシ其既ニ開業地ヲ變更シ出張所ヲ設ケタルモノハ此ノ手續ニヨリ直ニ届出ツヘシ

### 第九章 屠畜及斃畜

◎甲第五百五十五號 (明治十七年九月十五日)

獸畜埋瘞及燒棄場設置方左之通相定ム

第一條 從來埋瘞及燒棄場ノ設ケナキ向ハ共用ノ場所ヲ撰定シ其地名地目反別等ヲ詳記シ圖面ヲ添ヘ町村總代二名以上及「衛生委員」連署ノ上來ル十月三十日限リ出願スヘシ



但一町村以上各壹ヶ所ニ限ル若シ不得止事故アリテニヶ所以上ノ設置ヲ要スルルハ其事由ヲ詳記スヘシ

第二條 願書ヘ添付スル圖面ハ四隣ノ地形等ヲ明瞭シ各々着色區分スヘシ  
第三條 新築場所ハ可成荒蕪不毛又ハ山林等薄税ノ地ニシテ三畝歩以下タルヘシ但耕地等ハ設置ヲ要スル場合又ハ不得止シテ官地ヲ要スルルハ其事由ヲ詳記シ出願及ヒ官地拂下ノ手續ヲナスヘシ

第四條 人家及ヒ井泉河流等ニ接近シ總テ衛生上ノ障害トナル場所ハ之ヲ設ク可ラス  
但在來ノ場所ト雖モ本條ニ抵觸スルモノハ之レヲ改設スヘシ

第五條 既設新設ヲ問ハス總テ埋瘞場ハ傳染病死ト通常病死ト區域ヲ立ツ可シ  
第六條 設置場外ニ於テ埋瘞又ハ燒棄スルモノハ刑法違警罪ニ依リ之レヲ處分セラルヘシ

三十二年訓令第五十七號參看

◎縣令第十四號 (明治二十年一月二十四日)  
屠畜營業取締規則左ノ通改正シ來ル三月一日ヨリ施行ス

但明治十四年甲第二百十八號全甲第二百六十二號布達全乙第六百六十二號達ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

屠畜營業取締規則

第一條 屠畜營業ヲナサントスルモノハ郊外便宜ノ地ヲ撰ミ第一號式ノ願書ニ入

家道路河泉等ノ距離ヲ記シタル圖面ヲ添ヘ地元戸長及郡長ヲ經テ出願許可ヲ請クヘシ  
但血液内臟其他ノ棄廢物ヲ埋却セントスルルハ本文ニ準シ許可ヲ請クヘシ

第二條 屠場ニハ必ス外圍ヲ設ケ第二號式ノ標札ヲ掲ケ置クヘシ  
第三條 屠場ハ專ラ清潔ヲ旨トシ屠殺ノ都度速ニ掃除シ血液内臟其他ノ棄廢物ヲ肥料ノ爲メ一時貯藏スルルハ堅牢ナル溜壺等ニ容レ之ヲ密閉シ臭氣ノ飛散ヲ拒クヘシ

第四條 屠殺ヲナサントスルルハ第三號式ニ準シ前日迄ニ所轄警察署又ハ分署若クハ「交番所」ニ届出臨檢ヲ乞フヘシ

第五條 臨檢官ニ於テ屠殺スヘキ畜類ニ疾病又ハ其他ノ故障アリテ屠殺スヘカラスト認ムルルハ一時之ヲ停止スルコトアルヘシ

第六條 屠畜營業人ハ屠畜ヲ買入タル都度其賣主ノ住所氏名及畜類ノ種別牝牡毛色頭數其月日ヲ記載シ三日以内ニ所轄警察署又ハ分署若クハ「交番所」ヘ届出檢印(第四號式ニ據ル)ヲ受クヘシ

第七條 屠殺スル畜類ハ營業人ニ於テ買入ノ後少クモ五日以上飼養シタルモノニ限ルヘシ

第八條 屠場内ニハ疾病アル畜類ヲ牽入ルヘカラス若シ飼養中疾病ニ罹ルモノアルルハ速ニ之ヲ隔離スヘシ

二十年縣令第六十二號ヲ以テ第六條中届出ノ下「スヘシ」ヲ「檢印」以下十四字ニ改ム

二十一年縣令第二十八號ヲ以テ第十條改正

第九條 屠畜場ニ於テハ斃畜ノ剖割ヲ爲スヲ許サス  
第十條 屠畜肉ハ其毎片ニ臨檢官ノ檢印(第四號第五號式ニ據ル)ヲ請ケタル後ニアラサレハ販賣受授スルヲ得ス  
第十一條 屠畜肉販賣者ニ卸賣ヲナスルハ其住所姓名及肉ノ斤量ヲ其都度詳悉帖簿ニ記載シ置クヘシ  
第十二條 本則第五條ヲ除キ此規則ニ違反シタルモノハ刑法第四百二十六條第四項ニヨリ罰セラルヘシ  
第一號願書式  
屠畜營業之儀ニ付願

屠畜營業之儀ニ付願

今般何郡何村字何番地ニ於テ屠畜營業仕度候ニ付別紙圖面相添ヘ此段奉願候也

郡(町村)番地身分

年月日

氏名印  
氏名印  
氏名印  
「戸長」

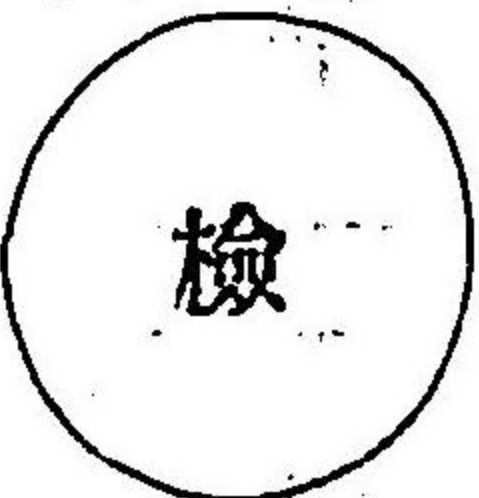
知事宛

△營業人ノ住所ト營業地ノ異ナル片ハ其住所々轄「戸長」ノ連署ヲ要ス  
第二號標札式  
△印ハ朱書

豎曲尺 二尺

第三號屠畜届式  
屠殺届  
明幾日何時ヨリ左ノ通屠殺仕候ニ付御臨檢被成下度此段御届仕候也  
一何々 一、 一、 一、  
△書ハ朱書  
屠畜營業人 氏名印  
住所身分  
警察署宛 (分署又ハ「交番所」)  
第四號烙印式  
警察署宛 (分署又ハ「交番所」)  
△書ハ朱書

|         |    |    |
|---------|----|----|
| 横       | 七  | 寸  |
| 免許屠畜場   |    |    |
| 郡町村番地   |    |    |
| 氏名      | 氏名 | 氏名 |
| 營業者ノ居住地 |    |    |
| 木製      |    |    |



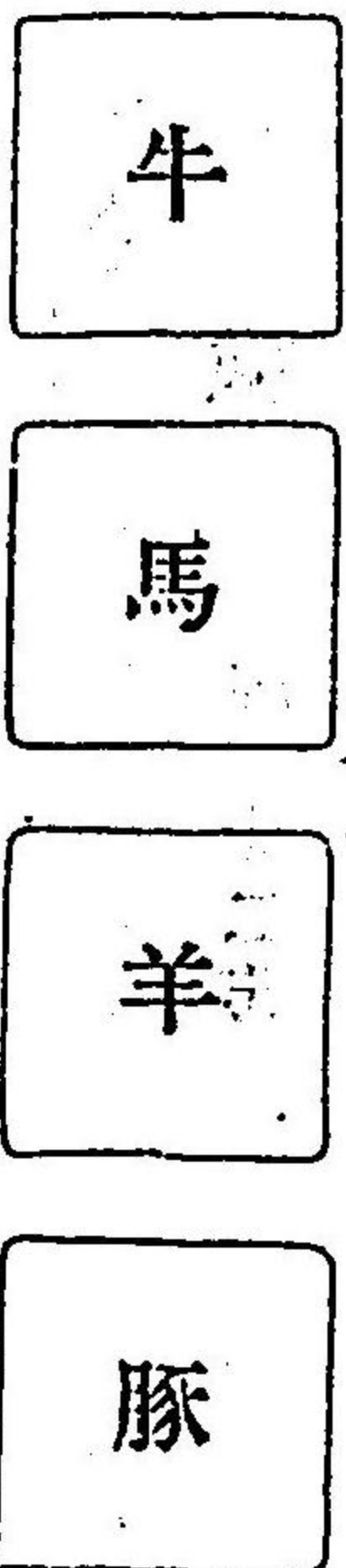
經一寸二步

第五號黑印式

二十一年縣令第二十八號ヲ以テ第五號式追加

二十年甲第五十八號二十年訓令第五十七號參看

經一寸二步以下全シ



◎縣令第二十號 (明治二十年一月二十四日)

斃畜剖割取締規則左ノ通相定メ來ル二月一日ヨリ施行ス

但明治十八年甲第三號布達ハ本文施行ノ日ヨリ廢止ス

斃畜剖割取締規則

- 第一條 斃畜ハ許可ヲ得タル獸畜埋焼却場又ハ本則ニヨリ許可ヲ得タル場所ニアラサレハ之ヲ剖割スルヲ許サス
- 第二條 斃畜剖割場ヲ設ケントスルホハ人家道路及河泉等ヲ離レタル地ヲ撰ミ第一號式ノ願書ニ圖面ヲ添ヘ地元「戸長」及「郡長」ヲ經テ出願許可ヲ請クヘシ
- 第三條 斃畜剖割場ニハ第二號式ノ標杭ヲ建設スヘシ
- 第四條 傳染病ニ罹リ斃死シタル畜類ハ剖割スルヲ許サス
- 第五條 斃畜ノ肉ハ食用トナスヘカラス
- 第六條 斃畜ノ剖割ヲナサントスルホハ其所有主ノ姓名及剖割ノ時日場所ヲ記シ「戸長」役場及ヒ所轄警察署又ハ分署若クハ「交番所」ニ届出スヘシ

二十二年告示第五十五號ニ依リ郡長トナル

- 第七條 剖割場ハ勉メテ清潔ヲ旨トシ筋肉骨骸臟器等其他ノ棄廢物ハ剖割ノ都度速ニ獸畜埋瘞地ニ埋却スヘシ若シ肥料ノ爲メ貯藏スルホハ堅牢ナル溜壺ニ容レ適當ノ覆蓋ヲ設ケ可成臭氣ノ飛散ヲ拒クヘシ
- 第八條 剖割場ハ警察官又ハ町村吏便宜臨檢スルコトアルヘシ
- 第九條 本則第一條第四條第五條第六條第七條ニ違反スル者ハ刑法第四百二十六條第四項ニヨリ罰セラルヘシ

第一號願書式

斃畜剖割場設置之儀願

何郡何村字何々何番地則チ別紙圖面ノ箇所へ斃畜剖割場設置致度候此段奉願候也

住所身分

年月日

氏名印  
「戸長」氏名印

知事宛

第二號標杭式



○達警第三號 (明治二十年一月二十六日)

「警察本部」各警察署  
各警察分署

今般屠畜場出張巡查心得別紙之通制定候條屠畜營業取締規則施行ノ日ヨリ實施スヘシ

(別紙)

屠畜場出張巡查心得

第一條 屠場へ出張ノ巡查ハ屠殺人及營業者其他場中ノ事ヲ監視シ屠殺及洒掃終ルニ非ラサレハ退去スヘカラス

第二條 屠畜ハ牝牡年齢毛色及所有主ノ住所氏名等ヲ記シ置キ他日取調ノ用ニ供スヘシ

第三條 屠場内外ハ出張ノ都度巡視シ畜類ノ繫キ方等ニ注意シ且不潔汚穢ノ場所アラハ速ニ掃除セシムヘシ

第四條 屠殺終リタル片ハ每肉片ニ烙印ヲナシ尙該肉場外へ搬出スル時ハ檢印ノ有無ヲ精査スヘシ

但肉片ノ大小ニ依リ數個ノ烙印ヲ爲スモ妨ケナシ

第五條 屠畜營業取締規則第五條ニ依リ一時屠殺ヲ停止セシ場合ニシテ疾病ニ罹ルノ疑ヒアル片ハ他畜ト隔離セシメ速ニ上官ニ申報指揮ヲ受クヘシ

第六條 牝牛ヲ屠殺セントスル片ハ胎孕ノ有無ニ注意シ孕牛ナレハ屠殺ヲ中止セシムヘシ

第七條 屠畜營業人ヨリ指出ス帳簿ハ屠畜ノ頭數ヲ檢査シ之ニ檢印シ其頭數及ヒ場内ノ事故ハ時々上官ニ申報スヘシ

◎甲第二十八號 (明治二十年二月二十三日)

各郡町村 各警察署

今般屠畜營業取締規則發行候處從前營業許可之者ハ各所ニ散在シ爲メニ屠殺臨檢上頗ル手數ヲ要候ニ付テハ各營業人ノ届出ニヨリ直ニ臨檢難相整場合モ可有之隨テ双方ノ不便不抄儀ニ付此際各營業人協議之上從前許可ヲ得タル場所ノ内孰レカ便宜ノ一方ニ集合營業候様示論スヘシ

但本文場所轉換ニ係ルモノハ圖面相添へ届出サシムヘシ

### 第十章 雜款

◎告第廿五號 (明治廿一年三月廿八日)

胎盤胞衣汚血又ハ屍體ノ洗滌水ハ從來之ヲ宅地内若クハ床下ニ埋却或ハ放流スルノ慣習アリ此物タル決シテ茲ニ消滅セス不良ノ瓦斯トナリテ飛散シ又地下ニ浸染シテ飲料水ヲ汚ス等人身ノ健康ヲ障害スル少小ナラストス依テ自今胎盤胞衣汚血ハ共葬墓地ノ一隅ニ埋却シ洗滌水ハ無害ノ地ヲ擇ミ運搬棄却スヘシ

但本年(一月)告第二號ハ廢止ス

右告示ス

◎訓令第八十九號 (明治二十三年十月八日)

郡役所 市役所

町村役場 警察署

洪水ノ爲メ浸水ヲ受ケタル地方ニ在テハ浸水引去リタル後直ニ各戸ニ於テ相當ノ衛生法ヲ施行セサルトキハ一種ノ熱性病ヲ發生シ尙虎列拉赤痢腸窒扶私問歇熱等ヲ發生蔓延ノ災害ヲ來スヘキモ難計ニ付左ノ心得書ニ據リ速ニ實施スヘシ

浸水後衛生法施行心得書

第一條 洪水引去リタルトキハ速ニ井戸浚ヘテ爲サシムヘシ

但浚ヘタル井戸ト雖モ當分煮沸シテ之レヲ用ヒシムヘシ

第二條 家屋内外ノ下水厠圖芥溜ハ之レヲ掃除シ然ル後生石灰又ハ石灰乳ヲ撒布セシムヘシ

但汚泥塵芥等ハ直チニ衛生上無害ノ地ニ搬送スヘシ

第三條 家屋内外ノ浸水セル部分ニシテ汚泥ノ溜滯セル場所ハ清水ヲ以テ之レヲ洗ヒタル後拭淨シ得ヘキ柱壁等ハ可成の石灰乳又ハ石炭酸水ヲ以テ拭淨シ乾燥セシムヘシ

但粗塗ノ壁ハ之レヲ塗換ユルヲ良シトス

第四條 床下ハ汚泥塵芥ヲ取除キ乾燥シタル土砂ヲ可成換換シ然ル後石灰ヲ撒布シテ充分ニ乾燥セシムヘシ

第五條 此衛生法ヲ施行ノ際ヨリ當分窓戸ヲ開キテ屋内ノ乾燥ヲ助ケシムヘシ

第六條 此衛生法ハ各市町村役場ニ於テ期日ヲ定メ各戸ニ之レヲ施行セシメ郡市吏警察官吏町村長及市町村衛生組長其施行方ヲ指揮監督スヘシ

◎訓令第二十七號 (明治二十四年四月一日)

郡役所 市役所

客年流行ノ虎列刺病ハ年末ニ至リ一旦終熄ニ販セルカ如シト雖モ病毒ハ尙餘蘖ヲ存シ府縣ニヨリテハ點々其萌芽ヲ動カシ十二年十五年十九年ノ証例ニ照ラスニ將ニ大ニ發動セントスルノ機ヲ伏シ本年ニ於テハ一層豫防清潔法ニ注意ヲ要スルノ時ナルニヨリ曩キニ冬季ニ於テ清潔法施行告諭及訓令ヲ發シタリ而シテ清潔法施行ニ於テハ一時多額ノ費用ヲ擲チ銳意乾淨チカメタルモノモ日ナラスシテ舊時ノ汚穢ニ復シ殆ント前効ヲ没スルモノ其例少ナカラス是レ一ツニ其持續方法ヲ怠ルニ由ル故ニ清潔法ヲ施行スルニ當テハ同時持續ノ方法ヲ講シ長ク清潔ヲ保チテ豫防ノ効力ヲ失ハサランコトナカムヘシ蓋シ汚穢ノ本源ハ各家ノ庖厨便所芥溜浴場等ノ諸廢物ニシテ時々刻々之ヲ生スルモノナレハ衛生組合チシテ隣保親切ヲ以テ相互ニ注意セシムルヲ良トス故ニ衛生組合ノ設置無之モノハ組長若クハ其主ナルモノヲ示諭シテ漸ク清潔チカムルノ習慣ヲ養成シ其便所芥溜ノ掃除下水ノ浚藻

及其疏通修理等組内ノ清潔法ニ注意シ親睦和合シテ其利害ヲ共ニスルノ氣風ヲ養成セシメハ萬一虎列刺其他ノ傳染病發生ノ不幸ニ遭遇スルコトアルモ其害ヲ一小部分ニ止ムルヲ得ヘキニヨリ自治的豫防ノ基礎ヲ形成セシメ惡疫流行不虞ニ備フヘキコトヲ厚ク注意スヘシ

### 第十三編 學事

#### 第一章 師範學校

二十五年文部省令  
第十二號ニヨリ規  
則消滅  
十九年告示第百七  
十八號二十年告示  
第四十九號ヲ以テ  
中學校廢止

○甲第百五十七號 (明治十六年十月十二日)  
來ル十八日ヨリ本縣師範學校附屬小學校ヲ開設ス  
但該規則ハ別紙ノ通相定ム  
○學第六四九七號 (明治十八年六月十五日)

師範學校 第一第二中學校  
第三

今般步兵操練用銃器文部省ヨリ貸渡可相成符ニ有之到着之上ハ其校ヘ可貸渡ニ就テハ該器取扱規則別紙之通相定候條不都合無之様取扱可致此旨相達候事

(別紙)

#### 銃器取扱規則

第一條 步兵操練ニ使用スル銃器ハ其學校職員等ヨリ一名乃至二名ノ銃器掛ヲ選

任シ銃器一切ノ取締ヲナサシムヘシ

第二條 銃器ハ校舍ノ一室若クハ倉庫等一定ノ場處ニ取纏メ銃架ヲ設ケテ之ヲ整理シ掛員ニ於テ許可シタルモノニアラサレハ猥リニ出入セシムヘカラス

第三條 銃器ハ步兵操練用ノ外ニ使用スルヲ得ス

第四條 銃器ハ每挺受持ノ生徒(一名若クハ數名)ヲ定メ豫メ其票號ヲ付シ演習ノ都度順次ニ之ヲ該生徒ニ交付スヘシ

第五條 銃器ノ掃除ハ前條受持生徒ヲシテ之ヲ擔任セシメ掛員ニ於テ之ヲ監査ス但銃器外裝ノ掃除ハ使用ノ都度外裝分解ノ掃除ハ月一回以上機板遊底分解ノ掃除ハ年一回又ハ二回トス

第六條 學校長ハ平素監督ノ外月一回又ハ二回期日ヲ定メテ銃器ヲ檢査スヘシ此場合ニ於テ若シ銃器ニ破損アルカ又ハ錯亂ヲ生シタルモノアルホハ速カニ修理脫蝕ノ手續ヲナサシムヘシ

第七條 銃器借用ノ學校ハ其銃器大破ノ爲メ地方ニ於テ修理スル能ハサルモノハ其狀ヲ記シ「縣令」ニ伺出ツヘシ

第八條 銃器掃除ノ方法分解結合ノ順序檢査ノ手續其他注意スヘキ要件等ハ渾テ步兵操典生兵ノ部第二章第一教(自第百五十二條至第百五十九條)ヲ適用スヘシ  
第九條 銃器借用ノ學校ハ左式ノ番號帳ヲ製シテ之ヲ保存スヘシ  
(書式)

二十年陸軍省陸運  
第六十六號ヲ以テ  
步兵操典改正

| 銃器番號調 |   |   |   |
|-------|---|---|---|
| 銃     | 名 | 銃 | 番 |
| 銃     | 號 | 號 | 號 |
| 何     | 銃 | 何 | 號 |
| 何     | 銃 | 何 | 號 |
| 何     | 銃 | 何 | 號 |
| 何     | 銃 | 何 | 號 |
| 合     | 計 | 何 | 挺 |
|       |   | 何 | 何 |
|       |   | 何 | 號 |
|       |   | 何 | 號 |
|       |   | 何 | 號 |
|       |   | 何 | 號 |

外二胴亂並ニ負革共何個添

○縣令第二十五號 (明治十九年十一月二十七日)

本縣師範學校自今愛媛縣尋常師範學校ト改稱シ規則別冊之通相定ム

○第四八〇五號 (明治十九年五月十日)

師範學校

其校卒業者服務狀況報告ノ儀本年四月甲第五十四號并乙第七十七號ヲ以テ相達置候ニ付テハ自今報告ヲ受ケタル卒業者ノ官等姓名ハ毎年三月九月ノ兩度ニ取纏メ翌月五日限り開申スヘシ此旨相達候事

○訓第二二五號 (明治廿一年十月卅日)

尋常師範學校 尋常中學校 獸醫學校

天長節紀元節新年ニハ自今其校ニ於テ職員生徒ヲ集メ祝賀式ヲ執行スヘシ右訓令ス

二十六號令第二十五號ヲ以テ規則改正

二十五年訓令第一九號ニヨリ尋常中學校消滅全第一三號ニヨリ獸醫學校消滅第二十三號ヲ以テ第一紀元節ノ下ヘ「新年」加テ

○内第五號 (明治廿三年二月十三日)

近來往々尋常師範學校ニ於テ火ヲ失スルモノアリ該校ハ其管理ノ整備注意ノ周到ナル諸學校ノ標準タルヲ要スル所ナルニ右ノ如キヲトアルハ殊ニ不都合ノ次第ニ付自今以後一層注意ヲ加ヘ取締ヲ嚴密ニスヘク猶斯ル場合ニ於テハ其責ノ歸スル處ヲ糾シ相當處分ヲ行フヘキ旨今般其筋ヨリ内訓有之候條其旨心得ラルヘシ右内訓ス

尋常師範學校長宛

近來往々尋常師範學校ニ於テ火ヲ失スルモノアリ右ハ必竟管理ノ整備注意ノ周到ナラサルニ坐スルモノニシテ此ノ如キハ他ノ學校ニ於テモ固ヨリ注意スヘキ儀ニ付自今以後一層取締ヲ嚴密ニシ不都合ナキ様注意セラルヘシ右内訓ス

中學校長宛

獸醫學校長

郡長宛

○内第九號 (明治廿三年三月六日)

師範生徒教養上ニ關シ今般文部大臣ヨリ別紙寫ノ通内訓有之候條其旨服膺セラルヘシ

二十五年訓令第一九號ヲ以テ伊豫尋常中學校廢止全年同第二一三號ヲ以テ獸醫學校廢止

右内訓ス

尋常師範學校長宛

(別紙寫)

普九四號

明治廿二年(十一月)法律第廿九號徵兵令中改正追加ニ依リ滿十七歲以上滿廿六歲以下ニシテ官立府縣師範學校ノ卒業証書ヲ所持シ官立公立小學校ノ教職ニ在ル者ハ六週間陸軍現役ニ服セシムルノ件ヲ規定セラレタリ其旨趣ハ小學校教職ハ國家教育ノ職務ヲ負擔スルヲ以テ此重要ナル責任ヲ全フセシメンカ爲メニ特ニ其國防義務ヲ輕減スルノ必要アリ而シテ又武事ノ訓練ハ善ク人ノ義質ヲ陶冶シ得ルヲ以テ教職タル者一時ハ勵メテ兵役ニ服事セシムルヲ要スレハナリ故ニ師範學校ニ於テハ生徒ヲシテ深ク此意ヲ体認セシメ其他日服役スルニ及ンテハ時日ノ短キヲ以テ之ヲ忽ニスルコトカク殊ニ奮勵シテ軍人タルノ職分ヲ盡シ爾後教務ニ復スルニ至リテハ其兵役中ニ得タル所ノモノヲ以テ之ヲ兒童ノ教養上ニ利用センコトヲ勉メ益其職ニ勵精シ以テ此特典ノ本旨ニ背カサル様平素訓練ヲ加ヘシムヘシ

右内訓ス

明治廿三年二月廿四日

文部大臣

◎告示第七十一號 (明治二十五年五月十四日)

明治十九年(十二月)文部省令第二十一號尋常師範學校尋常中學校及高等女學校教員免許規則ニヨリ檢定ヲ出願シ得ヘキ學科ノ區分左ノ通ニ付其範圍外ニ亘リ出願スル等ノ誤解ナキ様注意スヘシ

倫理 教育 國語 漢文 英語 佛語 獨語 數學 本學科ハ算術、代數、幾何、三角法、測量、解析幾何及微分積分大意迄ヲ云フト雖モ受驗人ノ望ニヨリ算術代數幾何マテノ試驗ニ止ムルコトヲ得且從前ノ免許規則ニヨリ己ニ一科若クハ數科ノ免許狀ヲ得タルモノハ其得タル科ヲ除キテ試驗ヲ受クルコトヲ得但三角法、測量、解析、幾何及微分積分大意ハ各別ニ試驗ヲ受クルコトヲ得

簿記 地理 本學科ハ受驗人ノ望ニヨリ地誌、地文ノ各科ニ分チテ試驗ヲ受クルコトヲ得

物理 化學 農業 手工 家事 習字 圖書 本學科ハ受驗人ノ望ニヨリ毛筆、西洋畫ノ各科ニ分チテ試驗ヲ受クルコトヲ得

音樂 體操 本學科ハ受驗人ノ望ニヨリ兵式體操、普通體操ノ各科ニ分チテ試驗ヲ受クルコトヲ得

◎縣令第三十五號 (明治二十五年五月二十六日)

尋常師範學校附屬小學校修業年限教科目ノ增加學級編制授業料要則等左ノ通之ヲ定メ本年六月一日ヨリ施行ス

一 修業年限

尋常小學校

四ヶ年

高等小學校

四ヶ年

一 教科目ノ増加

尋常小學校

國語 唱歌ノ二教科目ヲ加フ



但修業年限三ヶ年ノ尋常小學科ハ此限ニアラス

高等小學科

手工唱歌ノ二  
教科日ヲ加フ

學級ノ編制

尋常小學科 (修業年限三ヶ年)

單級 (男女)

七十人

尋常小學科 (修業年限四ヶ年)

第一學級(男)一學年

五十人

第二學級(女)二學年

五十人

第三學級(女)三學年

二十五人

第四學級(男)四學年

二十五人

高等小學科

第一學級(女)一學年

二十人

第二學級(男)二學年

二十人

第三學級(女)三學年

二十人

第四學級(男)四學年

二十人

授業料

尋常師範學校附屬小學校授業料規則

第一條 附屬小學校ノ授業料ハ左ノ金額ニ依リ毎月十日兒童ノ戶主(兒童戶主

ナルトキハ其保護者ヨリ)ヨリ之ヲ徵收スヘシ

但單級ニ編制シタル兒童ノ授業料ハ徵收セズ

尋常小學科

一等 一ヶ月金拾錢

高等小學科

二等 一ヶ月金五錢

第一條

一等 一ヶ月金三拾錢

第二條

二等 一ヶ月金二拾錢

但兒童戶主タル場合亦同シ

一 兒童ノ戶主所得稅ヲ納ムル資格アル者ヲ以テ一等トス

一 兒童ノ戶主所得稅ヲ納ムル資格ナキモノヲ以テ二等トス

第三條 一家ノ兒童同時ニ二人以上就學スルトキハ一人ハ全額ヲ徵收シ其他ハ

半額ヲ徵收スヘシ

第四條 兒童ノ就學ヲ許可シタル後ハ出席セシムルト否トニ拘ハラズ規定ノ授

業料ヲ徵收スヘシ

但月ノ十日前退學ヲ許可シタル者ハ半額ヲ徵收スヘシ

第五條 附屬小學校ニ於テ全月間授業ヲ休止シタル場合又ハ規定ニ依リ全月間

兒童ノ出席ヲ停止シタル場合ニ於テハ其月ノ授業料ヲ徴收セス  
 第六條 兒童品行方正學力優秀ニシテ他ノ兒童ノ模範トナルヘキ者ハ授業料ノ  
 全額若クハ一部ヲ免除スルコトアルヘシ  
 第七條 兒童ノ戶主貧窮ナルトキハ授業料ノ全額若クハ一部ヲ免除スルコトアル  
 ヘシ  
 但兒童ノ戶主タル場合亦同シ

第八條 授業料ノ息納三ヶ月ニ及フトキハ其兒童ハ退校セシムヘシ  
 但此場合ニ於テハ情狀ニ依リ息納シタル授業料ヲ棄捐スルコトアルヘシ

第九條 學校長ハ第六條乃至第八條ニ該當スヘキ者アルトキハ知事ノ許可ヲ受  
 ケ之ヲ處分スヘシ  
 ◎縣令第九九號 (明治二十六年三月十日)

明治廿五年(七月)文部省令第十號尋常師範學校生徒募集規則ニ依リ細則ヲ定ムル  
 コト左ノ如シ

尋常師範學校生徒募集規則

第一條 尋常師範學校ノ生徒ハ尋常師範學校生徒募集規則第二條ニ掲グル資格ノ  
 外尙左ノ資格アルモノニ就キ之ヲ選定スヘシ

- 一 本縣內在籍ノモノ
- 二 在學中徵兵ニ關係ナキモノ

三 在學中家事ニ係累ナキモノ

第二條 第一種ノ生徒ハ左ノ配當數ニ基キ所要ノ人員ヲ定メ各郡市ヨリ募集スヘ  
 シ但補欠ノ場合ハ此限ニアラズ

| 郡市名         | 配當人員 | 郡市名         | 配當人員 | 郡市名     | 配當人員 |
|-------------|------|-------------|------|---------|------|
| 風早 和氣       | 一七   | 宇 摩 郡       | 一〇   | 喜 多 郡   | 一三   |
| 溫泉久米郡       | 一八   | 下 浮 穴 伊 豫 郡 | 一三   | 東 宇 和 郡 | 八    |
| 越智野間郡       | 一八   | 新 居 周 布 村 郡 | 一八   | 上 浮 穴 郡 | 五    |
| 新 居 周 布 村 郡 | 一八   | 西 宇 和 郡     | 一三   | 松 山 市   | 五    |

第三條 第一種ノ生徒ヲ募集スルトキハ學校長ニ於テ薦舉スヘキ人員並其期日ヲ  
 定メ三個月前郡市長ニ通知スヘシ

第四條 第二種ノ生徒ヲ募集スルトキハ學校長ニ於テ其人員及ヒ出願並檢定ノ期  
 日ヲ定メ三個月前ニ廣告スヘシ

第五條 郡市長ニ於テ生徒ヲ薦舉スルトキハ薦舉書ニ左ノ事項ヲ添ヘテ學校長ニ  
 送付スヘシ

- 一 身体檢定ノ成績
- 二 資性品行檢定ノ成績
- 三 履歷書

第六條 學校長ハ前條ノ各項ニ依リ師範生徒タルノ資格アリト認ムルトキハ學力ノ檢定ヲ行フヘシ

第七條 總テ學力檢定ノ科目ハ修身、教育、國語、漢文、習字、算術、地理、歷史、理科ノ圖畫トシ其程度ハ高等小學校本科准教員ノ檢定試験ニ準シ之ヲ斟酌シタルモノトス但第二學年以上ノ學級ニ補欠スル場合ハ其前學年ノ學科及ヒ程度ニ依ル

第八條 尋常小學校本科准教員以上ノ免許狀ヲ有スルモノハ其履歷ニ依リ學力ノ檢定ヲ省クコトヲ得但補欠ノ場合ハ此限ニアラス

第九條 郡市長ハ尋常師範學校生徒薦舉委員ヲ常設シ薦舉生ノ檢定ニ從事セシムヘシ薦舉委員ハ學務擔任書記及市町村立小學校長又ハ首席教員ヲ以テ組織シ其人員ハ三名乃至五名トス

第十條 一種ノ生徒タラント欲スルモノハ甲號書式第二種ノ生徒タラント欲スルモノハ乙號書式ノ願書ニ履歷書ヲ添ヘ市町村長ヲ經テ願出ツヘシ

第十一條 假入學ヲ許可セラレタルモノハ十五日以内ニ丙號書式ノ誓約書ヲ造リ左ノ資格アル保証人二名連署ノ上本人及保証人本籍ノ市町村長ヲ經テ差出スヘシ但學校ヨリ一里以外ノ地ニ居住スル保証人ハ不時急劇ノ用ニ應スル爲メ其以內ニ居住スルモノヲ以テ代理人ヲ定メ双方連署ノ上届出ツヘシ

一 丁年以上ノ戸主ニシテ本縣内ニ本籍居住ヲ定ムルモノ  
二 品行方正ノモノ

三 地租若クハ所得稅三圓以上ヲ納ムルモノ

市町村長ハ保証人ヲ不適任ナリト認ムルトキハ理由ヲ附申スヘシ

第十三條 學校長ハ保証人又ハ其代理人ヲ不適任ナリト認ムルトキハ隨時更定セシムヘシ此場合ニ於テ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十三條 保証人ノ資格ニ異動ヲ生シタルトキハ速ニ更定ノ手續ヲナスヘシ

附 則

第十四條 第三條及第四條ニ定ムル通知又ハ廣告ノ期限ハ本年ノ募集ニ限り適用セス

甲號書式

尋常師範學校生徒薦舉願

私儀小學校教員志願ニ付本縣尋常師範學校ニ入學致度候條御檢定ノ上薦舉相成度尤在學中同學校ノ諸規則ハ勿論卒業ノ上ハ服務規則ヲ確守可致仍テ別紙履歷書相添此段相願候也

愛媛縣何(郡市)何(町村)何大字何番戶身分  
年 月 日 氏 名 印

乙號書式 (備考)履歷書式ハ明治十八年本縣甲第九十二號布達ニ依ルヘシ以下做之

尋常師範學校入學願

私儀小學校教員志願ニ付御檢定ノ上入學御許可相成度尤在學中ハ御校ノ諸規則ハ勿論卒業ノ上ハ服務規則ヲ遵守可致候仍テ別紙履歷書相添ヘ此段相願候也

愛媛縣何(郡市)何(町村)何大字何番戶身分

年月日

氏名印

尋常師範學校校長宛

丙號書式

本人印

証券印紙

誓約書 (用紙美濃紙)

保證人印

私儀今般假入學ノ許可ヲ得候ニ就テハ試驗生中ハ勿論本入學ノ許可ヲ得タル上ハ生徒タルハ本分ヲ保持シ諸規則命令等堅ク遵奉可致且卒業後ハ制規ノ服務ノ義務ヲ盡シ聊カ違背致間敷候萬一左ノ一項若クハ數項ニ依リ在學中給與セラレタル學費ノ償還ヲ命セラレタルトキハ御命令ノ期限内必ス完納可致候若シ完納シ能ハサル場合其他在學中身上ニ關スル事件ヲ生シ處辨シ能ハサル場合ニ於テハ保證人ニ於テ負擔可致候仍テ保證人連署誓約スルコト如件

一 不都合ノ行爲ニ依リ放校ニ處セラレタルトキ

一 傷疾疾病其他ノ事故ニ依リ退學ヲ命セラレタルトキ

一 卒業後服務ノ義務ヲ盡サ、ルトキ

一 卒業後服務年限中小學校教員免許狀ノ褫奪ノ處分ヲ受ケタルトキ

一 卒業後服務ノ義務ヲ免除セラレタルトキ

愛媛縣何(郡市)何(町村)何大字何番戶身分

入學者 氏名印

全上(寄留者ハ其住所ヲ併記ス)

保證人 氏名印

全上

保證人 氏名印

尋常師範學校校長宛

前記保證人ハ適任ト認ム

年月日 愛媛縣何(郡市)何(町村)長 氏名印

◎縣令第二十三號 (明治二十六年三月三十日)

尋常師範學校ニ附屬幼稚園ヲ置キ其規則左ノ通之ヲ定メ本年四月一日ヨリ施行ス但明治十九年(四月)甲第五十九號及之ニ關スル從前ノ規程ハ本令施行ノ時期ヨリ廢止ス

愛媛縣尋常師範學校附屬幼稚園規則

第一條 附屬幼稚園ニ於テハ年齢滿三年以上學齡未滿ノ幼兒ヲ保育ス但學齡ニ達スルモ就學ノ時期マテハ在園セシムルコトヲ得

第二條 幼兒ノ定員ハ百名トシニ組ニ編制ス

第三條 幼兒ノ入園ハ時期ヲ定メス欠員ナルニキ之ヲ許ス

第四條 附屬幼稚園ノ休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ  
 祝日 大祭日 氏神祭日(本園所在地)  
 日曜日 夏季自八月一日至九月十日 冬季自十二月二十五日至翌年一月十七日

第五條 保育時間ハ毎日三時三十分以内トシ毎回三十分ヲ超ヘザルモノトス

第六條 保育要旨ヲ定ムルコト左ノ如シ  
 幼稚天然ノ活動力ヲ利用シ身体、智能、道德ノ三者ヲ平等ニ發育スルヲ旨トシ而シテ各自一己人ノ情性ヲ開導スルノミナラス併セテ衆多ト相交ル社交的ノ情操ヲモ培養センコトヲ要ス

第七條 保育科目ヲ定ムルコト左ノ如シ  
 會話 談話 手業 唱歌 遊戲

第八條 保育課程ヲ定ムルコト別表ノ如シ

第九條 傳染病若クハ厭惡スヘキ疾病ニ罹ル幼兒又ハ一家中ニ傳染病者アル幼兒ハ治癒ニ至ルマテ出席スルコトヲ許サス

第十條 六ヶ月以上保育ヲ受ケシ幼兒ニシテ退園スルホハ左ノ保育證書ヲ授與ス

保 育 証 書

|               |     |       |
|---------------|-----|-------|
| 族 籍           | 氏 名 | 生 年 月 |
| 尋常師範學校長位勳爵氏名印 |     |       |
| 番 號           |     |       |

右者本校付屬幼稚園ニ於テ明治何年何月ヨリ同何年何月マテ保育ヲ受ケシコトヲ証ス

年 月 日

第十一條 幼兒ヲ入園セシメント欲スル者ハ左ノ書式ニ依リ願出ツヘシ

入 園 願

族籍戸主(誰男弟姉妹等)

氏 名

生 年 月 日

右者今般御校附屬幼稚園ニ入園爲致度此段相願候也



|   |   |    |    |
|---|---|----|----|
| 遊 | 戲 | 一〇 | 一一 |
| 通 | 計 | 四二 | 四二 |

◎縣令第二十五號 (明治二十六年四月八日)

明治十九年(十一月)縣令第二十五號本縣尋常師範學校規則左ノ通改正ス

愛媛縣尋常師範學校規則

第一章 總則

第一條 本學校ニハ正科ノ外簡易科、小學校教員講習科及幼稚園保姆講習科ヲ置ク但正科ハ常分男生徒ニ課スヘキ學科目ニ限ル

前項小學校教員及幼稚園保姆講習科ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第二條 學級ハ正科ヲ四學級ニ編制シテ每學級ノ人員ヲ三十人トシ簡易科ハ一學級ニ編制シテ其人員ヲ二十人トス

第三條 學期ヲ區分スルコト左ノ如シ

第一學期 四月一日ニ始リ七月三十一日ニ終ル

第二學期 九月十一日ニ始リ十二月二十四日ニ終ル

第三學期 一月八日ニ始リ三月三十一日ニ終ル

第四條 休業日ヲ定ムルコト左ノ如シ

祝日

二十六年縣令第三十一號參看

大祭日

日曜日

夏季 自八月一日至九月十日

冬季 自十二月二十五日至翌年一月七日

第二章 教則

第五條 正科ニハ英語、農業、手工ノ三學科ヲ加ヘ生徒ノ所長ニ依リ其中ニ就キ一學科ヲ課スルモノトス

第六條 總テ教科目ノ圖書ハ別ニ定ムル所ニ依ル

第七條 試験ヲ分テテ日課、臨時、卒業論文ノ三種トス

第八條 日課試験ハ一學期間日課ノ成績ニ就キ評點ヲ附シ之ヲ一回若クハ二回ニ通約シタルモノヲ得點トシ以テ既修學業ノ熟否ヲ檢定スルモノトス

第九條 臨時試験ハ一學期間一回若クハ二回之ヲ施行シ該學年間既修學業ノ熟否ヲ檢定スルモノトス

第十條 卒業論文ハ全科修了ノモノヲシテ教育上ノ意見ヲ記述セシメ既修學業ノ應用ヲ檢定スルモノトス

第十一條 總テ試験ノ成績ハ點數ヲ以テ評定ス其定點ハ每學科ヲ百點トシ卒業論文ヲ五十點トス

第十二條 學年末ニ於テ每學科ノ日課試験若クハ臨時試験又ハ日課臨時而試験ノ

得點ヲ平均シタルモノヲ每學科ノ學年評點トス但日課試驗ノ得點ヲ欠キ若クハ臨時試験ニ欠席シタル場合ニハ該學年間試驗ノ總得點平均二分一ヲ以テ其缺ヲ補フモノトス

第十三條 學年ノ成績ハ每學科ノ學年評點ニ該學年間ノ出席點ヲ加ヘ學科ノ數ト一箇半トノ和ヲ以テ除シタルモノトス但出席點ハ一學年間欠席ナキモノヲ百五十點トシ其他ハ欠席ノ日數ニ應シテ點數ヲ減スルモノトス

第十四條 學年ノ成績六十五點以上ニシテ每學科ノ學年評點六十點以上ナルモノヲ及第トス

前項一學科ノ學年評點六十點未滿ナルモ他ハ悉ク六十點以上ナルトキハ學校長ハ教員ノ意見ヲ聞キ特ニ及第トナスコトアルヘシ

第十五條 卒業ノ成績ハ最終學年ノ成績ニ倍ニ他ノ每學年ノ成績及卒業論文ノ得點ヲ加ヘ學年數ト一箇半トノ和ヲ以テ除シタルモノトス

第十六條 卒業ノ成績八十五點以上ニシテ每學年ノ成績八十點以上卒業論文四十點以上ナルモノヲ優等トス

第十七條 一學年間ノ授業定日中引續キ七十日以上若クハ合計九十日以上欠席シタルモノニハ學年成績ノ調査ヲ受ケシメサルモノトス

第十八條 全科ヲ修了シ最終學年ノ成績ノ調査ヲ經テ及第シタルモノニハ附錄書

式ノ卒業證書ヲ授與スルモノトス

第十九條 學年評點六十點未滿ノ學科數全學科數ノ四分之一以上アルモノ若クハ落第スルコト二回ニ及ブモノハ退學セシムルモノトス

第二十條 試驗生本入學ニ關スル學力ノ檢定ハ第十二條、第十三條、第十四條ヲ準用ス

第三章 學費給與物品貸與規則

第二十一條 學費ヲ分チテ食物、被服、雜費トシ現金又ハ現品ヲ以テ支給スルモノトス

第二十二條 食物ハ現品ヲ給ス時宜ニ依リ一定ノ食費ヲ給シテ自炊セシムルコトアルヘシ但歸郷又ハ外宿セシメタル場合ハ一定ノ食費ヲ給シ出願ニ依リ歸郷又ハ外宿シタルモノ及療養ノ爲メ入院セシメタルモノニハ給與セス

第二十三條 被服ハ別表ニ依リ一定ノ時期ニ於テ現品ヲ給スルモノトス但半月以上在校セサルモノニハ其狀況ニ依リ減給ス

第二十四條 雜費ハ日用諸費、修學旅行費及療養費ノ三種ニ分チ左項ニ依リ之ヲ給スルモノトス

- 一 日用諸費ハ課業用品修理沐浴等ノ費用ニ充ルモノトシ月額ヲ定メテ現金ヲ給ス但半月以上在校セサルモノニハ半額ヲ給シ全月ニ達スルトキハ給與セス
- 一 修學旅行費ハ宿泊及其他ノ雜費並發火演習等ノ費用ニ充ルモノトシ宿泊ス



ル片ハ其數ニ應シテ一定ノ金額ヲ給シ其他ハ必要ニ應シ現金又ハ現品ヲ給ス  
一 療養費ハ治療ニ關スル費用ニ充ルモノトシ傷痍ヲ受ケ若クハ疾病ニ罹リタルトキ療養ヲ命シタルモノニ現金又ハ現品ヲ給ス

第二十五條 不都合ノ行爲ニ依リ放校ヲ命シタルモノ又ハ傷痍若クハ疾病其他事故ニ依リ退學ヲ命シタルモノハ給與セシ現在品ヲ還納セシメ且情狀ニ依リテハ在校中給與セシ學費ノ全部又ハ其幾部ヲ償還セシムルモノトス但償還ノ期限ハ三十日以内トス

第二十六條 貸與品ハ教科用ノ圖書、器械並文具、机、椅子、ヲシテ、寢具等トス

第二十七條 貸與品ハ物品ノ種類、所用ノ狀況ニ依リ各目專用及共用ノ二種ニ分チテ貸與スルモノトス

第二十八條 給與品又ハ貸與品ヲ遺失シ若クハ毀損シタルモノハ其情狀ニ依リ現品又ハ代金ヲ以テ辨償セシムルモノトス

第四章 生徒管理規則

第二十九條 生徒ハ平常校内ニ寄宿セシメ夏季、冬季ノ休業中ニ限り歸郷又ハ外宿セシムルモノトス但時宜ニ依リ夏季、冬季ノ休業中ニ於テ修學旅行ヲナサシムルコトアルヘシ

第三十條 生徒ハ學校ノ内外ヲ問ハス常ニ一定ノ制服ヲ着用セシムルモノトス但歸郷又ハ外宿中ハ此限ニアラス

第三十一條 生徒心得ヲ定ムルコト左ノ如シ

- 一 常ニ順良、信愛、威重ノ氣質ヲ操持シ規則命令ヲ遵奉シテ學業ニ勵精スヘシ
- 二 諸事質素、節儉ヲ旨トスヘシ
- 三 學校ノ建物、備品等ハ鄭重ニ取扱殊ニ火ヲ警ムヘシ
- 四 常ニ衛生ニ注意シ自他ノ健康ニ害アル所爲ヲ警ムヘシ
- 五 學校ノ内外ヲ問ハス妄ニ金錢物品ノ貸借ヲナスヘカラス
- 六 前各項ノ外常ニ生徒タルノ本分ヲ省ミ自ラ戒慎ヲ加フヘシ

第三十二條 善ク生徒ノ本分ヲ竭シ他ノ模範トナルモノハ其情狀ニ依リ左ノ賞ヲ與フルモノトス

- 一 賞詞
- 二 特別外出
- 三 旌表

第三十三條 生徒ノ本分ニ背キ不都合ノ行爲アルモノハ所犯ノ輕重ニ從ヒ左ノ罰ニ處スルモノトス

- 一 誶責
- 二 禁足
- 三 懲戒
- 四 放校

第五章 附則

第三十四條 學校長ハ本則第三章各條及第四章第三十二條第三十三條ノ施行ニ關スル細則ヲ定メ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第十八條ノ附錄

(用紙鳥ノ子)

卒業證書

校印

族籍 氏 名

生年月

右ハ當校ニ於テ尋常師範  
學校(簡易科)ノ課程ヲ卒業  
セリ仍テ茲ニ之ヲ證ス

年月日

愛媛縣尋常師範學校長位勳氏名印

番號

第二十三條ノ別表  
正科男生徒被服給與表

| 品目          | 摘要               | 品質    | 保存期限 | 在學中給與數 |
|-------------|------------------|-------|------|--------|
| 冬 上衣        | 入學初年二組<br>以後每年一組 | 紺小倉   | 一ケ年  | 五      |
| 冬 シヤツ<br>袴下 | 全                | 白綿子ル  | 一ケ年  | 五      |
| 夏 上衣        | 全                | 白小倉   | 一ケ年  | 五      |
| 夏 シヤツ<br>袴下 | 全                | 白天竺木綿 | 一ケ年  | 五      |
| 外 套         | 在學中一枚            | 軍艦紺羅紗 | 四ケ年  | 一      |
| 帽 子         | 在學中二個            | 黑羅紗   | 二ケ年  | 二      |
| 短 靴         | 毎年二足             | 黑皮    | 六ケ月  | 八      |
| 靴 下         | 一ケ月二足            | 白綿糸   | 半ケ月  | 八      |
| 脚 半         | 入學初年二足<br>以後每年一足 | ゾツク   | 一ケ年  | 五      |

簡易科生徒被服給與表

|   |        |                |       |       |    |
|---|--------|----------------|-------|-------|----|
| 冬 | 上<br>袴 | 入學初年二組         | 紺小倉   | 一ケ年   | 三  |
| 冬 | 袴下ツ    | 全              | 白綿子ル  | 全     | 三  |
| 夏 | 上<br>袴 | 全              | 白小倉   | 全     | 三  |
| 夏 | 袴下ツ    | 全              | 白天竺木綿 | 全     | 三  |
| 外 | 套      | 在學中一枚          | 軍艦紺羅紗 | 二年四ケ月 | 一  |
| 帽 | 子      | 在學中一個          | 黑羅紗   | 二年四ケ月 | 一  |
| 短 | 靴      | 毎年二足           | 黑皮    | 六ケ月   | 五  |
| 靴 | 下      | 一ケ月二足          | 白綿糸   | 半ケ月   | 五二 |
| 脚 | 半      | 入學初年二足<br>爾後一足 | ツツク   | 十ケ月   | 三  |

備考

本表給與品ハ保存期限満了ノトキ現狀ヲ檢査シ猶使用ニ耐フヘキモノハ更ニ相當ノ保存期限ヲ延期スルモノトス

◎縣令第三十一號 (明治廿六年五月二十六日)

尋常師範學校規則第一條第二項ニ依リ小學校教員及幼稚園保母講習規則ヲ定ムル

コト左ノ如シ

小學校教員及幼稚園保母講習規則

第一條 小學校教員及幼稚園保母講習科ハ管内小學校教員幼稚園保母ノ學術ヲ進ムル爲メ又ハ小學校教員若クハ幼稚園保母ヲラント欲スルモノ、爲メ須要ノ學術ヲ講習スルモノトス

第二條 講習ノ科目ハ修身、教育、國語、漢文、數學、地理、歴史、理科、農業、手工、圖畫、音樂、体操、幼稚園保育法、家事トシ其中ニ就キ一科若クハ數科ヲ講習スルモノトス

前項學科ノ程度及毎週講習ノ時間等ハ尋常師範學校ノ學科若クハ簡易科ニ準シ講習生ノ種類講習ノ期限等ニ應シテ學校長之ヲ定ム

第三條 講習ノ期限ハ二ケ月以上六ケ月以下トス

第四條 講習生ノ人員ハ凡ソ二十人乃至三十人トシ之ヲ一學級ニ編制ス

第五條 講習生ハ左ノ二種ヨリ募集ス但第二種生ニシテ小學校教員又ハ幼稚園保母ノ免許狀ヲ有セサルモノハ小學校教員又ハ幼稚園保母檢定試驗ノ程度ヲ斟酌シテ其學力ヲ試驗シ合格シタルモノニ講習ヲ許ス

第一種市町村立小學校教員又ハ幼稚園保母ニシテ郡市長ノ薦舉ニ係ルモノ

第二種直ニ學校ニ應出ツルモノ但年齡男子ハ十七年以上女子ハ十五年以上トス

第六條 講習生ハ學校内ニ寄宿セシム但時宜ニヨリ通學セシムルコトアルヘシ

第七條 講習生講習ニ關スル費用ハ總テ自辨トス

第八條 第一種ノ講習生講習中滞在日當ヲ除ク外往復旅費及給料ハ在職學校ニ於テ支給スベシ但特別ノ事情アルモノハ市ハ知事町村ハ郡長ノ許可ヲ受テ本文ノ例ニ依ラサルコトヲ得

第九條 第一種ノ講習生ニシテ講習中給料ヲ受クルモノハ修了後二個年間猶其小學校又ハ幼稚園ニ在職スヘキ義務ヲ有スルモノトス但本文ノ義務ヲ盡ス能ハサルトキハ事由ヲ具シテ知事ノ許可ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ專狀ニ依リ講習中ニ支給シタル給料ノ全部若クハ其幾分ノ償還ヲ命スルコトアルヘシ

第十條 第一種ノ講習生在職義務年限中左ノ一項若クハ二項ニ該當スルモノハ講習中支給シタル給料ノ全部ヲ償還セシム

一 故ナク在職ノ義務ヲ盡サ、ルモノ

一 不都合ノ行為ニ依リ退職ヲ命シタルモノ

第十一條 講習ヲ卒リタルモノハ既修ノ學術ヲ試験シ合格ノモノニハ附録書式ノ修了證書ヲ授與ス但修了ノ見込ナキモノハ隨時退學セシム

第十二條 講習ノ成績優等ナルモノハ學校長ノ具申ニ依リ其學力經歷等ヲ檢定シ試験ヲ須キスシテ相當ノ免許狀ヲ授與スルコトアルヘシ

第十三條 講習生ハ講習中總テ學校ノ規則命令ニ服從スヘシ

第十四條 講習施行ノ時期及期限、講習生ノ種類期日等其他本則施行ニ關スル細則ハ學校長之ヲ定メ知事ニ報告スヘシ

第十一條附録書式

講習科修了證書

|                  |           |          |  |
|------------------|-----------|----------|--|
| 科目               | 族         | 氏        | 名  |
|                  |           |          | 生年月  |
| 前記科目ニ就キ          | 自明治何年何月何日 | 至同何年何月何日 | 何個月間小學校正(准)教員(幼稚園保母)ノ講習ヲ履修シ其成績優等(尋常)トス仍テ茲ニ之ヲ證ス |
| 愛媛縣尋常師範學校校長位勳氏名印 |           |          |  |
| 第 號              |           |          |  |
| 年 月 日            |           |          |  |
| 校 印              |           |          |  |

◎縣令第三十四號 (明治二十六年六月二十四日)

明治二十五年七月文部省令第十一號尋常師範學校卒業生服務規則第七條ニ依リ細則ヲ定ムルコト左ノ如シ

尋常師範學校卒業生服務細則

第一條 服務規則第一條二項ニ依リ許可ヲ請フモノハ左ノ各項ヲ具シ所屬郡市町

村長ヲ經テ願出ツヘシ

一 特別ノ事情

一 就職セントスル道廳府縣名並職名

一 卒業後勤務ノ經歷

第二條 服務規則第三條ニ依リ届出ツル期限ハ義務ヲ卒リタル日ヨリ十日以内ト

シ經歷書ニハ主トシテ卒業後ニ於ケル學習勤務及賞罰ニ關スル事項ヲ詳記スヘシ

第三條 服務規則第四條第一項ニ依リ指揮ヲ請フモノハ正確ナル證憑ヲ添ヘ所屬  
郡市町村長ヲ經テ願出ツヘシ

第四條 服務規則第四條二項又ハ第六條ニ依リ學資ノ償還ヲ命セラレタルモノハ

當該官ヨリ發スル納入告知書ノ期限ニ從ヒ之ヲ納付スヘシ

第五條 服務規則第五條ニ依リ報告スル期限ハ毎年十二月二十五日限リトシ左項

ニ依リ報告スヘシ

一 勤務ノ經歷及年數

一 教育會等ノ役員トナリタルトキハ其經歷

一 講習ニ從事シ又ハ學習ヲナシタルトキハ其經歷

一 賞罰

一 前各項ノ外報告ヲ必要ト認ムル事件

第六條 郡市町村長ハ第一條又ハ第三條ノ願書ヲ受ケタルトキハ其事實ヲ審明シ

當否ノ意見ヲ附シテ進達スヘシ

◎縣令第二十六號 (明治廿七年三月廿四日)

愛媛縣尋常師範學校教科用圖書左ノ通之ヲ定メ來ル四月一日ヨリ施行ス

但各圖書中圖點ヲ付スルモノハ當分之ヲ用ユルモノトス

愛媛縣尋常師範學校本科生徒ニ課スヘキ教科用圖書

修身科

| 圖書名                | 卷冊<br>記號 | 出版再版等年月日   | 著譯編述者氏名 | 出版者氏名  |
|--------------------|----------|------------|---------|--------|
| 教育勅語衍義             | 一冊       | 明治廿四年一月七日  | 那珂通世    | 白井練一   |
| 帝國憲法<br>皇室典範<br>義解 | 一冊       | 明治廿二年六月一日  | 伊藤博文    | 國家學會   |
| 論語                 | 四冊       | 不詳         | 朱熹集註    | 須原屋茂兵衛 |
| 西國立志篇              | 二冊       | 明治廿四年七月    | 中村正直    | 同人社    |
| 孟子                 | 四冊       | 不詳         | 朱熹集註    | 須原屋茂兵衛 |
| 心理學                | 一冊       | 明治廿四年四月十七日 | 澤柳政太郎   | 小林義則   |

教育科

|        |    |   |               |                 |
|--------|----|---|---------------|-----------------|
| 論理學    | 一冊 | 明治廿三年九月十五日                                | 三宅雄二郎         | 小林義則            |
| 倫教育學   | 一冊 | 明治廿六年五月十八日                                | 湯原元一          | 金港堂書籍會社         |
| 普通教授新論 | 一冊 | 明治廿五年十一月二日                                | 湯原元一          | 飯田高朗<br>金港堂書籍會社 |
| 教育全史   | 六冊 | 第一、二、三、四、五、六、<br>明治廿一年五月廿八日<br>明治廿二年五月卅一日 | 杉浦重剛          | 辻敬之             |
| 學校管理法  | 四冊 | 第二部明治廿一年七月廿六日<br>第三部明治廿二年二月廿五日            | 清野勉           | 小柳津要人           |
| 日本教育史略 | 一冊 | 明治十七年五月八日                                 | 大槻修二          | 吉川半七            |
| 國語科    |    |   |               |                 |
| 日本文典   | 一冊 | 明治廿三年十二月十日                                | 小中村義象<br>落合直文 | 大橋新太郎           |
| 普通國文   | 二冊 | 明治廿三年三月十九日                                | 佐藤定健          | 吉川半七            |
| 土佐日記   | 一冊 | 不詳  | 紀貫之           | 不詳              |
| 徒然草    | 一冊 | 不詳  | 吉田兼好          | 不詳              |
| 中學文學史  | 一冊 | 明治廿五年九月廿日                                 | 小中村義象<br>增田千信 | 大橋新太郎           |

|                  |    |            |       |         |
|------------------|----|------------|-------|---------|
| 古今和歌集            | 一冊 | 不詳         | 紀貫之   | 不詳      |
| 日本文範上卷           | 一冊 | 明治廿三年六月七日  | 佐々木信綱 | 大橋新太郎   |
| 漢文科              |    |            |       |         |
| 今世名家文鈔           | 四冊 | 嘉永乙酉八月     | 僧月性   | 岡田茂兵衛   |
| 本朝名家文範           | 三冊 | 明治十八年八月    | 馬場健吉  | 川半七     |
| 初學文章軌範           | 三冊 | 明治十九年七月    | 三島毅   | 小林義則    |
| 文章軌範正篇           | 三冊 | 不詳         | 謝枋    | 得不詳     |
| 唐宋八代家讀本<br>韓柳歐蘇文 | 八冊 | 明治十一年三月    | 石村貞一  | 阪上半七    |
| 史記傳抄             | 三冊 | 明治廿年十一月    | 山本廉吉  | 岡正直     |
| 左傳抄              | 四冊 | 明治十七年九月十日  | 竹添進一郎 | 奎文堂     |
| 歷史科              |    |            |       |         |
| 日本史要             | 二冊 | 明治廿六年六月十三日 | 新保磐次  | 金港堂書籍會社 |
| 支那歷史             | 三冊 | 明治廿五年四月七日  | 棚橋一郎  | 龜井忠一    |

|         |    |             |       |           |
|---------|----|-------------|-------|-----------|
| 萬國歷史    | 一冊 | 明治廿四年九月卅日   | 木村一步  | 文部省圖書課    |
| 地理科     |    |             |       |           |
| 新撰萬國地理  | 一冊 | 明治廿六年四月十四日  | 山上萬二郎 | 小野英之助     |
| 新撰日本地理  | 一冊 | 明治廿五年九月十八日  | 松尾貞次郎 | 大日本圖書株式會社 |
| 地文學     | 一冊 | 明治廿五年九月十八日  | 松尾貞次郎 | 大日本圖書株式會社 |
| 數學科     |    |             |       |           |
| 普通算術教科書 | 二冊 | 明治廿六年五月廿五日  | 松岡文太郎 | 白井練一      |
| 代數學     | 一冊 | 明治廿四年四月     | 長澤龜之助 | 山岸佐吉      |
| 初幾何學教科書 | 二冊 | 明治廿一年九月廿日   | 菊池大麓  | 文部省編輯局    |
| 等全平面    | 二冊 | 明治廿一年九月廿日   | 菊池大麓  | 文部省編輯局    |
| 全立體     | 一冊 | 明治廿二年七月廿三日  | 菊池大麓  | 文部省編輯局    |
| 馬耳記簿法   | 二冊 | 明治十一年十二月七日  | 小林義秀  | 柳原喜兵衛     |
| 物理化學科   |    |             |       |           |
| 物理學教科書  | 一冊 | 明治廿四年三月一日   | 菊池熊太郎 | 柳原新一郎     |
| 化學      | 二冊 | 明治廿二年十二月廿四日 | 久原躬弦  | 柳原新一郎     |

|          |     |             |         |         |
|----------|-----|-------------|---------|---------|
| 博物科      |     |             |         |         |
| 中等植物學    | 一冊  | 明治廿五年八月卅一日  | 齋田功太郎   | 小林義則    |
| 中等動物學    | 一冊  | 明治廿五年九月五日   | 岩川友太郎   | 小林義則    |
| 人身生理學    | 六冊  | 明治廿一年六月九日   | 川崎典民    | 川崎典民    |
| 中等礦物學教科書 | 一冊  | 明治廿五年十一月廿八日 | 富士谷孝雄   | 金港堂書籍會社 |
| 習字科      |     |             |         |         |
| 小學習字臨帖   | 十二冊 | 明治十九年九月     | 愛媛縣師範學校 | 愛媛縣     |
| 圖畫科      |     |             |         |         |
| 小學習畫帖    | 八冊  | 明治廿五年五月     | 文部省編輯局  | 文部省編輯局  |
| 中學臨畫帖    | 七冊  | 明治廿二年七月廿九日  | 伊吹專太郎   | 小柴英侍    |
| 臨畫帖      | 十二冊 | 明治廿二年十一月廿五日 | 植田竹次郎   | 植田竹次郎   |
| 新定毛筆畫    | 八冊  | 明治廿五年七月十五日  | 松本貢     | 小林義則    |
| 新用器畫法    | 三冊  | 明治廿二年三月廿八日  | 平瀬作五郎   | 原亮三郎    |

|         |  |      |            |         |        |        |
|---------|--|------|------------|---------|--------|--------|
| 音樂科     |  | 樂典初步 | 一冊         | 明治廿一年四月 | 文部省編輯局 | 文部省編輯局 |
| 幼稚園唱歌集  |  | 一冊   | 明治廿一年十一月   | 文部省     | 音樂取調掛  | 文部省    |
| 小學唱歌集初篇 |  | 一冊   | 明治十四年十一月   | 文部省     | 音樂取調掛  | 文部省    |
| 小學唱歌集二篇 |  | 一冊   | 明治十六年六月    | 文部省     | 音樂取調掛  | 文部省    |
| 小學唱歌集三篇 |  | 一冊   | 明治十七年六月    | 文部省     | 音樂取調掛  | 文部省    |
| 箏曲集     |  | 一冊   | 明治廿一年十月    | 文部省     | 音樂取調掛  | 文部省    |
| 中等唱歌集   |  | 一冊   | 明治廿二年十一月   | 東京音樂學校  | 東京音樂學校 | 東京音樂學校 |
| 體操科     |  | 步兵操典 | 一冊         | 不詳      | 陸軍省    | 陸軍省    |
| 體操教範    |  | 一冊   | 明治廿二年八月廿七日 | 陸軍省     | 陸軍省    | 陸軍省    |
| 野外要務令   |  | 一冊   | 不詳         | 陸軍省     | 陸軍省    | 陸軍省    |
| 訂普通體操法  |  | 一冊   | 明治廿四年三月    | 文部省     | 文部省    | 文部省    |

|         |  |         |             |         |           |           |
|---------|--|---------|-------------|---------|-----------|-----------|
| 英語科     |  | ナショナル讀本 | 自一至五冊       | 不詳      | パイン大商會    | 不詳        |
| 小文典     |  | 一冊      | 不詳          | ビ子オ     | 不詳        | 不詳        |
| 大文典     |  | 一冊      | 不詳          | ビ子オ     | 不詳        | 不詳        |
| スケッチブック |  | 一冊      | 不詳          | アーピング   | 不詳        | 不詳        |
| 農業教科書   |  | 一冊      | 明治廿五年十一月廿一日 | 澤村眞     | 大日本圖書株式會社 | 大日本圖書株式會社 |
| 手工科     |  | 暗氏林力論   | 一冊          | 明治十三年三月 | 瓜生寅文      | 文部省       |
| 應手工用具論  |  | 一冊      | 明治廿二年八月     | 梅村久摩作   | 石川商店      | 石川商店      |
| 工場用具論   |  | 一冊      | 明治廿二年八月     | 山田要吉    | 文部省       | 文部省       |
| 手工科講議錄  |  | 二冊      | 明治廿一年十二月    | 上原六四郎   | 鈴木吉藏      | 鈴木吉藏      |
| 手工製作法   |  | 一冊      | 明治廿三年九月     | 山田要吉    | 丸善商店      | 丸善商店      |



一 教育科中教育現行法令及地方制度ハ地方學事通則小學校令文部省及本縣規  
 規定ノ學事諸法令等ヲ授ケ市町村制度ノ大要ヲ口授シ用書ハ別ニ之ヲ定メス  
 一 圖書科中採色ノ法ハ寫生畫若クハ圖案ニ就キ練習セシムルヲ以テ別ニ用書  
 ナ定メス

愛媛縣尋常師範學校簡易科生徒ニ課スヘキ教科用圖書

| 修身科    |    | 圖書名       |      | 冊數     | 出版再版等年月日 | 著譯編述者氏名 | 出版者氏名 |
|--------|----|-----------|------|--------|----------|---------|-------|
| 教育勅語衍義 | 一冊 | 明治廿四年一月七日 | 那珂通世 | 白井練一   |          |         |       |
| 西國立志篇  | 二冊 | 明治四年七月    | 中村正直 | 同人     |          |         |       |
| 論語     | 四冊 | 不詳        | 朱熹集註 | 須原屋茂兵衛 |          |         |       |
| 教育科    |    |           |      |        |          |         |       |
| 日本教育史略 | 一冊 | 明治十七年五月八日 | 大槻修二 | 吉川半七   |          |         |       |

| 國語科    |    | 漢文科                              |                      |
|--------|----|----------------------------------|----------------------|
| 教育全史   | 六冊 | 第一、二、三、四、五、六、五月廿八日<br>明治廿一年五月卅一日 | 杉浦重剛 辻敬之             |
| 教育新論   | 四冊 | 明治廿年十一月十八日                       | 高嶺秀夫 東京茗溪會           |
| 普通教授新論 | 一冊 | 明治廿五年十一月二日                       | 湯原元一 飯田高朝<br>金港堂書籍會社 |
| 學校管理法  | 四冊 | 第二部明治廿二年二月廿六日<br>第四部明治廿二年二月廿六日   | 清野勉 小柳津要人            |
| 國語科    |    |                                  |                      |
| 日本文典   | 一冊 | 明治廿三年十二月十日                       | 小中村義象 大橋新太郎          |
| 和文讀本   | 四冊 | 明治十八年八月十八日                       | 稻垣千穎 稻垣千穎            |
| 土佐日記   | 一冊 | 不詳                               | 紀貫之 不詳               |
| 徒然草    | 一冊 | 不詳                               | 吉田兼好 不詳              |
| 日本文範上卷 | 一冊 | 明治廿三年六月七日                        | 佐々木信綱 大橋新太郎          |
| 古今和歌集  | 一冊 | 不詳                               | 紀貫之 不詳               |

|          |    |            |       |               |
|----------|----|------------|-------|---------------|
| 日本政記     | 八冊 | 明治九年六月廿五日  | 賴久太郎  | 賴又二郎          |
| 今世名家文鈔   | 四冊 | 嘉永乙酉八月     | 僧月性   | 岡田茂兵衛         |
| 文章軌範正編   | 三冊 | 不詳         | 謝枋    | 得不詳           |
| 歷史科      |    |            |       |               |
| 日本略史     | 六冊 | 明治廿一年七月廿一日 | 吉田利行  | 池園 訶          |
| 支那歷史     | 三冊 | 明治廿五年四月七日  | 棚橋一郎  | 龜井忠一          |
| 須因萬國史    | 一冊 | 明治十九年六月    | 植田榮   | 岩本米太郎<br>酒井清藏 |
| 地理科      |    |            |       |               |
| 新撰萬國地理   | 一冊 | 明治廿六年四月十四日 | 山上萬二郎 | 小野英之助         |
| 新撰日本地理   | 一冊 |            | 濱田俊三郎 |               |
| 數學科      |    |            |       |               |
| 普通算術教科書  | 二冊 | 明治廿六年五月廿五日 | 松岡文太郎 | 白井練二          |
| 初等幾何學教科書 | 二冊 | 明治廿一年九月廿日  | 菊池大麓  | 文部省編輯局        |
| 全書       | 二冊 | 明治廿二年七月廿三日 | 菊池大麓  | 文部省編輯局        |

|        |     |             |         |        |
|--------|-----|-------------|---------|--------|
| 理科     |     |             |         |        |
| 中等植物學  | 一冊  | 明治廿五年八月廿二日  | 齋田功太郎   | 小林義則   |
| 中等動物學  | 一冊  | 明治廿五年九月五日   | 岩川友太郎   | 小林義則   |
| 物理學教科書 | 二冊  | 明治十九年三月     | 菊池熊太郎   | 柳原新一郎  |
| 化學     | 二冊  | 明治廿一年十二月廿四日 | 久原躬弦    | 柳原新一郎  |
| 人身生理書  | 六冊  | 明治廿一年六月九日   | 川崎典民    | 川崎典民   |
| 習字科    |     |             |         |        |
| 小學習字臨帖 | 十二冊 | 明治十九年九月     | 愛媛縣師範學校 | 媛縣     |
| 圖畫科    |     |             |         |        |
| 新用器畫法  | 三冊  | 明治廿二年三月廿八日  | 平瀬作五郎   | 原亮三郎   |
| 小學習畫帖  | 八冊  | 明治廿五年五月     | 文部省編輯局  | 文部省編輯局 |
| 中學臨畫帖  | 七冊  | 明治廿二年七月廿九日  | 伊吹專太郎   | 小柴英侍   |
| 臨畫帖    | 十二冊 | 明治廿二年十一月十五日 | 植田竹次郎   | 植田竹次郎  |

|         |    |            |        |        |      |
|---------|----|------------|--------|--------|------|
| 新定毛筆書   | 八冊 | 明治廿五年七月十五日 | 松本     | 頁      | 小林義則 |
| 音 樂 科   |    |            |        |        |      |
| 樂典初步    | 一冊 | 明治廿一年四月    | 文部省編輯局 | 文部省編輯局 |      |
| 幼稚園唱歌集  | 一冊 | 明治廿年十一月    | 文部省    | 音樂取調掛  | 文部省  |
| 小學唱歌集初篇 | 一冊 | 明治十四年十一月   | 文部省    | 音樂取調掛  | 文部省  |
| 小學唱歌集二篇 | 一冊 | 明治十六年六月    | 文部省    | 音樂取調掛  | 文部省  |
| 小學唱歌集三篇 | 一冊 | 明治十七年六月    | 文部省    | 音樂取調掛  | 文部省  |
| 歌曲集     | 一冊 | 明治廿一年十月    | 文部省    | 音樂取調掛  | 文部省  |
| 中等唱歌集   | 一冊 | 明治廿二年十一月   | 東京音樂學校 | 東京音樂學校 |      |
| 體 操 科   |    |            |        |        |      |
| 步兵操典    | 一冊 | 不詳         | 陸軍省    | 陸軍省    |      |
| 體操教範    | 一冊 | 明治廿二年八月廿七日 | 陸軍省    | 陸軍省    |      |
| 野外要務令   | 一冊 | 不詳         | 陸軍省    | 陸軍省    |      |

訂正普通體操法 一冊 明治廿四年三月 文部省

一 本規定ノ教科書ハ概テ省略シテ適用スルモノトス  
 一 教科中ノ法令及地方制度ニ關シテハ本科生徒ニ同シ

◎告示第四百十七號 (明治廿七年十一月十六日)

高等師範學校入學志望者準備心得  
 高等師範學校入學志望者準備心得  
 高等師範學校生徒ハ通例一定ノ資格ヲ有スル者ニ就キテ試験ヲ施シ選抜スル者ナ  
 レハ各自從前ノ修業區々其途ヲ異ニスルヨリシテ本校ノ期望ニ合セサル者多シ仍  
 テ茲ニ豫メ入學準備心得ヲ定メ以テ入學志望者修業ノ指針トナサシム

- 一 入學試験ノ科目ハ文科志望者ニ就キテハ試問、國語、漢文、英語、數學、理科上ス
- 一 シ理科志望者ニ就キテハ試問、國語、漢文、英語、數學、理科上ス
- 一 但兩科共通ノ科目ニ於テハ其問題ノ種類及ヒ程度ヲ異ニスルナシ
- 一 試問ハ教育ニ關スル二三ノ問題ヲ出ダシテ之ニ答ヘシメ平素思考ノ傾向及精  
 疎ヲ試ムルモノトス
- 一 國語ハ文法解釋及ヒ作文ヲ含ミ就中文法ハ其全體ニ通シ特ニかなつかひ、用  
 言ノ活用係結ノ法則ニ明ニシ普通文ニ於ケル其應用ヲ能クスルヲ要シ解釋ハ中  
 古文ノ初步(徒然草、土佐日記ノ程度)ニ就キテ簡明ニ其意義ヲ說述シ得ルナシ

要シ又作文ハ普通文ヲ文字、熟語、語法等ノ誤謬ナク作り得ルヲ要ス

一 漢文ハ論語、孟子、史記、通鑑等ノ中ニ就キテ字義訓詁ヲ明ニシ其意義ヲ簡明ニ解釋シ得ルヲ要ス

一 英語ハ簡易ナル英文(ニユーナシヨナル第五讀本、マコレー氏クライブ傳、ペインター氏教育史ノ程度)ヲ甚シキ誤謬ナクシテ音讀シ之ヲ明瞭ニ解釋シ及ヒ其文章中緊要ナル文法上ノ説明ヲ爲シ得ルヲ要シ又平易ナル短篇ヲ甚タシキ誤謬ナクシテ綴リ得ルヲ要ス

一 歴史ハ本邦史、東洋史、西洋史ヲ含ミ就中本邦史ハ稍々詳密ナルヲ要シ東洋史ハ西洋史ハ其大要ニ止ム而シテ時所ノ觀念精確ナルヘク隨ヒテ主要ナル事蹟ノ年月ヲ暗記シ各時代ノ範圍及ヒ特異ノ諸點ヲ記憶センヨヲ要シ又政治、文學、宗教、技藝ヲ論セス凡テ顯著ナル人物ノ事蹟ヲ詳ニセンヲ要ス

一 地理科ハ本邦地誌、外國地誌及ヒ地文ヲ含ミ就中本邦地誌ハ稍詳密ナルヲ要シ外國地誌及ヒ地文ハ其大要ニ止ム而シテ外國地誌ハ本邦ト親密ナル關係アル者ニ重キヲ置クヘシ且製圖法ノ大概ヲ心得ンヲ要ス

一 數學ハ算術、代數、幾何ヲ含ミ就中算術、代數ニ於テハ算法ノ理由ヲ了解スルト共ニ計算ニ熟達シ且ツ日常問題ノ解法ニ於ケル其適用ヲ能クスルヲ要シ又幾何ニ於テハ平面及立体幾何中ノ重要ナル定理ヲ暗記シ其應用ヲ能クシ且ツ簡易ナル面積及體積ヲ算出シ得ルヲ要ス

一 理科ハ物理、化學及ヒ動物、植物ヲ含ミ就中物理、化學ニ於テハ正確ニ其學理ヲ會得シ且ツ近易ナル應用問題ノ解答ヲ能クシ殊ニ化學ニ於テハ普通ニシテ簡易ナル有機物ニ關スル知識ヲ備ヘンヲ要ス又動物、植物ニ於テハ一般ノ事實ヲ正確ニ會得スルハ勿論且ツ普通ノ種類ニ就キテ實地解剖上ノ知識ヲ備ヘンヲ要ス

### 第二章 中學校

◎告示第六十二號 (明治二十五年四月二十八日)

伊豫尋常中學校ハ本月限り之ヲ廢止シ來ル五月一日ヨリ更ニ尋常中學校ヲ設置シ其位置名稱左ノ通之ヲ定ム就テハ伊豫尋常中學校ノ生徒ハ更ニ入學ノ手續ヲ要セス直ニ新設中學校生徒ノ學籍ニ編入ス

但此際退學セントスル者ハ五月七日迄ニ同學校ニ申出ツヘシ

位置 松山市大字二番町

名稱 愛媛縣尋常中學校

◎告示第七十號 (明治二十五年五月十四日)

尋常中學校規則左ノ通之ヲ定ム

愛媛縣尋常中學校規則

### 第一章 總則

第一條 本校ハ中學校令第一條ニ基キ實業ニ就カント欲シ又ハ高等ノ學校ニ入ラントスル者ノ爲メニ須要ナル教育ヲ爲ス所トス

第二條 修業年限ハ五ヶ年トシ一ヶ年ヲ一學年トシ第五級ヨリ第一級ニ至ル

第三條 生徒ノ定員ハ五百人ト定ム

但時宜ニ依リテハ定員ヲ増減スルコトアルヘシ

第二章 教則

第四條 學科目ハ倫理國語漢文英語地理歷史數學博物物理化學圖畫習字及体操トス

第五條 各學科ノ教旨教程ヲ定ムルコト左ノ如シ

一 倫理科

第一項 教旨

人倫道德ノ大要ヲ授ケ兼テ生徒ヲシテ躬行實踐ヲ重ンセシムルヲ旨トス

第二項 教程

幼年ニアリテハ内外賢哲ノ嘉言善行ヲ講談シ且時々作法ヲ交ヘ授ケ次第ニ進メテ以テ倫理ノ大要ヲ知ラシメ實行ヲ重ンセシム

一 國語及漢文科

第一項 教旨

國語及漢文ノ講讀國語ノ文法及作文ヲ授ケ以テ普通ノ國語及漢文ヲ理解シ國

二十七年告示第七  
條中農科ノ一科ヲ  
創ル

二十七年告示第七  
十一號ヲ以テ國語  
及漢文科ノ教旨教  
程改正

語ヲ言語文章ニ自在ニ表出スル力ヲ養フヲ旨トス

第二項 教程

國語ニ於テハ今代ヨリ始テ漸次ニ近世及中古ノ文ヲ講讀セシメ又文法作文并書取ヲ授ケテ理解及表出ヲ自在ナラシメ漢文ニ於テハ講讀ノ傍漸次文法ヲモ授ケテ理解ヲ自在ナラシメ兼テ作文ノ力ヲ資クルモノトス

一 英語科

第一項 教旨

讀方譯解講讀書取會話文法作文翻譯ヲ授ケ時々文章ノ讀誦ヲナサシメ以テ正シク英語ヲ綴リ且之ヲ解セシムルヲ旨トス

第二項 教程

初ハ綴字書ニヨリ綴字并ニ發音ノ方法ヲ授ケ漸次名家ノ文粹ヲ講讀セシメ以テ英文ノ讀方解譯ヲ自在ナラシム且傍ラ作文書取會話等ヲ課シ第四年級ニ至テハ英文和譯和文英譯ヲ授クルモノトス

一 地理科

第一項 教旨

邦制地文地理ニ關スル事項ノ概要并ニ地球儀用法地圖描圖方法ヲ授クルヲ旨トス

第二項 教程

一 經緯線及各國ノ位置水陸分配大洋ノ大小境界其他地理總論ニ關スル事項ヨリシテ本邦地誌ニ及ホシ終ニ晝夜四季變更ノ理由等地理上必要ナル現象ノ大概ヲ授クルモノトス且傍ヲ卓上製圖實地製圖ノ練習ヲナサシム

一 歷史科

第一項 教旨 内外國建國ノ体制忠臣賢哲ノ事蹟世態沿革ノ要旨ヲ知ラシム

第二項 教程

本邦歷史ヨリ初メ漸次外國歷史ニ及ホシ常ニ地理科ト密接ノ關係ヲ有セシムヘシ

一 數學科

第一項 教旨

數理ニ精確ニ計算ニ敏捷ニ兼テ思想ヲ密ニシ推理ノ力ヲ養成スルヲ旨トス

第二項 教程

算術ハ比例及利息算諸開法求積法諸法ノ理由代數ハ釋義整數四則分數一次方程式自乘開平開立指數根數二次方程式準二次方程式比例等差級數等比級數調和級數順列組合二項法對數幾何ハ定義公理直線形圓積平面立體角角錐角球圓錐圓球等三角法ハ角度三角法比對數表三角形距離等ノ測法球面三角等トス  
一 博物科

一 第一項 教旨

通常ノ動植礦物ノ大要ヲ授ケ日常ニ適切ナルヲ旨トシ且生徒ヲシテ實物採集ヲナシ實地ニ就テ研究セシムルヲ要ス

第二項 教程

動物ハ觀察記述分類ノ大意諸部類ノ相互及外物ノ關係人体ノ生理衛生等植物ハ觀察解析記述分類ノ大意及植物ノ生活上ニ緊要ナル現象等礦物ハ形像理化學上ノ性質燃礦金礦石鐵鹵石鐵類ノ諸論並ニ普通礦物ノ監識等トス

一 物理化學科

第一項 教旨

理化學上緊要ナル現象及定律且生活上ニ關スル理化學的現象ノ說明ヲ確實ナラシムルヲ旨トス

第二項 教程

物理ハ總論力學水學氣學音響學熱學光學越歷學磁氣學ヲ授クルモノトス化學ハ總論緊要ナル元素及無機化合物ノ性質等ヲ知ラシメ殊ニ日常ニ適切ナル現象ノ理ヲ了セシムルモノトス

一 圖書科

第一項 教旨

自在書法及用器書法ヲ學ハシム殊ニ限及手ノ習練ヲナサシメ傍ヲ構成作用ノ

力ヲ密ナラシムルヲ旨トス

第二項 教程

臨本及實物ニ依テ簡單ナル紋形器物等ヨリ漸次動植物人物ニ及ホシ傍ヲ透視  
 畫法寫生畫法等ヲ學ハシム

習字科

第一項 教旨

字形派筆ヲ明ニシ姿勢執筆ノ法ヲ知ラシメ字畫正雅書寫迅速ナラシムルヲ旨  
 トス

第二項 教程

楷行草ノ三體ヲ授ケ且傍ヲ細字速寫ヲナサシム

體操科

第一項 教旨

精神ヲ活潑ニシ動作ヲ整正靜肅ニシ身體ヲ健康ナラシムルヲ旨トス

第二項 教程

普通體操ハ矯正術徒手啞鈴球竿木環棍棒遊戲運動兵式體操ハ柔軟體操生兵學  
 中隊學行軍演習等トス

第六條 授業ノ時數ヲ定ムルコト左ノ如シ

二十七年告示第七  
 十一號ヲ以テ每週  
 授業時數ヲ定ム

| 科目 | 倫理   |      | 國語 |      |      | 及漢文   |    | 英語 |    |    |    |  |
|----|------|------|----|------|------|-------|----|----|----|----|----|--|
|    | 國語講讀 | 國語文法 | 作文 | 漢文講讀 | 漢文講讀 | 讀方及譯解 | 講讀 | 習字 | 書取 | 會話 | 文法 |  |
| 第一 | 二    | 一    | 一  | 一    | 三    | 五     |    | 一  | 一  |    |    |  |
| 第二 | 二    | 一    | 一  | 一    | 三    | 三     | 二  |    |    | 一  | 一  |  |
| 第三 | 二    | 一    | 一  | 一    | 三    | 二     | 二  |    |    | 一  | 二  |  |
| 第四 | 二    | 一    |    |      | 四    | 一     | 三  |    |    | 一  | 一  |  |
| 第五 | 二    | 一    |    |      | 四    | 一     | 二  |    |    | 一  | 一  |  |

| 體操 | 圖畫 | 習字 | 物理及化學         | 博物 | 數學  |    |    | 地理      | 歷史      | 語文 |    |
|----|----|----|---------------|----|-----|----|----|---------|---------|----|----|
|    |    |    |               |    | 三角法 | 幾何 | 代數 |         |         | 翻譯 | 作文 |
| 三  | 二  | 一  |               | 一  |     |    | 五  | 本邦<br>二 | 本邦<br>一 |    |    |
| 三  | 一  | 一  |               | 二  | 二   | 二  | 一  | 本邦<br>一 | 本邦<br>二 |    | 一  |
| 三  | 一  | 一  |               | 二  | 二   | 二  |    | 外國<br>二 | 外國<br>一 |    | 一  |
| 三  | 一  |    | 化學<br>二       | 二  | 二   | 二  |    |         | 外國<br>三 |    | 一  |
| 三  |    |    | 物理<br>化學<br>三 |    | 二   | 二  |    | 地理<br>二 | 本邦<br>二 |    | 一  |

|   |    |    |    |    |    |    |
|---|----|----|----|----|----|----|
| 計 | 三〇 | 三〇 | 三〇 | 三〇 | 三〇 | 三〇 |
|---|----|----|----|----|----|----|

第三章 學年學期及休業

第七條 學年ハ四月一日ニ始マリ翌年三月三十一日ニ終ル

第八條 學年ヲ分テ左ノ三學期トス

第一學期 四月一日ニ始マリ八月三十一日ニ終ル

第二學期 九月一日ニ始マリ翌年一月七日ニ終ル

第三學期 一月八日ニ始マリ三月三十一日ニ終ル

第九條 每週授業時間ハ大凡三十時間トス

第十條 休業日ハ左ノ如シ

- 一 日曜日
- 一 秋季皇靈祭 秋分日
- 一 神嘗祭 十月十七日
- 一 天長節 十一月三日
- 一 新嘗祭 十一月二十三日
- 一 冬期休業 十二月二十六日ニ始マリ翌年一月七日ニ終ル
- 一 孝明天皇祭 一月三十日
- 一 紀元節 二月十一日



- 一 春季皇靈祭 春分日
- 一 春季休業 四月一日ニ始マリ全月七日ニ終ル
- 一 夏季休業 八月一日ニ始マリ八月三十一日ニ終ル

第四章 試験

第十一條 試験ヲ分テ左ノ四種トス

入學試験 日課試験 臨時試験 學級試験

第十二條 入學試験ハ入學ヲ許スノ際之ヲ施行シ其學力及体格ヲ検査スル者トス

第十三條 日課試験ハ日課ノ成績ニ就キ日々若クハ若干日毎ニ其評點ヲ附シ以テ

各學期間生徒學業ノ熟否ヲ檢定スルモノトス

第十四條 臨時試験ハ教官ノ見込ニヨリ日課試験ヲ施行シ難キ學科又ハ場合ニ依

リ一學期間一回若クハ二回之ヲ施行シ學業ノ熟否ヲ檢定スルモノトス

第十五條 學級試験ハ每學年ノ終リニ於テ之ヲ施行シ其學年內ニ於テ履修スル各

學科ノ全体ヲ檢定スルモノトス

但學業進歩ノ狀況ニ依リテハ學年ノ終リヲ待タスシテ臨時ニ試験ヲ施行シ昇

級セシムルコトアルヘシ

第十六條 凡ソ試験ノ成績ハ點數ヲ以テ優劣ヲ表ス其評點ハ每學科一百ヲ以テ定

點トス

但國語漢文科ノ國語漢文作文英語科ノ讀方譯解講讀文法作文書取會話習字數

學科ノ算術幾何代數三角ハ各一分科トシテ獨立ノ點ヲ附シ又倫理科ハ實踐ヲ重スルカ故ニ其試験點ノ内五十點ヲ平素ノ行狀點トシ品行ノ良否修業ノ勤惰ヲ按シテ之ヲ加減ス

第十七條 第五級入學試験ハ二年程高等小學ノ學科程度ニ依リ修身讀書作文地理

歴史算術理化習字圖書ノ九科及ヒ英語ノ初歩讀方譯解書取習字第四級以

上ハ其級以下ニ於テ履修スヘキ諸學科ヲ試ルモノトス

但体格ハ同一ニ検査スルモノトス

第十八條 入學試験ハ每學科ノ得點五十以上ヲ以テ及第トス

但一學科乃至三學科ノ得點五十以下ナルモ全學科ノ得點ノ平均點七十點以上

ナルトキハ特ニ及第ト見做スコトアルヘシ

第十九條 入學試験及學級試験ノ問題ハ各受持教員之ヲ撰定シ試験ノ日ニ先テ學

校長ノ檢認ヲ得テ施行スヘシ

第二十條 各學期末ニ於テ每學科ノ日課試験若クハ臨時試験又ハ兩試験ノ評點ヲ

平均シタルモノヲ以テ平常點トシ其期ノ成績ヲ表シ全學科ノ平常點ヲ合計通約

シタルモノヲ以テ生徒ノ席次ヲ定ムヘシ

第二十一條 學年末ニ於テ每學科ノ學級試験點ニ其三學年ノ平常點ヲ合計通約シ

タルモノヲ加ヘ之ヲ二除シタルモノヲ學年評點トス

第二十二條 學年末ニ於テ及第落第ヲ判定スルニハ左ノ二項ニ依ルヘシ

第一項 每學科ノ學年評點六十以上ヲ得ルモノハ及第トシ以下ハ落第トス

第二項 一學科學年評點六十未滿ナルモ其評點四十以上若クハ二學科ノ學年評點各六十未滿大ルモ其評點五十以上ニシテ總評點平均七十以上ナルトキハ及第トス

但一學科臨時試験平均點又ハ學級試験評點零點ナルトキハ本項ヲ適用スルノ限ニアラス

第二十三條 凡テ試験ニ合格セサルモノ及缺席シタルモノハ何ノ事由アルモ其再試験ヲ受クルトナ得ス

第二十四條 臨時試験ニ缺席シタルモノニハ其受持教員ノ見込ヲ以テ相當ノ點數ヲ定メ學校長ノ認可ヲ得テ之ヲ與フヘシ

第二十五條 學級試験ニ缺席シタルモノト雖モ其學年ニ於テ每學科ノ通約平均點七十以上ニシテ平素品行方正ノ實蹟アリ且其缺席ハ病氣等止ムヲ得サル事故アリタルニ由ルノ實証著明ナルトキハ各教員ノ見込ニヨリ學校長ノ決裁ヲ經テ特別ニ昇級セシムルコトアルヘシ

但一學科又ハ數學科ノ試験ニ缺席シタルモノモ尙其學科ニ就キ本條ヲ適用シ以テ其及落ヲ判定スルコトアルヘシ

第二十六條 一學年内授業日數引續キ六十日以上若クハ通計百日以上缺席シタルモノハ學級試験ヲ受クルヲ得ス

但學業優秀ノ見込アルモノハ特ニ試験ヲナスコトアルヘシ

第二十七條 同學級ニ於テ再度落第シタル者ハ退學ヲ命スルコトアルヘシ

第二十八條 第五級乃至第二級ノ學級試験ニ及第シタルモノニハ第一號書式ノ修業證書ヲ授與シ第一級ノ學級試験ニ及第シタルモノニハ第二號書式ノ卒業證書ヲ授與スヘシ

第一號

第二號

修業證書

卒業證書

族籍戶主(誰男弟等)

族籍戶主(誰男弟等)

氏名

氏名

生年月

生年月

尋常中學科第何

右ハ當校所定ノ尋常中學

級ノ課程ヲ修業

科ヲ修メ正ニ其業ヲ卒ヘ

ス

タリ仍テ之ヲ証ス

年月日

年月日

愛媛縣尋常中學校

愛媛縣尋常中學校長姓名印

第何號

第何號

第二十九條 學年評點優等ニシテ品行方正ナルモノニハ褒狀ヲ附與ス  
 第三十條 凡テ試験ノ成績ハ學年末ニ於テ學校長ヨリ之ヲ縣知事ニ申報スヘシ  
 第三十一條 學級試験ノ後生徒各自ノ成績ハ其保證人又ハ其父母後見人ニ報告スルモノトス

第五章 入退學

第三十二條 入學ハ每學年ノ始メニ於テ之ヲ許ス  
 但學級編制ノ都合ニヨリテハ臨時ニ入學ヲ許スコトアルヘシ

第三十三條 入學シ得ヘキモノハ品行端正身體健康年齡十二年以上ニシテ入學試験ニ合格シタルモノトス

但募集ノ人員及期日ハ豫メ廣告スヘシ

第三十四條 入學ヲ欲スルモノハ父母後見人若クハ親戚故舊ヲ保證人ニ立テ連署ヲ以テ入學期日ニ先チ左ノ書式ノ入學願書貳通及履歷書壹通ヲ認メ差出スヘシ  
 但保證人ニ就テハ所轄市長村長ノ保認ヲ要ス

(入學願書雛形) (用紙美濃紙)

入學願書

私儀今般御校何學年級へ入學志願ニ候間御試験ノ上許可被成下度尤モ入學ノ上ハ御規則等堅ク相守可申別紙履歷書相添保證人連署ヲ以テ此段相願候也  
 族籍戶主(誰男弟等)

年 月 日

志願者 氏 名 印

全

保證人 氏 名 印

愛媛縣尋常中學校長宛

前書保證人ハ保證ノ責ニ任シ得ル者ト認メ候也

市町(村)長

氏 名 印

履歷書 (用紙美濃紙)

學業

一 自何年何月 何年何月 官立 町立 私立 何々學校ニ於テ何々科修業其卒業セシ教科目及用書何々

一 何年何月何日高等小學科卒業其證書寫左ノ通卒業證書全文ヲ掲クヘシ  
 賞罰

一 何年何月何日何處ニ於テ何等ノ件ニテ賞ヲ受ケ若クハ罰ヲ蒙ル等ノ事ヲ記載スヘシ  
 右之通相違無之候也

族籍戶主(誰弟等)

氏 名 印

第三十五條 入學ヲ許可サレタルモノハ松山市若クハ近傍町村ニ居住セル父母後見人又ハ丁年以上ノ戸主ヲ保證人ニ立テ左ノ書式ニ據リ入學證書ヲ出スヘシ  
但保證人ニ就テハ所轄市町村長ノ保證ヲ要ス  
(入學證書雛形) (用紙美濃紙)

入學證書

私儀今般御校入學差許サレ候ニ付テハ御規則并御達諭等堅ク相守可申尤モ在學中一身上ノ事件ハ保證人ニ於テ一切相引受ケ可申候也

族籍

何某長男或ハ弟

年月日

入學者

氏名印

全

保證人

氏名印

愛媛縣尋常中學校長宛

前書保證人ハ保證ノ責ニ任シ得ルモノト認メ候也

市町(村)長

氏名印

第三十六條 生徒ハ妄リニ退學スルヲ許サズ疾病若クハ正當ノ事故アリ退學セン

二十七年告示第百四十號ヲ以テ第三十八條但書改正

ト欲スルトキハ其事由ヲ詳記シ保證人連署ヲ以テ願出許可ヲ受クヘシ

第六章 授業料

第三十七條 授業料ハ一人一ヶ月金壹圓トス

但品行端正學業優秀ノ生徒ハ特ニ之ヲ減免スルコトアルヘシ

第三十八條 授業料ハ出席ノ有無ニ拘ハラズ毎月五日限り納ムヘシ

但休業又ハ停學一ヶ月以上ニ亘ル時ハ其全月ノ授業料ヲ徴收セス

第三十九條 入學又ハ退學ノ月(八月ヲ除ク)ハ昇校ノ日數ニ拘ハラズ都テ全額ヲ

徴收スルモノトス

第四十條 授業料ヲ怠納スルモノハ左項ニ依リ處分スヘシ

一 二ヶ月間怠納スルモノハ停學ヲ命ス

一 三ヶ月間怠納スルモノハ退學ヲ命ス

第七章 生徒心得

第四十一條 本校ノ生徒タル者ハ謹慎警戒以テ德行ヲ修メ刻苦卒勵以テ智識ヲ研キ攝養自保以テ身心ヲ健ニシ要スルニ完全ノ人トナルヲ期スヘシ今其居常復騰スヘキ件々ヲ左ニ掲ク

- 一 皇室ニ忠ニシテ國家ヲ愛シ父母ニ孝ニシテ長上ヲ敬シ朋友ニ信ニシテ卑幼ヲ慈ミ及自己ヲ重ニスル等人倫ノ大道ヲ体認スヘシ
- 一 禮讓ヲ厚クシ廉恥ヲ守リ躁妄ヲ警メ輕浮ヲ戒ムヘシ

- 一 鎮密靜肅以テ心志ヲ操持シ勉強忍耐以テ學業ヲ履修スヘシ
- 一 身体衣服居室ヲ清潔ニシ眠食勞逸ヲ適度ニシ以テ健康ヲ保全シ精神ヲ快活ニスヘシ
- 一 凡テ師長ノ訓誨ニ恭順シ學校ノ規律ヲ確守スヘシ
- 一 凡テ學資ハ學校ヨリ證明書ヲ得テ之ヲ父母若クハ後見人ニ出スニ非ラサレハ受領スルコトヲ得ス

第八章 通學生規則

- 第四十二條 毎日登校ハ始業時十分前タルヘシ
- 第四十三條 疾病等ノ事故アリテ一日以上缺席スルモノハ其旨ヲ詳記シ父母後見人若クハ保證人ノ證明ヲ得テ遅クモ翌日マテニ届出ツヘシ但登校ノ上當日ノ正課中一科又ハ數科ヲ缺課セントスルトキハ直ニ其理由ヲ書記ニ申出テ許可ヲ受クヘシ
- 但三日以上登校セサルトキハ醫師ノ診斷書ヲ添ヘ若クハ事由ヲ詳記シ父母後見人若クハ保證人ヨリ届出ツヘシ
- 第四十四條 學校ニ在ルルハ勿論往返ノ途中モ必ス本校規定ノ衣服ヲ着用スヘシ
- 第四十五條 通學生徒ハ一切寄宿舎ニ入ルコトヲ得ス  
但止ムヲ得サル事由アルトキハ書記ニ申出許可ヲ受クヘシ
- 第四十六條 生徒及保證人若シ宿所ヲ轉スル時ハ其都度届出ツヘシ

第九章 寄宿舎規則

- 第四十七條 入舎セント欲スルモノハ左ノ書式ニ依リ保證人連署ヲ以テ願書一通ヲ差出スヘシ
- 入舎願書 (用紙美濃紙)
- 私儀今般入舎仕度候ニ付テハ殊ニ品行ヲ慎ミ御舎則堅ク可相守候間御許可被成下度此段相願候也

年月日 第何年級 氏名印 保證人 氏名印

愛媛縣尋常中學校長何某殿

- 第四十八條 舎内ハ殊ニ規則嚴正ナルヲ要スルカ故ニ左ノ條款ヲ守ルヘキハ勿論晨起就寤外出歸舎就食等總テ其達示スル所ノ旨ニ遵フヘシ
- 第一款 殊ニ言行ヲ正シ攝生ニ注意シ何事ニヨラス凡テ舍監ノ指示ニ從フヘシ
- 第二款 舎内ハ靜肅ナルヲ要ス故ニ放歌吟詩奔走ハ勿論高聲ノ音讀等凡テ他人ノ勤學ニ妨ガアル舉動ヲナスヘカラス
- 第三款 身体ノ沐浴衣服ノ洗滌及室内ノ掃除ヲ怠ルナク専ラ清潔ヲ旨トスヘシ
- 第四款 居室ニ於テハ飲食スヘカラス

- 但疾病等ニテ醫師ノ差圖ニヨルトキハ此限ニアラス
- 第五款 他人ノ居室ニ入ルヘカラス  
但已チ得サル場合ハ舍監ノ許可ヲ受クヘシ
- 第六款 校長又ハ舍監ノ許可ナクシテ教科用書ノ外小説稗史ヲ閱覽シ又ハ無益ノ游戲ヲ爲スヘカラス
- 第七款 居室ハ舍監ノ定ムル所ニ從フヘシ
- 第八款 金錢衣服等凡テ貸借スヘカラス
- 第九款 外人ニ接スルニハ必ス應接所ニ於テスヘシ一切居室ニ伴フヘカラス  
但疾病等ニ罹リ居室ヲ出ツルト能ハサルモノハ舍監ノ許可ヲ受テ居室ニ伴フヲ得
- 第十款 教場ニ出ツルトキハ勿論事務所應接所ニ出テ又ハ門外ニ出ツルトキハ必ス規定ノ着服ヲナスヘシ
- 第十一款 一科タリトモ病氣ニテ缺席シタルモノハ當日外出スヘカラス  
但病症ニヨリ醫師ノ差圖アルトキハ此限ニアラス
- 第十二款 學校ノ器物ヲ毀損シ又ハ亡失スルトアルハ速ニ舍監ニ届出ツヘシ
- 第十三款 小使部屋等ニ立入又ハ私ニ小使ヲ使役スヘカラス
- 第四十九條 前條掲グル所ニ因リ難キ諸件ハ必ス舍監ニ申出指揮ヲ受クヘシ
- 第五十條 食費ハ一ヶ月分チ其前月末ニ豫算ヲ以テ納ムヘシ

- 第五十二條 生徒入會中ハ貳拾錢以上ノ金錢ヲ私貯スルヲ禁ス若シ之ヲ貯有スルトキハ直ニ書記ノ闕收ヲ請ヒ同官ノ預リ證書ヲ受領シ置キ入用ノ際其理由ヲ陳述シテ之ヲ受取ルヘシ
- 第五十三條 外出スル者ハ舍監ニ申出テ門鑑札ヲ受取り歸校ノ際之ヲ返納スヘシ  
但外出時限ハ時々之ヲ揭示スヘシ
- 第五十三條 臨時ニ外出セント欲スルトキハ父母後見人若クハ保證人ノ與書アル願書ヲ出シ舍監ノ許可ヲ請フヘシ  
但火急ノ場合ニテ本條ノ手續ヲナスニ暇アラサルトキハ特ニ舍監ノ許可ヲ得テ外出シ父母後見人若クハ保證人ヨリ其實事ヲ證明スル書面ヲ得テ歸舍ノ節差出スヘシ
- 第五十四條 外出中疾病事故アリテ歸舍時限ニ後ル、時又ハ外出スルトキハ父母後見人若クハ保證人ヨリ其實事ヲ詳記セル書面ヲ得テ歸舍スヘシ  
但外泊セルトキハ翌日始業前ニ歸校シ能ハサルトキハ父母後見人若クハ保證人ヨリ本人ノ書面ヲ出スヘシ
- 第五十五條 疾病事故ニ依リ歸郷又ハ下宿セントスルトキハ醫師ノ診斷書若クハ其事由ヲ詳具シ日數ヲ限リ父母後見人若クハ保證人連署ヲ以テ願出ツヘシ若シ日限已ニ盡キタルモ尙歸舍スル能ハサルトキハ更ニ本條ノ手續ヲナスヘシ
- 第五十六條 病氣ノ者其病狀ニヨリ病室ニ入レ或ハ下宿若クハ歸郷セシムルヲ

ルヘシ  
但下宿若クハ歸郷ヲ命セラレタル者ハ十五日ヲ經テ尙歸舍スルヲ得サル者ハ  
前條ノ手續ヲナスヘシ

第十章 罰則

第五十七條 凡ソ校則ヲ遵守セサル者ハ之ヲ罰ス

罰科ハ戒飭拘止禁外出放校ノ四トス

第五十八條 戒飭ハ學校長之ヲ説諭譴責シ拘止ハ課業後三時間以内學校ニ止メ禁  
外出ハ校外門ニ出ツルヲ禁シ放校ハ學校ヨリ放逐スルモノトス

第五十九條 拘止ハ通學生徒ニ之ヲ科シ禁外出ハ寄宿生徒ニ之ヲ科シ戒飭放校ハ  
通學生徒寄宿生徒共ニ之ヲ科ス

第六十條 犯則ノ輕キモノハ戒飭ニ處ス

第六十一條 犯則ノ重キモノハ一日以上七日以内ノ拘止又ハ禁外出ニ處シ其更ニ  
重キモノハ八日以上十五日以内ノ拘止又ハ禁外出ニ處ス

第六十二條 一學年中拘止七回以上又ハ禁外出五度ニ及フモノハ放校ニ處ス  
但情狀ノ酌量スヘキモノハ此限ニアラス

第六十三條 校規ヲ壞亂スルモノ又ハ怠惰放恣等凡テ風儀ヲ害スルト認定スルモ  
ノハ放校ニ處ス

○訓第一八八號 (明治二十五年六月二十二日)

尋常中學校

遠來ノ學生ハ父兄ノ監督行届ガサルヲ以テ自然放恣ニ流レ他日成業ノ妨害トナル  
コトハ學生ノ通患タリ依テ自今ニ層取締ヲ嚴ニシ確實ナル監督者アルニアラサレ  
ハ必ス寄宿舎ニ入舎セシメ蓋リニ外宿セシメサル様執計フヘシ

第三章 小學校

第一節 學級及教課

◎縣令第四十二號 (明治二十五年八月九日)

明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令第十二條ニ依リ小學校教則左ノ通  
之ヲ定メ本年十月一日ヨリ施行ス

小學校教則

第二章 教授要旨及程度

第一條 小學校ニ於テハ小學校令第一條ノ旨趣ヲ遵守シテ兒童ヲ教育スヘシ  
徳性ノ涵養ハ教育上最モ意ヲ用フヘキナリ故ニ何レノ教科目ニ於テモ道德教育  
國民教育ニ關聯スル事項ハ殊ニ留意シテ教授センコトヲ要ス  
知識技能ハ確實ニシテ實用ニ適センコトヲ要ス故ニ常ニ生活ニ必須ナル事項ヲ

撰ミテ之ヲ教授シ反覆練習シテ應用自在ナラシムルコトヲ務ムヘシ

各教科目ノ教授ハ其目的及方法ヲ誤ルコトナク互ニ相聯絡シテ補益セシムルヲ要ス

第三條 修身ハ教育ニ關スルモ勸語ノ旨趣ニ基キ兒童ノ良心ヲ啓培シテ其徳性ヲ

涵養シ人道實踐ノ方法ヲ授クルカ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ孝悌、友愛、仁慈、信實、禮敬、義勇、恭儉等實踐ノ方法ヲ授ケ

殊ニ尊王愛國ノ志氣ヲ養ハントコトヲ務メ又國家ニ對スル責務ノ大要ヲ指示シ兼

テ社會ノ制裁、廉耻ヲ重シスヘキコトヲ知ラシメ兒童ヲ誘キテ風俗品位ノ純正

ニ趨カシムルコトニ注意スヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ノ旨趣ヲ擴メテ陶冶ノ功ヲ堅固ナラシムルコトヲ務ム

ヘシ

女兒ニアリテハ殊ニ貞淑ノ美德ヲ養ハントコトニ注意スヘシ

修身ヲ授クルニハ近易ノ俚諺及嘉言善行等ヲ例證シテ勸戒ヲ示シ教員身自ラ兒

童ノ模範トナリ兒童ヲシテ浸潤薰染セシムルコトヲ要ス

第三條 讀書及作文ハ普通ノ言語並日常須知ノ文字、文句、文章ノ讀ミ方綴リ方及

ハ意義ヲ知ラシメ適當ナル言語及字句ヲ用ヒテ正確ニ思想ヲ表彰スルノ能ヲ養ヒ

兼テ智徳ヲ啓發スルカ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ近易適切ナル事物ニ就キ平易ニ談話シ其言語ヲ練習シテ假

名ノ讀ミ方、書キ方、綴リ方ヲ知ラシメ次ニ假名ノ短文及近易ナル漢字交リノ

類ヲ授クヘシ

短文ヲ授ケ漸ク進ミテハ讀書作文ノ教授時間ヲ分チ讀書ハ假名文及近易ナル漢

字交リ文ヲ授ケ作文ハ假名文、近易ナル漢字交リ文、日用書類等ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ讀書ハ普通ノ漢字交リ文ヲ授ケ作文ハ漢字交リ文及日用書

類ヲ授クヘシ

讀書作文ヲ授クル際單語、短句、短文等ヲ書取ラシメ若クハ改作セシメテ假名及

語句ノ用法ニ熟セシムヘシ

作文ハ讀書又ハ其他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項、兒童ノ日常見聞セル事項及

處世ニ必須ナル事項ヲ記述セシメ行文平易ニシテ旨趣明瞭ナランコトヲ要ス

言語ハ他ノ教科目ノ教授ニ於テモ常ニ注意シテ練習セシムルコトヲ要ス

第四條 習字ハ通常ノ文字ヲ書キ方ヲ知ラシメ運筆ニ習趣セシムルカ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ片假名及平假名、近易ナル漢字交リ短句、通常ノ人名、苗字、

物名、地名等ノ日用文字及日用書類ヲ習ハシムヘシ

高等小學校ニ於テハ前項ノ事項ヲ擴メ更ニ日常適切ノ文字ヲ増シ又日用書類ヲ

習ハシムヘシ

漢字ノ書体ハ尋常小學校ニ於テハ行書及楷書トシ高等小學校ニ於テ楷書、行書、

草書トス

習字ヲ授クル際殊ニ姿勢ヲ整ヘ執筆及運筆ヲ正クシ字行ハ整正ヲ尙ヒ運筆ハ務

メテ速ナラシムルコトヲ要ス



他ノ教科目ノ教授ニ於テ文字ヲ書カシムルコトアルトキハ亦常ニ其字形及字行ヲ正シクセシメシムコトヲ要ス

第五條 算術ハ日常ノ計算ニ習熟セシメ兼テ思想ヲ精密ニシ傍ラ生業上有益ナル智識ヲ與フルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ニ於テハ專ラ珠算ヲ用ヒ初メ八十以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル計ヘ方及加減乗除ヲ授ケ漸ク數ノ範圍ヲ擴メテ萬以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル加減乗除及通常ノ小數ノ計ヘ方ヲ授クヘシ

但土地ノ情況ニ依リ筆算ヲ併用スルモ妨ナシ此場合ニ於テハ市參事會、町村長、町村學校組合長又ハ私立小學校設立者ヨリ知事ニ開申スヘシ

初年ヨリ漸ク度量衡、貨幣及時刻ノ制ヲ授ケ之ヲ日常ノ事物ニ應用シテ其計算ニ習熟セシムヘシ

高等小學校ニ於テハ筆算ヲ用ヒ初メハ加減乗除ヲ授ケ度量衡貨幣及時刻ノ計算ヲ練熟セシメ漸ク進ミテハ簡易ナル比例問題ト通常ノ分數小數トヲ併セ授ケ又學校ノ修業年限ニ應シ更ニ稍複雑ナル比例問題日常適切ノ百分算及日用簿記ノ概略ヲ授ケ兼テ珠算ヲ用ヒテ加減乗除ノ練習ヲナスヘシ

算術ヲ授クルニハ理會精密ニ運算習熟シテ應用ナラシメンコトヲ務メ又常ニ正確ナル言語ヲ用ヒテ運算ノ方法及理由ヲ説明セシメ殊ニ暗算ニ熟達セシメンコトヲ要ス

算術ノ問題ハ他ノ教科目ニ於テ授ケタル事項ヲ適用シ又ハ土地ノ情況ヲ斟酌シテ日常適切ノモノヲ撰ブヘシ

第六條 日本地理及外國地理ハ日本ノ地理及外國地理ノ大要ヲ授ケテ人民ノ生活ニ關スル重要ナル事項ヲ理會セシメ兼テ愛國ノ精神ヲ養フヲ以テ要旨トス  
尋常小學校ノ教科ニ日本地理ヲ加フルトキハ郷土ノ地形方位等兒童ノ日常目撃セル事物ニ就キテ端緒ヲ開キ漸ク進ミテ本邦ノ地形、氣候、著名ノ都會、人民ノ生業等ノ概略ヲ授ケ更ニ地球ノ形狀、水陸ノ別其他重要ニシテ兒童ノ理會シ易キ事項ヲ知ラシムヘシ

高等小學校ニ於テハ日本地理ハ前項ニ準シテ稍詳ニ之ヲ授ケ更ニ地球ノ渾動晝夜四季ノ原由ヲ理會セシメ外國地理ハ大洋、大洲、五帶ノ別各大洲ノ地形、氣候、產物、人種及支那朝鮮其他本邦トノ關係ニ於テ重要ナル諸國ノ地理ノ概略ヲ授ケ又學校ノ修業年限ニ應シ既ニ授ケタル日本地理ヲ複習シテ稍詳ニ人民ノ生活ニ關スル重要ナル事項ヲ授ケ兼テ簡易ナル經濟上ノ關係ヲ理會セシムヘシ  
地理ヲ授クルニハ實地ノ觀察ニ基キ又地球儀、地圖、寫眞等ヲ示シテ兒童ノ熟知セル事物ニ依リ比較類推セシメテ確實ナル智識ヲ得セシメ又常ニ歷史上ノ事實ニ聯絡セシメンコトヲ要ス

第七條 日本歴史ハ本邦國體ノ大要ヲ知ラシメテ國民タル志操ヲ養フヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ日本歴史ヲ加フルトキハ郷土ニ關スル史談ヨリ始メ漸ク建國ノ体制、皇統ノ無窮、歷代天皇ノ盛業、忠良賢哲ノ事蹟、國民ノ武勇、文化ノ由來等ノ概略ヲ授ケテ國初ヨリ現時ニ至ル迄ノ事歴ノ大要ヲ知ラシムヘシ  
 高等小學校ニ於テハ前項ニ準シテ稍詳ニ國初ヨリ現時ニ至ル迄ノ事歴ヲ授クヘシ  
 日本歴史ヲ授クルニハ成ルヘク圖書ヲ示シ兒童ヲシテ當時ノ實狀ヲ想像シ易カラシメ人物ノ言行等ニ就キテハ之ヲ修身ニ於テ授ケタル格言等ニ照ラシテ正邪是非ヲ辨別セシメントト要ス

第八條 理科ハ通常ノ天然物及現象ノ觀察ヲ精察ニシ其相互及人生ニ對スル關係ノ大要ヲ理會セシメ兼テ天然物ヲ愛スルノ心ヲ養フヲ以テ要旨トス  
 最初ハ主トシテ學校所在ノ地方ニ於ケル植物、動物、礦物及自然ノ現象ニ就キテ兒童ノ目撃ヲ得ル事實ヲ授ケ就中重要ナル植物、動物ノ形狀構造及生活發育ノ狀態ヲ觀察セシメテ其大要ヲ理會セシメ又學校ノ修業年限ニ應シ更ニ植物、動物ノ相互及人生ニ對スル關係、通常ノ物理上、化學上ノ現象、通常兒童ノ目撃シ得ル器械ノ構造、作用等ヲ理會セシメ兼テ人身ノ生理及衛生ノ大要ヲ授クヘシ  
 理科ニ於テハ務メテ農業、工業其他人民ノ生活上ニ適切ナル事項ヲ授ケ殊ニ植物、動物等ヲ授ケル際之ヲ以テ製スル重要ナル人工物ノ製法、効用等ノ概略ヲ知ラシムヘシ

理科ヲ授クルニハ實地ノ觀察ニ基キ若クハ標本、模型、圖書等ヲ示シ又ハ簡短ナル試驗ヲ施シ明瞭ニ理會セシメントト要ス

第九條 圖書ハ眼及手ヲ練習シテ通常ノ形体ヲ看守シ正シク之ヲ畫クノ能ヲ養ヒ兼テ意匠ヲ練テ形体ノ美ヲ辨別知セシムルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ圖書ヲ加フルトキハ直線、曲線及其單形ヨリ始メ時々直線、曲線ニ基キタル諸形ヲ工夫シテ之ヲ畫カシメ漸ク進ミテハ簡單ナル形体ヲ畫カシムヘシ

高等小學校ニ於テハ初メハ前項ニ準シ漸ク進ミテハ諸般ノ形体ニ移リ實物若クハ手本ニ就キテ畫カシメ又時々自己ノ工夫ヲ以テ圖案セシメ兼テ簡易ナル用器畫ヲ授クヘシ

第十條 唱歌ハ耳及發聲器ヲ練習シテ容易キ歌曲ヲ唱フコトヲ得シメ兼テ音樂ノ美ヲ辨別知セシメ徳性ヲ涵養スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ唱歌ヲ加フルトキハ通常譜表ヲ用キスシテ容易キ單音唱歌ヲ授クヘシ

第十一條 體操ハ身体ノ成長ヲ均齊ニシテ健康ヲラシメ精神ヲ快活ニシテ剛毅ヲ

ラシメ兼テ規律ヲ守ルノ習慣ヲ養フヲ以テ要旨トス  
尋常小學校ニ於テハ最初適宜ノ遊戲ヲナサシメ漸ク普通体操ヲ加ヘ男兒ニハ兵  
式体操ノ一部ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ男兒ニハ主トシテ兵式体操ヲ授ケ女兒ニハ普通体操若クハ  
遊戲ヲ授クヘシ

土地ノ情況ニ依リテハ体操ノ教授時間ノ一部若クハ授業時間ノ外ニ於テ適宜ノ  
戶外運動ヲナサシメ又夏季ニ於テハ水泳ヲ授クルコトアルヘシ

体操ノ教授ニ依リテ習成シタル姿勢ハ常ニ之ヲ保タシメントナ要ス

第十二條 裁縫ハ眼及手ヲ練習シテ通常ノ衣服ノ縫方及裁方ニ習熟セシムルヲ以  
テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ裁縫ヲ加フルトキハ運針法ヨリ始メテ簡易ナル衣服ノ縫方  
ヲ授ケ又便宜通常ノ衣服ノ繕ヒ方等ヲ授クヘシ

高等小學校ニ於テハ初ハ前項ニ準シ漸ク通常ノ衣服ノ縫方、裁方ヲ授クヘシ  
裁縫ノ品類ハ日常所用ノモノヲ撰ヒ之ヲ授クル際用具ノ種類、衣服ノ保存方及  
洗濯方等ヲ教示シ常ニ節約利用ノ習慣ヲ養ハントナ要ス

第十三條 手工ハ眼及手ヲ練習シテ簡易ナル物品ヲ製作スルノ能ヲ養ヒ勤勞ヲ好  
ムノ習慣ヲ長スルヲ以テ要旨トス

尋常小學校ノ教科ニ手工ヲ加フルトキハ紙、絲、粘土、麥藁等ヲ用キテ簡易ナル

細工ヲ授クヘシ

高等小學校ノ教科ニ手工ヲ加フルトキハ紙、粘土、木、竹、銅線、鐵葉、鉛等ヲ用  
ヒテ簡易ナル細工ヲ授クヘシ

手工ノ品類ハ成ルヘク有用ナルモノヲ撰ヒ之ヲ授クル際其材料及用具ノ種類等  
ヲ教示シ常ニ節約利用ノ習慣ヲ養ハントナ要ス

第十四條 高等小學校ノ教科ニ幾何ノ初步ヲ加フルトキハ簡易ナル線角、面体ノ  
性質及種類ヲ知ラシメ尙進ミテハ三角形ノ同形、類形及勾股弦ノ關係等ヲ理會  
セシムヘシ

幾何ノ初步ヲ授クルニハ先ツ器具、家屋、地形等ヲ觀察セシメ更ニ其模型若ク  
ハ圖ヲ示シ兒童ヲシテ之ヲ畫キ其尺度又ハ角度ヲ測定比較シテ其性質關係ヲ知  
ラシメ專ラ實驗ニ依リテ証明シ又既ニ授ケタル事項ヲ應用シ諸種線形等ヲ構成  
シテ其度量ヲ計算セシメ之ヲ實地ニ應用スルノ能ヲ養ハントナ要ス

第十五條 高等小學校ノ教科ニ外國語ヲ加フルハ將來ノ生活上其智識ヲ要スル兒  
童ノ多キ場合ニ限ルモノトシ讀方、譯解、習字、書取、會話、文法及作文ヲ授ケ外  
國語ヲ以テ簡易ナル會話及通信等ヲナスコトヲ得シムヘシ

外國語ヲ授クルニハ常ニ其發音及文法ニ注意シ正シキ國語ヲ用キテ譯解セシメ  
ンコトヲ要ス

第十六條 高等小學校ノ教科ニ農業ヲ加フルトキハ地理、理科等ノ教授ニ聯絡シ

テ土壤、水利、肥料、農具、栽耘栽培、養蠶、養畜等ニ關シ土地ノ情況ニ緊切ニシテ  
兒童ノ理會シ易キ事項ヲ授ケ便宜之ヲ實習セシメテ農業ノ趣味ヲ長シ兼テ節約  
利用、勤勉、貯蓄ノ習慣ヲ養ハシコトヲ要ス

第十七條 高等小學校ノ教科ニ商業ヲ加フルトキハ算術、地理等ノ教授ニ聯絡シ  
テ商店、會社、賣買、金融、運送、保險等ニ關スル重要ナル事項ニシテ兒童ノ理會  
シ易キモノヲ撰ヒ習慣及法令等ニ基キ之ヲ授ケ又簡易ナル商用簿記ヲ授クヘシ

第十八條 補習科ハ尋常小學校若クハ高等小學校ニ於テ兒童ノ既ニ學習シタル事  
項ヲ練習補習シ殊ニ之ヲ實地ニ應用スルノ法ヲ授ケテ處世ニ資セシムルヲ以テ  
要旨トス

補習科ノ程度ハ尋常小學校若クハ高等小學校ノ教科ノ程度ヲ標準トシ兼テ人民  
ノ生活上必須ナル事項ヲ加ヘテ授ケンコトヲ要ス  
補習科ニ於テ授クル事項ハ總テ實際ノ業務ニ密接ノ關係ヲ有スルモノタルヘシ  
故ニ農工商等其地方ノ生業ニ最も適切ナルモノヲ撰ミテ之ヲ授クヘシ

第十九條 第二章 教科課程及教授時間  
但土地ノ情況ニ依リ其教科目ヲ加ヘ又ハ所定ノ教科目ヲ缺クトキハ市參事會  
町村長、町村學校組合長又ハ私立小學校設立者ニ於テ學校長又ハ首席教員  
ノ意見ヲ聞キ知事ノ許可ヲ受ケテ適宜教授時間ヲ變更スルコトヲ得

第二十條 尋常小學校又ハ高等小學校ニ於テ土地ノ情況ニ依リ其教科目ヲ加フル  
トキハ市參事會、町村長、町村學校組合長又ハ私立小學校設立者ニ於テ學校長  
又ハ首席教員ノ意見ヲ聞キ其教科目ノ課程及每週教授時間ヲ定メ知事ノ許可ヲ  
受クヘシ

但教授時間ハ他ノ教科目ノ教授時間ヲ減シテ之ニ充ントスルトキハ讀書以下  
ノ科目中ニ就キ每週四時以內ヲ減スルコトヲ得又新ニ時間ヲ加ヘントスルト  
キハ尋常小學校ニ就キテハ每週三時間高等小學校ニ就キテハ同シク六時間ヲ  
超ユルコトヲ得ス

第二十一條 尋常小學校又ハ高等小學校ニ於テ某教科目ヲ隨意科目トナストキハ  
市參事會、町村長、町村學校組合長又ハ私立小學校設立者ニ於テ學校長又ハ首  
席教員ノ意見ヲ聞キ正教科ノミヲ修ムル兒童ノ爲メニ不利ナキ様適宜教授時間  
ヲ配當シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二十二條 尋常小學校ニ於テ學級編制等ニ關スル規則第九條ニ依リ全校ノ兒童  
ヲ二部ニ區分シ時間ヲ異ニシテ教授スルトキハ各教科目ノ每週教授時間ハ市參  
事會、町村長、町村學校組合長又ハ私立小學校設立者ニ於テ學校長又ハ首席教  
員ノ意見ヲ聞キ適宜之ヲ定メ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二十三條 尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トチ一校ニ併セ置クトキハ兩  
教科目ヲ聯絡センガ爲メ各教科目ノ教授課程ヲ斟酌スルコトヲ得此場合ニ於テ

第十三編 學校 ○第三章 小學校 ○第一節 學級及教課

ハ市參事會、町村長、町村學校組合長又ハ私立小學校設立者ニ於テ學校長又ハ首席教員ノ意見ヲ聞キ其程度ヲ定メ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二十四條 補習科ヲ設クルトキハ市參事會、町村長、町村學校組合長又ハ私立小學校設立者ニ於テ學校長又ハ首席教員ノ意見ヲ聞キ其課程ハ本則ノ課程表ニ比準シ教授時間ハ成ルヘク實際ノ業務ニ従事スルモノ、便チ圖リ夜間、休業日又ハ其他通常ノ教授時間外ニ於テ每週四時以上十八時以下ノ範圍ニ依リ適宜之ヲ定メ知事ノ許可ヲ受クヘシ

### 第三章 試驗

第二十五條 試驗ハ專ラ學業ノ進歩及習熟ノ度ヲ檢定シテ教授上ノ參考ニ供シ又平生ノ成績ヲ考察シテ卒業若クハ修業ヲ認定スルヲ以テ目的トス

第二十六條 試驗ヲ分ツテ學年試驗臨時試驗ノ二トス

學年試驗ハ每學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ

臨時試驗ハ一學年間ニ於テ三回乃至六回之ヲ行フ

第二十七條 試驗施行ノ期日及時間ハ豫メ學校長又ハ首席教員ヨリ市町村長、町村學校組合長又ハ私立小學校設立者ニ報告スヘシ

第二十八條 試驗ノ答按ニハ適宜評點ヲ附シ兒童ノ注意ヲ惹起スヘシ

第二十九條 學年試驗ノ成績不良ナルモノハ原學年ニ止ムヘシ

但平素ノ品行學力体力等ヲ考察シ相當ナリト認ムルトキハ假リニ次學年ノ課程ヲ修業セシムルコトヲ得

前項但書ニ依リ處分シタルモノハ凡三ヶ月間該學年ノ課程ヲ修業セシメ其成績履修ニ堪フヘキモノト認ムルトキハ前學年ノ修業證書ヲ附與シ不良ナルモノハ原學年ニ止ムヘシ

第三十條 學校長又ハ首席教員ハ學年ノ終ニ於テ左ノ證書ヲ附與スヘシ

學年ノ課程ヲ修了シタルモノニハ修業證書ヲ附與スヘシ

最終學年ノ課程ヲ修了シタルモノニハ卒業證書ヲ附與スヘシ

數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制シタル場合及單級ノ小學校ニ於テ一學年間課業ヲ學習シタルモノニハ學習證書ヲ附與スヘシ

第三十一條 學年試驗終了シタルトキハ直ニ其成績表及學習證書ヲ附與シタル兒童ノ名簿ヲ添ヘ學校長又ハ首席教員ヨリ市町村長、町村學校組合長又ハ私立小學校設立者ニ報告スヘシ

第三十二條 私立小學校設立者ハ第二十七條及第三十一條ノ報告ヲ受ケタルトキハ直ニ之ヲ所轄ノ市町村長又ハ町村學校組合長ニ移牒スヘシ

第三十三條 郡市長ニ於テ試驗施行ニ關スル細則ヲ設グル必要アリト認ムルトキハ之ヲ定メ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第三十四條 補習科ノ試験モ亦本章ヲ適用ス  
附録書式

卒業證書式

番 號

卒業證書

族籍戶主(誰男女弟妹等)

氏 名

校 印

生年月

尋常(高等)小學校(修業年限何個年)ノ教科ヲ

卒業セシコトヲ證ス

年 月 日

愛媛縣何市何町(私)立何尋常(高等)小學校長(訓導)氏名印

同學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制シタル場合及數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制シタル  
場合ニ於テ其學級ニ該當スル學年ノ課程ヲ修業シタルモノニ授與スル修業證書  
式

修業證書

族籍戶主(誰男女弟妹等)

氏 名

生年月

校 印

尋常(高等)小學校第何學年何々學年ノ課程ヲ

修業セシコトヲ證ス

年 月 日

愛媛縣何市何町(私)立何尋常(高等)小學校

(何々學年)ハ數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制シタル場合ノ一例  
ヲ示シタルモノナリ

數學年ノ兒童ヲ一學級ニ編制シタル場合及單級ノ小學校ニ於テ一個年間課業ヲ學習シタルモノニ授與スル學習證書式（此證書ハ一學年ノ課程ヲ修業シタルコトヲ證明スルモノニアラス）

學習證書

族籍戶主（誰男女弟妹等）

氏名

校印

生年月

本學年間ノ課業ヲ學習セシコト

ヲ證ス

年月日

愛媛縣何市何町立何尋常（高等）（尋常）小學校

（附錄試驗成績表式）試驗成績表式

○…學校長檢印何試驗成績表 愛媛縣何市何町（私）立何尋常（高等）（尋常）小學校

| 學年 | 在籍<br>兒童數 | 受檢<br>兒童數 | 合格<br>兒童數 | 不合格<br>兒童數 | 施行年月日 | 受持教員氏名 | 修身 | 讀書 | 作文 | 習字 | 算術 | 地理<br>歴史 | 理科 | 圖畫 | 唱歌 | 体操 | 裁縫 | 總點 | 合格 | 不合格 | 席次 | 氏名 | 年齢 |
|----|-----------|-----------|-----------|------------|-------|--------|----|----|----|----|----|----------|----|----|----|----|----|----|----|-----|----|----|----|
|    |           |           |           |            |       |        |    |    |    |    |    |          |    |    |    |    |    |    | 席次 | 氏名  |    |    |    |
|    |           |           |           |            |       |        |    |    |    |    |    |          |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |
|    |           |           |           |            |       |        |    |    |    |    |    |          |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |
|    |           |           |           |            |       |        |    |    |    |    |    |          |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |
|    |           |           |           |            |       |        |    |    |    |    |    |          |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |
|    |           |           |           |            |       |        |    |    |    |    |    |          |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |
|    |           |           |           |            |       |        |    |    |    |    |    |          |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |
|    |           |           |           |            |       |        |    |    |    |    |    |          |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |
|    |           |           |           |            |       |        |    |    |    |    |    |          |    |    |    |    |    |    |    |     |    |    |    |

一 本表各教科目ノ欄内ニハ試験ノ成績ト平素ノ状態トヲ參酌シテ適當ノ評點ヲ記入スヘシ其點數ハ每教科目十點ヲ以テ滿點トスヘシ

一 本表ハ學年臨時ノ兩試験ニ適用ス

一 本表各教科目ノ欄内ニハ隨意科トシテ省キタルモノニハ（隨）体操又ハ唱歌等ヲ課セサルモノハ（除）試験ニ依席シタルモノニハ（缺）ノ字ヲ記入スヘシ

一 尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トヲ併セ置キタル小學校ニ於テハ學年ノ欄ニ尋常又ハ高等ノ文字ヲ冠シテ學年ヲ記入スヘシ

一 受持教員ハ氏名ノ下ニ氏印又ハ實印ヲ押捺スヘシ

第十九條ノ別表

尋常小學校教科課程表

| 科目 | 第一學年 |                        | 第二學年 |                       | 第三學年 |                            | 第四學年 |                            |
|----|------|------------------------|------|-----------------------|------|----------------------------|------|----------------------------|
|    | 時間   | 教授                     | 時間   | 教授                    | 時間   | 教授                         | 時間   | 教授                         |
| 修身 | 三    | 人道實踐                   | 三    | 人道實踐                  | 三    | 人道實踐                       | 三    | 人道實踐                       |
| 讀書 | 九    | 假名ノ短文                  | 七    | 近易ナル漢字交リ文(假名文ヲ交ニ)     | 七    | 近易ナル漢字交リ文                  | 七    | 近易ナル漢字交リ文                  |
| 作文 | 九    | 近易ナル漢字交リノ短句            | 二    | 近易ナル漢字交リ文(假名文ヲ交ニ)     | 三    | 近易ナル漢字交リ文                  | 三    | 近易ナル漢字交リ文                  |
| 習字 | 四    | 片假名ノ平假名ノ近易ノ漢字交リノ短句     | 四    | 近易ノ漢字交リノ短句            | 五    | 日用書文ノ類                     | 五    | 日用書文ノ類                     |
| 算術 | 五    | 二十以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル計ヘ方及加減乗除 | 五    | 百以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル計ヘ方及加減乗除 | 六    | 千以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル計ヘ方及通常ノ小數ノ計ヘ方 | 六    | 万以下ノ數ノ範圍内ニ於ケル計ヘ方及通常ノ小數ノ計ヘ方 |
| 體操 | 三    | 遊戯                     | 三    | 普通體操                  | 三    | 普通體操                       | 三    | 普通體操                       |
| 計  | 二四   |                        | 二四   |                       | 二七   |                            | 二七   |                            |

一 本表ハ修業年限四箇年ノ多級ノ學校ノ教科課程表ニシテ修業年限三箇年ノ多級ノ學校ニ於テハ其修業年限ニ該當スル各學年ノ課程ニ準シテ修了セシム

ムヘキモノトス

一 甲乙兩學年ノ兒童ヲ合シテ編制シタル學級ニ於テハ二箇年間ニ之ニ該當スル學年ノ課程ヲ修メシムヘシ

一 單級ノ學校ニ於テハ其修業年限ニ該當スル課程ニ比準シテ修了セシムヘシ

一 兒童入學ノ初ニ於テハ便宜本表ノ時間ヲ十八時迄減スルコトヲ得

一 每學年算ノ術數ノ範圍ハ教授ノ都合ニ依リ其幾分ヲ超過スルモ妨ナキ者トス

第十九條ノ別表

高等小學校教科課程表

| 科目 | 第一學年 |                           | 第二學年 |                | 第三學年 |         | 第四學年 |         |
|----|------|---------------------------|------|----------------|------|---------|------|---------|
|    | 時間   | 教授                        | 時間   | 教授             | 時間   | 教授      | 時間   | 教授      |
| 修身 | 二    | 人道實踐                      | 二    | 人道實踐           | 二    | 人道實踐    | 二    | 人道實踐    |
| 讀書 | 五    | 漢字交リ文                     | 五    | 漢字交リ文          | 五    | 漢字交リ文   | 五    | 漢字交リ文   |
| 作文 | 二    | 漢字交リノ類文                   | 二    | 漢字交リノ類文        | 二    | 漢字交リノ類文 | 二    | 漢字交リノ類文 |
| 習字 | 三    | 日用書文ノ類                    | 三    | 日用書文ノ類         | 三    | 日用書文ノ類  | 三    | 日用書文ノ類  |
| 算術 | 五    | 加減乗除ノ範圍内ニ於ケル計ヘ方及通常ノ小數ノ計ヘ方 | 五    | 簡易ナル比例問題ノ分數及小數 | 五    | 例分      | 五    | 例分      |
| 計  | 二四   |                           | 二四   |                | 二七   |         | 二七   |         |



|    |    |                              |            |                         |  |                            |               |               |
|----|----|------------------------------|------------|-------------------------|--|----------------------------|---------------|---------------|
| 計  | 裁縫 | 體操                           | 唱歌         | 圖畫                      | 理科   | 外國地理                       | 日本歷史          | 日本地理          |
| 三〇 | 三  | 男女<br>女二 男三<br>普通體操若クハ<br>遊戯 | 二<br>單音 唱歌 | 二<br>直線及曲線ノ單形<br>簡單ナル形体 | 二<br>於ケル植物動物礦物<br>及自然ノ現象                           | 女三<br>初ヨリ現時ニ至ル<br>マテノ事歴ノ大要 | 男四<br>日本地理ノ大要 | 男四<br>日本地理ノ大要 |
| 三〇 | 三  | 男女<br>女二 男三<br>普通體操若クハ<br>遊戯 | 二<br>單音 唱歌 | 二<br>簡單ナル形体             | 二<br>於ケル植物動物礦物<br>及自然ノ現象                           | 女三<br>前學年ノ續                | 男四<br>日本地理ノ大要 | 男四<br>日本地理ノ大要 |
| 三〇 | 三  | 男女<br>女二 男三<br>普通體操若クハ<br>遊戯 | 二<br>單音 唱歌 | 二<br>諸般ノ形体              | 二<br>植物動物ノ相互及<br>人生ニ對スル關係<br>上ノ現象通常ノ器<br>械ノ構造作用ノ大要 | 女三<br>國初ヨリ現時ニ<br>至ルマテノ事歴   | 男四<br>外國地理ノ大要 | 男四<br>日本地理ノ大要 |
| 三〇 | 三  | 男女<br>女二 男三<br>普通體操若クハ<br>遊戯 | 二<br>單音 唱歌 | 二<br>諸般ノ形体及簡易<br>ナル用器畫  | 二<br>植物動物ノ相互及<br>人生ニ對スル關係<br>上ノ現象通常ノ器<br>械ノ構造作用ノ大要 | 女三<br>前學年ノ續                | 男四<br>日本地理ノ大要 | 男四<br>日本地理ノ大要 |

一 本表ノ每週教授時間ハ男女ヲ區別シテ教授スル場合ニ於ケル各教科目ノ每週教授時間ヲ示シタルモルニシテ男女ヲ區別セスシテ教授スル場合ニ於テハ男女共ニ算術ノ每週教授時間ヲ五時日本地理日本歴史外國地理ノ每週教授時間ヲ四時トシ女兒ニ就キテ圖畫及唱歌ノ每週教授時間中ヨリ各一時ヲ減スヘシ

一 本表ハ修業年限四ヶ年ノ多級ノ學校ノ教科課程表ニシテ修業年限二ヶ年若クハ三ヶ年ノ多級ノ學校ニ於テハ其修業年限ニ該當スル各學年ノ課程ニ準シテ之ヲ修了セシムヘシ

但修業年限二ヶ年ノ學校ニ於テハ其第二學年ニ外國地理ノ大要ヲ加ヘ修業年限三ヶ年ノ學校ニ於テハ其第三學年ニ日本地理ノ補習ヲ加フヘシ又修業年限ノ長短ニ應ジ教授上自ラ精粗ノ別アルヘシト雖モ各教科目ノ教授ヲ修了セシムヘキモノトス

一 甲乙學年ノ兒童ヲ合シテ編制シタル學級ニ於テハ二ヶ年間ニ之ニ該當スル學年ノ課程ヲ修了セシムヘシ

一 單級ノ學校ニ於テハ其修業年限ニ該當スル學年ノ課程ニ準シ之ヲ修了セシムヘシ

尋常小學校教科用圖書配當表

| 教科目 | 學年  |                              |                        |                  |
|-----|---|------------------------------|------------------------|------------------|
|     | 第一學年  | 第二學年                         | 第三學年                   | 第四學年             |
| 修身  |   |                              |                        |                  |
| 讀書  | 小學簡易科讀本一、二<br>簡易讀本一、二<br>第一讀本上、下<br>日本讀本初歩一、二 | 同<br>同<br>第二讀本上、下<br>日本讀本一、二 | 同<br>同<br>第三讀本上、下<br>同 | 同<br>同<br>同<br>同 |
| 作文  | 改尋常小學<br>正習字本                                 | 一二同                          | 三四同                    | 五六同<br>七八        |

| 習字 | 新定                     |   |             |             |
|----|------------------------|---|-------------|-------------|
|    | 小學習字帖一、二               | 同 | 三、四同        | 五、六同        |
| 算術 | 小學算術帖<br>尋常科第一、二<br>上下 | 同 | 全第二年<br>上、下 | 全第三年<br>上、下 |
| 體操 |                        |   |             | 全第四年<br>上、下 |

一 本表教科用圖書ノ配當ハ其大体ヲ定メタルモノナレハ間々教科課程ニ適合セサルモノアルヘシ故ニ此場合ニ於テハ該圖書中ニ就キ適宜取捨増減シテ之ヲ授クルモノトス

一 本表教科目中圖書ノ配當ヲ記セサルモノハ追テ之ヲ定ムルマテ從前所定ノ教科圖書又ハ教員參考用圖書中文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ撰定シテ教員用教科圖書ニ代用スルモノトス

一 補習科ノ教科用圖書ハ追テ之ヲ定ムルマテ從前所定ノ尋常小學校又ハ高等小學校教科用圖書及教員參考用圖書中文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ適宜撰定シテ代用スルモノトス

一 土地ノ情况ニ依リ某教科目ヲ加フルトキハ其教科用圖書ハ從前所定ノ尋常小學校又ハ高等小學校教科用圖書及教員參考用圖書中文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ撰定シテ教員用教科圖書トシテ之ヲ代用スルモノトス

但シ圖書ノ教科書ハ生徒用トナスモ妨ナシ  
 一 前各項ニ依リ撰定スル圖書ハ學校長又ハ首席教員ニ於テ市町村長、町村學校組合長又ハ私立小學校設立者ニ協議ヲ經テ之ヲ定メ豫メ縣廳ニ開申スヘシ  
 一 從前所定ノ教科用圖書ニ附帶セル教員ノ參考用圖書ハ必竟教授上ノ參考ニ供スル目的ヲ定テ其一班ヲ定メタルモノナレハ爾後規定ノ効ナキモノトス

高等小學校教科用圖書配當表

| 教科目 | 學年              |         |         |       |
|-----|-----------------|---------|---------|-------|
|     | 第一學年            | 第二學年    | 第三學年    | 第四學年  |
| 修身  |                 |         |         |       |
| 讀書  | 高等小學讀本 一、二 同    | 三、四 同   | 五、六 同   | 七、八   |
|     | 科用普通讀本 一、二 同    | 三、四 同   | 五、六 同   | 七、八   |
| 作文  |                 |         |         |       |
|     | 實用讀本 一、二 同      | 三、四 同   | 五、六 同   | 七、八   |
| 習字  | 改正高等小學習字本 一、二 同 | 三、四 同   | 五、六 同   | 七     |
|     | 新小學習字帖 九、十 同    | 十一、十二 同 | 十三、十四 同 | 十五、十六 |

| 算術                            | 日本地理      | 日本歷史      | 外國地理         | 理科         |   | 圖畫             | 唱歌            | 體操            |
|-------------------------------|-----------|-----------|--------------|------------|---|----------------|---------------|---------------|
|                               |           |           |              | 新撰理科書      | 小學理科書   |                |               |               |
| 小學習字臨帖 <small>高等科 第一年</small> | 小學地誌 第一 同 | 小學地理習訂正 同 | 小學歷史 上、中、下 同 | 皇朝曆史 三、四 同 | 新撰理科書 四、五、六、七、八、九、十、十一、十二、十三、十四、十五、十六、十七、十八、十九、二十、二十一、二十二、二十三、二十四、二十五、二十六、二十七、二十八、二十九、三十、三十一、三十二、三十三、三十四、三十五、三十六、三十七、三十八、三十九、四十、四十一、四十二、四十三、四十四、四十五、四十六、四十七、四十八、四十九、五十、五十一、五十二、五十三、五十四、五十五、五十六、五十七、五十八、五十九、六十、六十一、六十二、六十三、六十四、六十五、六十六、六十七、六十八、六十九、七十、七十一、七十二、七十三、七十四、七十五、七十六、七十七、七十八、七十九、八十、八十一、八十二、八十三、八十四、八十五、八十六、八十七、八十八、八十九、九十、九十一、九十二、九十三、九十四、九十五、九十六、九十七、九十八、九十九、一百 | 小學習字臨帖 一、二、三 同 | 小學習字帖 一、二、三 同 | 小學習字帖 一、二、三 同 |
| 同                             | 第一、第二 同   | 一、二 同     | 上 同          | 上 同        | 同   | 同              | 同             | 同             |
| 同                             | 同         | 同         | 上 同          | 上 同        | 同   | 同              | 同             | 同             |
| 同                             | 第四同       | 三、四 同     | 上 同          | 上 同        | 同   | 同              | 同             | 同             |
| 同                             | 第一、第二     | 一、二       | 上            | 上          | 同   | 同              | 同             | 同             |

裁 縫

- 一 本表教科用圖書ノ配當ハ其大体ヲ定メタルモノナレハ間々教科課程ニ適合セサルモノアルヘシ此場合ニ於テハ該圖書中ニ就キ適宜取捨増減シテ之ヲ授クルモノトス
- 一 本表教科目ノ圖書ノ配當ヲ記セサルモノハ追テ之ヲ定ムルマテ從前所定ノ教科圖書又ハ教員參考圖書中文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ撰定シテ教員用教科圖書ニ代用スルモノトス
- 一 補習科ノ教科用圖書ハ追テ之ヲ定ムルマテ從前所定ノ尋常小學校又ハ高等小學校教科用圖書及教員參考用圖書中文部大臣ノ檢定ヲ經タルモノニ就キ適宜撰定シテ代用スルモノトス
- 一 土地ノ情况ニ依リ某教科目ヲ加フルトキハ其教科用圖書ハ從前所定ノ高等小學校教科用圖書及教員參考用圖書中ニ就キ撰定シ教員用教科圖書トシテ之ヲ代用スルモノトス
- 一 前各項ニ依リ撰用スル圖書ハ學校長又ハ首席教員ニ於テ市町村長、町村學校組合長又ハ私立小學校設立者ニ協議ヲ經テ之ヲ定メ豫メ縣廳ニ開申スヘシ
- 一 從前所定ノ教科用圖書ニ附帶セル教員參考用圖書ハ必竟教授上ノ參考ニ供スル目的ヲ以テ其一班ヲ定メタルモノナレハ爾後規定ノ効ナキモノトス

◎訓令第五十五號 (明治二十五年九月十四日)

郡役所 市役所

町村役場 小學校

小學校ニ於テ補習科ヲ設置セントスルトキハ左ノ事項ヲ詳具シテ稟請スヘシ

- 一 設置ノ事由 (其要領ヲ記載スルヲ要ス)
- 一 修業年限 (開始ノ年月日ヲ記スルヲ要ス)
- 一 教科目 (正教科目ト隨意科目トヲ區別スルヲ要ス)
- 一 教授時間 (每週教授時間ト每始業修業ノ時限ヲ記スルヲ要ス)
- 一 教科課程及時間割 (小學校教則ニ準據シテ製表スルヲ要ス)
- 一 兒童及其學級數 (男子女兒ヲ區別スルヲ要ス)
- 一 教員ノ配置 (人員氏名并ニ小學校教員外ニ教授ヲ擔當セシムルトキハ其者ノ履歷書ヲ添付ス)
- 一 經費見込額 (教員報酬金額等總テ補習科ニ要スル費用ヲ記載ス)
- 一 高等小學校ノ距離 (尋常小學校ノ補習科ニ限リ最近高等小學校名及其距離ヲ記ス)

○訓第七一號 (明治二十六年三月十四日)

郡役所 市役所

小學校ノ教科用圖書ハ教則改定ノ際從前所定ノモノヲ幾用ノ儀發令候處從前各郡ニ於テ選定シタル讀書科用圖書ニシテ供給ノ便ヲ欠キ爲メニ教授ノ障害ヲ醸ス等差措カタキ場合アラハ配當表所載ノ圖書中ニ就キ郡市内ヲ一定シテ他ノ圖書ニ改

定セシムルコトヲ得

但本校ノ場合ニ於テモ既ニ需要ヲ充タシタル小學校ニ於テハ改定セシムルヲ要セズ且改定シタル片ハ其圖書名ヲ開申スヘシ  
右訓令ス

○訓令第四十六號 (明治廿七年九月廿五日)

都市町村

明治廿三年勅令第二百十五號小學校令第十四條第三項ノ處分ヲナシタルトキ及ヒ郡長ニ於テ同令第十八條ノ許可ヲ與ヘタルトキハ其期限及ヒ事由等ヲ具シ施行ノ當日開申スヘシ

○縣令第六十號 (明治廿七年十月十二日)

小學校教科用圖書審査等ニ關スル細則左ノ通り之ヲ定ム

一 小學校教科用圖書審査ニ關スル細則

第一條 小學校教科用圖書審査委員ハ圖書ヲ新定又ハ更定セントスル場合ニ於テ其都度之ヲ命スルモノトス

第二條 審査委員ニ於テ審査ニ關スル事項ヲ決定スルハ會議ニ據ルヘシ

會議ハ委員三分二以上出席スルニアラサレハ開會スルコトヲ得ス  
會議ニ關スル規程ハ委員會ニ於テ之ヲ定メ知事ニ届出ツヘシ

第三條 小學校教科用圖書ハ各教科目ニ就キ各一種ヲ採擇スヘシ

但學校ノ種類修業年限男女ノ區別及生徒用教師用等ヲ區別スル場合ハ例外トス  
第四條 審査委員長ニ於テ審査ノ顛末ヲ知事ニ具申スルホハ左ノ各項ヲ具スヘシ

一 開會ノ閉會ノ年月日及集會ノ度數

二 決議事項及其要領

三 採擇シタル教科用圖書表及課程配當表

但圖書表ニハ出版再版訂正等ノ年月日及著譯者出版者ノ氏名ヲ記スヘシ

第五條 審査委員會ニ書記ヲ置キ委員長ノ指揮ヲ受ケ庶務ニ從事セシム

第六條 審査委員ニハ相當ノ手充金ヲ給與スルコトアルヘシ

○訓第三六四號 (明治廿七年十月十二日)

小學校教科用圖書審査委員

小學校教科用圖書審査心得別紙之通之ヲ定ム

右訓令ス

(別紙)

小學校教科用圖書審査心得

第二條 圖書ヲ採擇スルハ學校ノ種類修業年限男女ヲ區別シテ學級ヲ編制シタルモノ等各其區別ニ從フヘシト雖成ルヘク共用ノ便アル者ニ付之ヲ定ムヘシ

第二條 圖書ハ從來所定アルモノハ先ヅ其圖書ニ就キ採擇スルヲ要ス若シ適當ナルモノヲ得サル場合ニ於テ他ノ圖書ヲ採擇スヘシ

第三條 圖書ノ採擇ハ左ノ制限ニ依ルヘシ

一 左ノ科目ニ屬スル圖書ハ生徒用ノミヲ採擇スヘシ  
讀書、習字、圖畫、外國語

一 左ノ科目ニ屬スル圖書ハ生徒用教師用ノ兩種ヲ採擇スヘシ  
修身、地理、歴史、理科、作文、算術(附簿記)、幾何

一 左ノ科目ニ屬スル圖書ハ教師用ノミヲ採擇スヘシ  
唱歌、裁縫、体操、手工、農業、商業(附簿記)

前項ノ制限ニ依ルコトヲ得サルノ事情アルトキハ委員會ノ決議ヲ以テ之ヲ斟酌スルコトヲ得

但本文ノ場合ニ於テハ其事由ヲ知事ニ報告スヘシ

第四條 圖書ヲ審查スルハ一致ノ標準ニ基クヘシ

第五條 圖書審查ノ期限ハ三十日ヲ過クルコトヲ得ス

但特別ノ事情アルルハ之ヲ延期スルコトアルヘシ

第六條 審查會場ニハ濫リニ他人ヲ出入セシムルコトヲ得ス

第七條 審查委員及書記ハ審查上ニ關シテハ何等ノ事件ト雖モ之ヲ他人ニ漏示スルコトヲ得ス

第八條 審查會ハ圖書ノ採定ニ關シ知事ノ諮問ヲ受クルルハ其意見ヲ陳述スヘシ

第九條 審查會ハ審查上ニ關シ意見アルルハ知事ニ建議スルコトヲ得

第十條 審查會ニ日誌ヲ備ヘ委員ノ出席欠席及開會閉會ノ時間等其他本會ニ關スル必要ノ事件ヲ記錄スヘシ

第十一條 審查委員ハ開會ノ當日欠席セントスルトキハ事由ヲ記シ開會時間前委員長ニ届出ツヘシ

### 第二節 設置及廢止

○訓第五七號 (明治二十五年三月十四日)

郡役所

明治三十三年十月勅令第二百十五號小學校令ニ依リ小學校ノ校數並ニ位置等指定方取扱手續別紙ノ通之ヲ定ム  
右訓令ス

(別紙)

#### 小學校ノ校數並位置指定方取扱手續

第一條 尋常小學校ノ校數並位置ハ市町村ノ大小廣狹貧富學齡兒童數ノ多少通學路程ノ遠近險夷等ヲ參酌シテ之ヲ定ムルヲ要ス其標準左ノ如シ

一 市ノ尋常小學校ハ日々出席兒童ノ平均數三十人以上凡ソ千人以内ハ一校二千人以内ハ三校二千人以上ハ三校ヲ設置ス

二 町村ノ尋常小學校ハ通學路程概子一里ヲ以テ通學區域トシ其每區域内ニ於

テ日々出席児童ノ平均數三十人以上千人以内ナルトキハ一校ヲ設置ス若シ出席平均數凡ソ千人ヲ踰スルトキハ分割シテ二校ヲ設置シ又ハ其一部ノ児童教育事務ヲ他ノ町村若クハ町村學校組合ニ委託セシムル

但土地ノ情况ニ依リ児童ノ數三十人ニ滿タサル場合ト雖モ一尋常小學校ヲ構成スルコトアルヘシ

三 前項通學路程一里未滿ナルモ離島又ハ通路ノ危險若クハ困難ナル場合アルトキハ通學區域ヲ縮小シ一校若クハ數校ヲ増設ス又通學路程一里以上ニ達スルモ通路平夷ニシテ児童ノ通學ヲ得ルトキハ通學區域ヲ廣大ニシテ校數ヲ増加セザルコトヲ得

第二條 尋常小學校ノ位置ハ行通便利ノ地ニシテ校地ニ適當ナル場所ヲ選擇シ之ヲ定ムルヲ要ス

第三條 町村學校組合ヲ設ケシムルトキハ豫メ人情風俗習慣等ヲ調査シ左ノ一項若クハ二項ノ目的ニ適合スルヲ要ス

一 小學校設置ノ負擔上權衡ヲ保持シ双方利益アルヲ要ス

二 舊來ノ慣行等ニ依リ小學校ノ設置上兩町村ノ全部若クハ一部ヲ聯合スルノ必要アル場合

但此場合ト雖モ費用ノ負擔ニ就テハ前項ノ趣旨ニ依ルヘシ

第四條 區ヲ設ケシムルトキハ豫メ人情風俗習慣等ヲ調査シ左ノ二項若クハ三項

ノ目的ニ適合スルヲ要ス

一 市町村又ハ町村學校組合ノ一部ニ於テ從來財產ヲ所有シ一區限リ費用ヲ負擔セシメ小學校ヲ設置スルノ便利ナル場合

二 市町村又ハ町村學校組合内ノ一部ニ於テ小學校ノ費用ヲ負擔シ之ヲ支持スルノ慣行アル場合

第五條 郡長ハ尋常小學校ノ校數並ニ位置ヲ指定センカ爲メ知事ノ許可ヲ請フトキハ左ノ要件ヲ具スヘシ

一 町村ノ地圖

地圖用紙ハ美濃形大判紙一葉ヲ用キ山嶺田野國縣里道各部落(部落ハ名稱及而部落ノ距離ヲ記ス)河海(名稱及較大ナル河川ハ河幅及平水増水ノ狀況及渡船場ヲ記ス)橋梁(名稱並構造ノ概略ヲ記ス)町村役場及小學校ノ位置(大字小字ヲ記ス)通學區域(點線ヲ以テ區域ヲ劃ス)ヲ標記スヘシ

但通學路程中ニ峻坂又ハ危險ノ場所アルトキハ坂路ハ其里程並勾配ノ概略危險ノ場所ハ朱圈ヲ付シ概況ヲ記スヘシ

二 町村及各通學區域内學齡兒童數並既往三ヶ年間兒童ノ日々出席平均數及各小學校ニ日々出席スヘキ兒童ノ見込人員

但各數トモ男女ヲ區別スヘシ  
三 小學校位置ノ地質及四隣ノ景狀

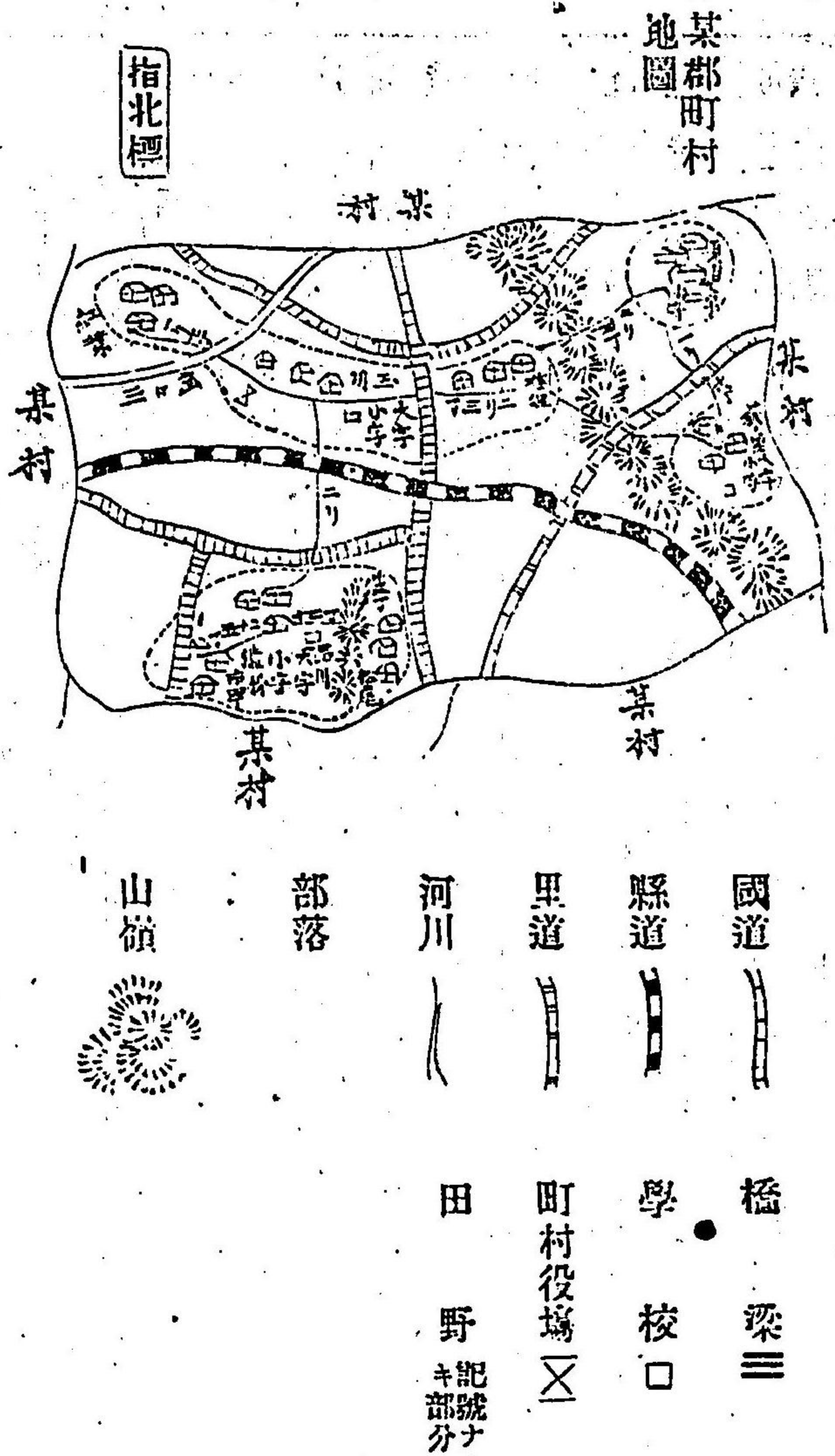
- 四 町村會意見ノ要領並町村長ノ意見
- 五 町村ノ人口戸數反別地租及地方稅ノ納額町村費ノ支出額及ヒ教育費ノ支出總額町村基本財産及收益地方通有並特有物產ノ種類名稱人民生活ノ狀況貧富ノ度合

第六條 郡長ハ町村學校組合又ハ區ヲ設ケシメ若クハ小學校ノ設置及兒童教育事務委託ノ義務ヲ免レシメ又ハ兒童教育事務ノ委託ヲサシメントスルトキハ左ノ項ニ依リ其要件ヲ具シ知事ノ許可ヲ請フヘシ

- 一 町村學校組合ヲ設ケシメントスルトキハ其理由及前條第五項ノ諸要件
- 一 區ヲ設ケシメントスルトキハ其理由及其區域人口戸數反別地租地方稅納額町村費負擔額區ニ屬スル財産高學齡兒童數就學見込人員
- 一 兒童教育事務ノ委託ヲサシメントスルトキハ其理由及區域人口戸數學齡兒童及就學兒童數並ニ委託スヘキ町村又ハ町村學校組合若クハ區及被托地ノ小學校ノ距離

一 小學校ノ設置又ハ兒童教育事務委託ノ義務ヲ免レシメントスルトキハ其事實及其區域人口戸數學齡兒童及就學スヘキ兒童數並最近小學校ノ距離  
但地圖ニ於テ本項該當ノ部分ヲ表記スルニハ黃色ヲ以テ其部分ヲ彩色スヘシ  
地圖用紙ハ美濃形大半紙一葉ヲ用キ山嶺田野國縣里道各部落（部落ハ名稱及兩部落ノ距離ヲ記ス）河海（名稱及大ナル河川ハ河幅及平水増水ノ狀況及渡船場ヲ記

ス）橋梁（名稱并構造ノ概要ヲ記ス）町村役場及小學校ノ位置（大字小字ヲ記ス）通學區域（點線ヲ以テ區域ヲ劃ス）ヲ標記スヘシ  
但通學路程中ニ峻坂又ハ危險ノ場所アルトキハ坂路ハ其里程並勾配ノ概要危險ノ場所ハ朱圈ヲ附シ概況ヲ記スヘシ







(備考)

- 一 戸數及人口學齡數等總テ人員ノ調査ハ前年末調査ニ據ル
- 一 國稅納額以下基本財産收益ニ至ル各調査ハ前年度末ノ調査ニ據ル
- 一 通有物産ハ其町村ノミニ生産セサルモノニシテ著名ナルモノヲ調査シ特有物産ハ其町村又ハ其地方ニ限り生産スルモノヲ調査ス
- 一 第五條ノ各項ニ屬スル事件ニシテ地圖又ハ本調査ニ記入スヘキ記例若クハ欄ヲ設ケサルモノハ別紙ニ記載シテ添付スヘシ
- 一 戸數欄内ニハ納稅義務ヲ免除シタル戸數ヲ朱ヲ以テ附記スヘシ
- 一 基本財産額及同上收益額ハ其内ニ學校基本財産トシテ備ヘタルモノアルトキハ其額ヲ割書トナスヘシ

◎縣令第九號 (明治二十五年三月十八日)

小學校設備規則左ノ通之ヲ定メ本年七月一日ヨリ施行ス

小學校設備規則

第一條 校地ハ道德并衛生ニ害ナク且兒童ノ通學ノ便利ナル場所ヲ選フヘシ  
校地ハ全生徒ヲ整列セシムルニ餘地ヲ備フヘシ但体操場ト連接シ共用ノ便アル  
片ハ之ヲ備ヘサルモ妨ナシ

第二條 校舍ハ左ノ各項ニ依リ之ヲ設クヘシ

一 教室

二 教員室

三 圖書器械標本類及雜具ヲ藏置スヘキ場所

第三條 校舍ノ構造ハ堅牢ヲ主トシ左ノ各項ニ依ルヘシ

- 一 教室ハ成ルヘク平屋造トナスヘシ
- 一 一教室ノ大サハ學校ノ種類學級ノ編制兒童ノ數及其内ニ容ルヘキ机坐席ノ  
配置方等ニ應シ一坪ニ付兒童四人ヲ容ル、割合ヨリ小ナルヘカラス
- 三 教員室及圖書器械標本類其他雜具等ノ置場ハ人員物品ノ多少ニ應シ適宜之  
ヲ定ムヘシ
- 四 床ハ礎石ノ上面ヲ距ルコト二尺五寸以上トナシ床下ハ空氣流通ノ爲メ適宜  
ノ箇所ニ風抜キヲ造ルヘシ
- 五 床板ハ厚サ一寸以上ノ板ヲ以テ合決ニ造リ空氣ノ流通ヲ防クヘシ
- 六 兒童ノ通行ニ供フル階梯ハ幅四尺以上トナシ務テ勾配ヲ緩フシ之ヲ教室内  
ニ設クヘカラス
- 七 兒童ノ通行ニ供スル廊下又椽側ハ成ルヘク幅六尺トナスヘシ
- 八 教室ノ天井ハ床面ヲ距ル十尺以上トナスヘシ但特別ノ事情アルトキハ九尺  
迄ニ低下スルモ妨ケナシ
- 九 教室ノ窓ハ床面ヲ距ル凡三尺五寸ノ所ヨリ高四尺以上(西洋窓ナラハ天井

- 下ニ違ス。トシ且其位置ハ教室ノ全面ヲ照ラシ得ヘキ所ヲ撰ヒ硝子戸ヲ用ユルトキハ日覆又ハ窓懸ヲ設ケ障子ヲ用ユルトキハ雨戸ヲ設クヘシ但窓ノ總面積ハ教室ノ面積六分ノ一以上トナスヘシ
- 教室ノ窓ハ兒童ノ面前ニ當ル方位ニ設クヘカラス
- 十 多級ノ小學校ニ於テ教室ノ仕切ヲ設クルトキハ成ルヘク壁トナスヘシ若シ兒童ノ數ニ應シ教室ノ廣狹ヲ自在ナラシメントスルトキハ板戸ヲ以テ代用スヘシ
- 十一 教室ノ廣狹ニ應シ適宜ノ構造法ニ依リテ風抜キヲ設クヘシ
- 十二 教室ニ幅四尺以上長六尺以上高八寸以上ノ教壇ヲ設クヘシ
- 第四條 便所ハ左ノ各項ニ依リ之ヲ設クヘシ
- 一 教室及井戸ヲ距ルコト三間以上ノ場所ニ設ケ兒童用ニ供スルモノハ男女ノ區別ヲナスヘシ
- 二 地盤ヨリ高三寸以上トナシ周圍ハ厚一寸以上ノ漆喰土ヲ以テ塗リ尿管ノ流下スヘキ勾配ヲ付シ尿管器ハ漆喰土ヲ以テ塗上ケトナシ又ハ釉藥ヲ施シタル甕ヲ用フヘシ
- 三 入口ハ校舍ニ背シ近傍ニ常綠樹ヲ植ユヘシ
- 第五條 堀井戸又ハ水道其他適宜ノ方法ヲ設ケテ善良ナル飲用水ヲ供給スヘシ堀井戸ヲ設クルトキハ堅牢ナル外圍ヲ設クヘシ

- 第六條 土地ノ情況ニ依リ校舍ノ一部又ハ其近傍ニ於テ學校長若クハ教員ノ住宅ヲ設クヘシ
- 第七條 校具ハ學校及教科目ノ種別學校ノ編制兒童數等ニ應シ必須ナルモノヲ備フヘシ其普通備フヘキモノ、概目左ノ如シ
- 一 尋常小學校ノ教授用ニハ假名掛圖、教員用教科書及參考圖書、縣內地圖、日本地圖、地球儀、定木、而脚規、指數器、算盤、度量衡、黑板、黑板拭、水入、庶物指、教用具トス
- 二 高等小學校ノ教授用ニハ前項假名掛圖、指數器ヲ除ク外萬國地圖、博物標本、簡易理化學器械、圖畫用具、裁縫用具、樂器、体操器械トス
- 前項ノ外國旗、門札、兒童用及教員用ノ机、腰掛、時計、諸帳簿、硯并附屬器、書畫、日用品トス
- 第八條 兒童用ノ机、腰掛ハ概子左ノ寸法ニ依リ年齡体格ニ應シ衛生及管理上ニ適當ナルモノヲ構造スヘシ但本寸法ハ二人共用ノモノニ就ギ之ヲ定ム
- 一 机ハ曲尺ニテ幅一尺三寸長四尺高一尺三寸乃至二尺五分トス
- 二 腰掛ハ曲尺ニテ幅八寸長四尺高七寸二分乃至一尺一寸七分トス
- 第九條 体操場ハ兒童ノ數ニ應シ左各項ニ依リ之ヲ設クヘシ
- 一 成ルヘク校舍ニ傍フテ危險ナラサル場所ヲ撰フヘシ
- 二 地盤ハ稍高クシテ雨水等ノ滯留ヲ防グヘシ

三 適宜ノ位置ニ樹木ヲ植ヘテ日光ノ劇射又ハ寒風ヲ防グヘシ

第十條 校舍ヲ建築セントスルトキハ設計書并校地校舍ノ圖面ヲ添ヘ知事ノ認可ヲ受クヘシ但圖面ニハ校地ノ地番、字、方位、地形、坪數及四隣ノ景狀、校舍建築ノ種別(日本風西洋風二階建平屋造ノ類)間取(御影等奉置ノ場所教室教員室等ノ類)及其坪數、窓戶、出入口等ヲ詳記スヘシ其製圖上ノ尺度ハ曲尺三分ヲ以テ二間トナスヘシ

第十一條 市町村又ハ町村學校組合ハ此規則中ノ條規ニ依リ難キ場合アルトキハ事由及事項ヲ具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

二十五年訓第三三二號參看

◎縣令第十號 (明治二十五年三月十九日)

市町村立小學校設置廢止規則左ノ通之ヲ定メ本年七月一日ヨリ施行ス

市町村立小學校設置廢止規則

第一條 市町村又ハ町村學校組合ニ於テ設置スヘキ尋常小學校ノ校數并ニ位置ノ確定シタルトキハ其小學校ノ修業年限ヲ定メテ知事ノ許可ヲ請ヒ同時ニ左ノ各項ヲ開申スヘシ

- 一 名稱
  - 一 校舎、校地、体操場
  - 一 經常費見込額(本金額ハ毎年度支出ヲ要スヘキ見込ヲ記スヘシ)
- 第三條 市町村又ハ町村學校組合ニ於テ高等小學校ヲ設置セントスルトキハ左ノ

各項ヲ具シ知事ノ許可ヲ請フヘシ但許可ヲ受ケタルトキハ開校期日ヲ定メテ豫メ開申スヘシ

- 一 名稱
  - 一 位置
  - 一 修業年限
  - 一 兒童ノ定員
  - 一 校舎、校地、体操場
  - 一 經常費見込額(尋常小學校ノ例ニ同シ)
- 第三條 市町村立小學校ヲ設置ノ後名稱、校舎、校地、体操場、經常費見込額(尋常小學校費ニ限ル)ヲ變更セントスルトキハ豫メ開申スヘシ其他ノ事項ヲ變更セントスルトキハ更ニ許可ヲ請フヘシ
- 第四條 市町村立小學校ヲ廢止シタルトキハ其小學校ニ屬スル財産ノ處分ニ關シ市町村會又ハ町村學校組合會ノ決議條件ヲ具シ知事ニ開申スヘシ
- 附錄第一號書式
- 一 尋常小學校開校ノ儀ニ付開申
  - 一 名稱
  - 一 何々尋常小學校
  - 一 校舎、校地、体操場

別紙圖面ノ通 (圖面ノ記載方ハ小學校設備規則第十條ニ據リ且借地借家ナルトキハ其處有主ノ氏名ヲ附記スヘシ)

一 經常費見込額

別紙ノ通 (費目ノ區分ハ明治二十五年一月訓令第四號ニ據リ且大右之通相定メ來ル何月何日ヨリ開校致候ニ付此段開申候也)

年月日

市町村長(町村學校組合長)氏名

愛媛縣知事宛

附錄第二號書式

高等小學校設置ノ儀ニ付稟請

名稱(尋常小學校ノ例ニ同シ)

位置

市町村各大字小字番地

修業年限

何々ノ事由ニ依リ何々年ノ修業年限ニ據ル

兒童定員

設置區域內學齡兒童數何名ノ内尋常小學校ニ就學スルモノ何名ニシテ其内卒業ノ上入學人員何名及學年別人員并何學級ニ編制ノ見込

二十六年縣令第四十五號ヲ以テ一校增加其位置ヲ大字南八坂町トス

一 校舍、校地、体操場

別紙圖面ノ通(尋常小學校ノ例ニ同シ)

一 經常費見込額

別紙ノ通(尋常小學校ノ例ニ同シ)

右之通相定設置致度候ニ付許可相成度候也

年月日

市町村長(町村學校組合長)氏名

愛媛縣知事宛

◎縣令第三十八號 (明治二十五年七月二十五日)

明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令第二十六條ニ依リ松山市ニ設置ス

ハキ尋常小學校ノ校數並位置左之通之ヲ定ム

一 校數 三

一 位置 甲 松山市大字二番町

乙 全 大字木屋町一丁目

丙 全 大字南八坂町

○訓第二三三號 (明治二十五年八月十二日)

郡役所

町村ニ於テ小學校令第五條ニ依リ尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トチ一校ニ併セ置之ヲ設置セントスルトキハ本年縣令第十號市町村立小學校設置廢止規則

ニ據ルハ勿論ト雖其稟請ノ書式ハ附錄第二號ノ書式ヲ準用セシムヘシ  
但私立小學校ニ就キテモ亦本文ノ旨趣ニ準據セシムル義ト心得ヘシ  
右訓令ス

要 項

- 一 併置ヲ要ス事由
- 一 修業年(尋常科、高等科)
- 一 就學兒童數(尋常科、高等科)
- 一 學級ノ編制及教員ノ配置
- 一 校地ノ校舍体操場
- 一 經常費見込額

(備考)

學級ノ編制及教員ノ配置ヲ具スルハ左ノ記例ニ據ルヘシ

一 學級ノ編制及教員ノ配置

尋常科何學級

第一學級何人 何學年

女 男 本科正教員一人

何月 圓俸

第二學級何人

何學年 何學年 本科正教員一人  
女 男 本科准教員一人

何月 圓俸 何月 圓俸

高等科何學級

(記例前項ニ準ス)

市役所

市ニ於テ小學校令第五條ニ依リ尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科トチ一校ニ  
併セ置之ヲ設置セントスルトキハ本年縣令第十號市町村立小學校設置廢止規則ニ  
據ルハ勿論ト雖其稟請ノ書式ハ附錄第二號ノ書式ヲ準用セシムヘシ  
但私立小學校ニ就キテモ亦本文ノ旨趣ニ準據セシムル義ト心得ヘシ  
右訓令ス

(要項ハ郡役所ノ分ニ同シキヲ以テ略之)

○内三第一一號 (明治二十七年四月九日)

小學校舎建築ニ關シテハ夫々規程モ有之其手續ニヨルヘキハ勿論之義ニ有之候處  
往々其手續ヲ了セスシテ建築ニ着手スル等其他落成ノ上設計書ト相違ノモノモ有  
之哉ニ相聞ヘ甚タ不都合ニ付爾來町村長ヲシテ一層注意セシメラルヘシ  
右内訓ス

各 郡 長 宛

第三節 就學及家庭教育

二十五年訓令第二十五號參看

◎縣令第十九號 (明治二十五年四月九日)

明治二十三年(十月)勅令第百十五號小學校令第二十四條ニ依リ學齡兒童就學規則左ノ通之ヲ定ム

第一條 學齡兒童就學規則

第一條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ其年四月ヨリ翌年三月迄ニ學齡ニ達スル兒童アルトキハ其族籍氏名生年月日及就學セシムヘキ市町村立尋常小學校名ヲ記シ其年十一月中ニ所轄ノ市町村長又ハ町村學校組合長ニ届出ツヘシ

但家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ修メシメントスルトキハ本文ノ期限内ニ其手續ヲナスヘシ

第二條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ其學齡兒童ヲシテ就學セシムルコト能ハサルトキハ其族籍氏名生年月日及理由ヲ記シ就學猶豫又ハ免除ヲ前條ノ期限ニ於テ所轄市町村長又ハ町村學校組合長ニ申立ツヘシ

第三條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者前條ニヨリ其學齡兒童ノ就學猶豫又ハ免除ヲ請フコトヲ得ルキモノハ左ノ一項若クハ數項ニ該當スヘキモノタルヘシ

- 一 貧窮ニシテ他ノ扶助ヲ受クル者
  - 二 癱疾又ハ不具ニシテ就學シ能ハサル者
- 以上ハ就學免除ノ理由トシテ申立チナスヲ得ヘキモノトス但第二項ニ該當スルモノハ醫師ノ証明ヲ要ス

三 兒童疾病ニ罹リ速ニ治療ノ目的ナキ者

四 兒童發育未タ就學ノ度ニ適セサル者

五 父母若クハ一家族ノ者疾病ニ罹リ他ニ看護人ナキ場合

六 小學校ノ距離一里以上ニ達スル者若クハ道路危險ニシテ通學ニ堪ヘサル者

七 貧困ニシテ就學セシムルノ資力ナキ者

八 小學校ノ設置又ハ兒童教育事務委託ノ義務ヲ免レシメラル區域内ニ居住スル者

九 前各項ノ外相當ノ理由アル者

以上ハ就學猶豫ノ理由トシテ申立チナスヲ得ヘキモノトス但就學猶豫ヲ申立ツルトキハ相當期限ヲ定ムルヲ要ス若シ其期限ヲ不適當ナリト認ムルトキハ市町村長又ハ町村學校組合長ニ於テ之ヲ指示スルコトアルヘシ

第四條 就學ヲ免除セラレ又ハ猶豫セラレタルモノニシテ學年ノ始ヨリ三ヶ月以内ニ其理由消滅シタルトキハ直ニ第一條ノ手續ヲナシ且其兒童ヲ出席セシムヘシ其他ノ者ハ次學年ノ始ヨリ就學ノ手續ヲナスヘシ

就學ヲ猶豫セラレタルモノノ滿期ニ至ルモ尙理由ノ消滅セサルモノハ更ニ相當ノ期限ヲ定メ延期ノ申立チナスヘシ

第五條 兒童就學ノ後第三條ノ理由ヲ生シタルトキハ時期ノ如何ニ拘ハラス第二條ノ手續ヲナスヘシ

第六條 尋常小學校ノ教科ヲ卒ラサル兒童他ノ市町村ニ轉住スルトキハ保護者ハ市町村長又ハ町村學校組合長ニ届出テ學齡兒童送籍書ヲ受取リ轉住後七日以内ニ其地ノ市町村長又ハ町村學校組合長ニ差出スヘシ。

尋常小學校ノ教科ヲ卒ラサル兒童他府縣ヨリ轉住セントキハ保護者ハ從前就學ニ關スル經歷ヲ記シ市町村長又ハ町村學校組合長ニ届出ツヘシ若シ其兒童ヲ就學セシムルコト能ハサルトキハ第二條ノ手續ヲナスヘシ

前各項ノ兒童就學中ナルトキハ其出席スヘキ小學校ハ市町村長又ハ町村學校組合長ノ指定スル所ニ依ル

第七條 第一條ニ依リ兒童ヲ出席セシムヘキ時期ハ學年ノ始ヨリ十五日ヲ過クコトヲ得ス若シ此期限ニ依ルヲ得サルトキハ市町村長又ハ町村學校組合長ニ申立許可ヲ受クヘシ

第八條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者其兒童ヲ就學セシメタル後ハ故ナク休業セシムルヲ得ス若シ止ヲ得サル理由ニ依リ七日以上休業セシメトスルトキハ相當ノ期限ヲ定メテ學校長又ハ首席教員ニ届出ツヘシ

前項休業ノ期限ハ九十日ヲ過クルコトヲ得ス  
◎訓令第二十五號 (明治二十五年四月十二日)  
學齡兒童就學取扱手續左ノ通之ヲ定ム

學齡兒童就學取扱手續

第一條 市町村長ハ町村學校組合長ハ毎年四月ヨリ翌年三月マテニ學齡ニ達スヘキ兒童ヲ調査シ其住所族籍氏名年月日ヲ學齡簿ニ記入シ其年十月中ニ之ヲ兒童ノ保護者ニ通知スヘシ

前項學齡簿ノ様式ハ別ニ定ムル所ニ依ル  
第二條 市町村長又ハ町村學校組合長ハ學齡兒童ノ就學届ヲ受ケタルトキハ其出席スヘキ尋常小學校名ヲ學齡簿ニ記入シ且該小學校長又ハ首席教員(所轄外ノ市町村立尋常小學校ニ出席セシムルモノハ其小學校ヲ管理スル市町村長又ハ町村學校組合長)ニ通知スヘシ

第三條 市町村長又ハ町村學校組合長ハ學齡兒童就學ノ猶豫又ハ免除ノ申立ヲ受ケ相當ト認ルトキハ左ノ各項ヲ具シ市長ハ知事町村長又ハ町村學校組合長ハ郡長ニ申出其許可ヲ請フヘシ

- 一 學齡兒童ノ住所族籍氏名生年月日
  - 二 學齡兒童ノ保護者ノ住所族籍氏名職業
  - 三 就學ノ猶豫又ハ免除ノ理由及猶豫期限
  - 四 學齡兒童又ハ其保護者ニ就キ檢査ヲ行フタルトキハ其要領
- 第四條 市町村長又ハ町村學校組合長ハ就學ヲ猶豫又ハ免除シタルトキハ之ヲ學



齡簿ニ記入スヘシ

家庭教育等ニ關スル規則第一條ニ據リ許可シタルトキモ亦前項ニ同シ  
兒童ノ一日就學シタル後前各項ノ手續ヲ了シタルトキハ其小學校長又ハ首席教  
員ニ通知スヘシ

第五條 小學校長又ハ首席教員ハ學齡兒童就學規則第八條ノ届出ヲ受ケタルトキ  
ハ該兒童及其保護者ノ氏名休業ノ理由期限等ヲ市町村長又ハ町村學校組合長ニ  
通知スヘシ

學齡兒童ノ保護者ニ於テ理由ヲ告ケス其兒童ヲ休業セシムルコト七日ニ達スル  
トキハ小學校長又ハ首席教員ニ於テ其出席ヲ督促スヘシ若シ尙理由ヲ告ケスシ  
テ之ニ應セサルトキハ市町村長又ハ町村學校組合長ニ通知スヘシ

第六條 市町村長又ハ町村學校組合長ニ於テ前條第二項ノ通知ヲ受ケタルトキハ  
直ニ出席ノ督責ヲナスヘシ

第七條 市町村長又ハ町村學校組合長ニ於テ學齡兒童就學規則第六條第一項ノ届  
出ヲ受ケタルトキハ兒童ノ轉住地名ヲ學齡簿ニ記入シ且該簿ニ記載セル事項及  
履修ノ課程等ヲ記載セル學齡兒童送籍書ヲ造リ之ヲ保護者ニ交付スヘシ

但兒童ノ現ニ就學セルトキハ其小學校長又ハ首席教員ニ通知スヘシ  
市町村長又ハ町村學校組合長ハ學齡兒童送籍書ヲ受ケタルトキハ之ヲ學齡簿ニ  
轉寫シ且兒童ノ出席スヘキ小學校ヲ指定シタルトキハ其小學校長又ハ首席教員

ニ通知スヘシ

◎縣令第二十號 (明治二十五年四月十二日)

明治二十四年(十一月)文部省令第十六號學齡兒童ヲ保護スヘキ者ト認ムヘキ要件  
ニ依リ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ノ代人規則左ノ通之ヲ定ム

學齡兒童ヲ保護スヘキ者ノ代人規則

第一條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者其義務ヲ行フニ不便ナルカ爲代人ヲ立ツルトキ  
ハ其住處族籍氏名年齢ヲ具シ且委任狀寫及本人承諾書ヲ添ヘ其兒童ヲ就學セシ  
ムヘキ尋常小學校所在地ノ市町村長又ハ町村學校組合長ニ届出ヘシ

第二條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者特別ノ事情アルカ爲メ代人ヲ立ントスルトキハ  
前條ノ諸要件ヲ具シ其兒童ヲ就學セシムヘキ尋常小學校所在地ノ市町村長又ハ  
學校組合長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第三條 市町村長又ハ學校組合長ハ代人ニシテ其義務ヲ盡サスト認ムルトキハ理  
由ヲ示シテ隨時改任セシムヘシ

前項ノ場合ニ於テハ學齡兒童ヲ保護スヘキ者ハ示達ヲ受ケタル當日ヨリ十日以  
内ニ相當代人ヲ定メ第一條又ハ第二條ノ手續ヲナスヘシ

◎縣令第二十八號 (明治二十五年四月十六日)

明治二十三年(十月)勅令第二百十五號小學校令第二十四條ニ依リ家庭教育等ニ關  
スル規則左ノ通之ヲ定メ本年十月一日ヨリ施行ス

家庭教育等ニ關スル規則

第一條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者其兒童ヲシテ家庭又ハ其他ニ於テ尋常小學ノ教科ヲ修メシメントスルトキハ其事由並教授人ノ履歷ヲ具シ市町村長又ハ町村學校組合長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

但教授人ヲ變更シタルトキハ本文ノ例ニ依リ更ニ許可ヲ受クヘシ

學齡兒童ヲ保護スヘキ者前項ノ目的ニ依リ其兒童ヲシテ尋常師範學校ノ附屬小學校又ハ市町村立尋常小學校ニ代用セサル私立小學校ニ入學セシメントスルトキハ事由並其學校ノ入學許可書ヲ添ヘ市町村長又ハ學校組合長ニ申立ツヘシ

但此場合ニ於テハ第二條第三條第四條第五條第七條ノ規定ヲ適用セス

第二條 前條尋常小學校ノ教科目教科程度及教科用圖書ハ總テ市町村立小學校ニ關スル規程ニ依ルヘシ

第三條 家庭又ハ其他ニ於テ學習セシムル兒童ノ保護者ハ其兒童ヲシテ少クトモ毎月一回所在地ノ市町村立尋常小學校又ハ之ニ代用スル私立小學校ニ於テ學業ノ試験ヲ受ケシムヘシ

市町村立尋常小學校又ハ之ニ代用スル私立小學校ニ於テ前項ノ試験ヲ施行シタルトキハ其成績表ヲ造リ市町村長又ハ町村學校組合長ニ報告スヘシ

但試験ノ成績不良ニシテ科課程修了ノ目的ノナキモノアルトキハ併セテ之ヲ報告スヘシ

第四條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者其兒童ノ家庭又ハ其他ニ於テ所定ノ教科ヲ修了シタルトキハ所在地ノ市町村立尋常小學校又ハ之ニ代用スル私立小學校ニ申出テ其証明ヲ請フヘシ

市町村立尋常小學校又ハ之ニ代用スル私立小學校ハ前項ノ申出アルトキハ兒童ノ學業ヲ試験シ合格シタルモノニハ證明書ヲ附與シ且之ヲ市町村長又ハ町村學校組合長ニ報告スヘシ

第五條 市町村長又ハ町村學校組合長ニ於テ兒童ノ學業滯滯シ科課程修了ノ目的ナキモノ又ハ教育上弊害アリト認ムルトキハ其學習ヲ停止スヘシ

學齡兒童ヲ保護スヘキ者前項ノ處分ヲ受ケタルトキハ其兒童ヲ出席セシムヘキ市町村立尋常小學校又ハ之ニ代用スル私立小學校ヲ定メ市町村長又ハ町村學校組合長ニ届出テ直ニ出席セシムヘシ

第六條 學齡兒童ヲ保護スヘキモノ其兒童ヲシテ家庭又ハ其他ニ於テ學習セシムルコトヲ廢止シタルトキハ其兒童ヲ出席セシムヘキ市町村立尋常小學校又ハ之ニ代用スル私立小學校ヲ定メ市町村長又ハ町村學校組合長ニ届出テ直ニ出席セシムヘシ

第七條 市町村長又ハ町村學校組合長ハ第一條ノ願出ヲ許可シタルトキ又ハ教授人變更ノ届出テヲ受ケタルトキハ本人申立ノ事由並教授人ノ氏名年齢及履歷ノ概要ヲ具シ第五條ニ依リ處分シタルモノハ其要領ヲ具シ知事ニ開申スヘシ

第八條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者其兒童ヲシテ家庭又ハ其他ニ於テ學習セシムル

トキハ總テ市町村長又ハ町村學校組合長ノ監督ヲ受クヘキモノトス

◎縣令第二十九號 (明治二十五年四月十九日)

明治二十三年(十月)勅令第二百五十五號小學校令第二十三條ニ依リ學齡兒童出席ニ關スル規則左ノ通之ヲ定メ本年九月一日ヨリ施行ス

學齡兒童出席ニ關スル規則

第一條 學齡兒童ヲ保護スヘキ者其兒童ヲシテ小學校ニ就學セシメタル後傳染病若クハ厭惡スヘキ疾病ニ罹リ又ハ一家中傳染病者アルカ爲メ出席セシムルヲ得サルトキハ其旨學校長又ハ首席教員ニ届出ツヘシ

小學校長又ハ首席教員ハ前項ノ届出ナキモ必要ナリト認ムルトキ又ハ現ニ出席セル者ニシテ前項ニ該當スヘキモノト認ムルモノアルトキハ醫師ノ意見ヲ聞キ治癒ニ至ルマテ其出席ヲ停止シ之ヲ保護者ニ通知スヘシ

第二條 小學校長又ハ首席教員ハ兒童ノ發育未タ就學ノ度ニ適セサルカ又ハ身體虛弱等ニシテ規程ノ課業ヲ修ムルニ堪エスト認ムルトキハ醫師ノ意見ヲ聞キ相當ノ期限ヲ定メテ其出席ヲ停止シ之ヲ保護者ニ通知スヘシ

第三條 小學校長又ハ首席教員ハ兒童ノ行爲不良ニシテ數度訓誡ヲ加フルモ効驗ナク且他ノ兒童ノ妨害トナルヘキ虞アルトキハ適宜期限ヲ定メテ其出席ヲ停止シ之ヲ保護者ニ通知スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ豫メ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 小學校長又ハ首席教員ハ第一條又ハ第二條ノ處分ヲナシタルトキハ市町村長又ハ町村學校組合長ニ通知スヘシ

◎縣令第四十三號 (明治二十五年八月十一日)

小學校ノ學年休業日及高等小學校入退學等ニ關スル規則左ノ通之ヲ定メ本年十月一日ヨリ施行ス

小學校ノ學年休業日及高等小學校入退學等ニ關スル規則

第一條 小學校ノ學年ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第二條 小學校ノ休業日ハ左ノ如シ

但農商事等繁忙ノ際ハ一學年三週日以内臨時ニ休業スルコトヲ得

祝 日

大祭 日

氏神祭日(學校所在地)

日 曜 日

夏 季自八月一日至全月三十一日

冬 季自十二月二十五日至翌年一月七日

第三條 土地ノ情況ニ依リテハ夏季冬季ノ休業日數ヲ増減シ又ハ其休業日ノ幾分ヲ他日ニ繰替休業スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ其事由及期日ヲ具シ市町村長又ハ町村學校組合長及學校長又ハ首席教員連署シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第四條 市町村長又ハ町村學校組合長ニ於テ第二條但書ノ休業ヲ要スルトキハ豫メ學校長又ハ首席教員ニ協議シテ之ヲ定ムヘシ

第五條 尋常小學校ノ教科ヲ卒リタル兒童ニアラサレハ高等小學校ニ入學スルコトヲ得ス

但三年程尋常小學校ノ教科ヲ卒リタル兒童ニ限り檢定ヲ經ルコトヲ要ス

第六條 兒童ヲ高等小學校ニ入學セシメントスルトキハ保護者ニ於テ其年三月中ニ學校長又ハ首席教員ニ願出ヘシ

學校長又ハ首席教員ニ於テ入學ヲ許可シタルトキハ直ニ市町村長又ハ町村學校組合長ニ通知スヘシ

第七條 高等小學校ノ兒童事故アリテ退學セシメントスルトキハ保護者ニ於テ其事由ヲ具シ學校長又ハ首席教員ニ願出ヘシ

學校長又ハ首席教員ニ於テ退學ヲ許可シタルトキハ直ニ市町村長又ハ町村學校組合長ニ通知スヘシ

第八條 尋常小學校ノ教科ト高等小學校ノ教科ト併セ置キタル小學校ニ於テ尋常小學校ノ教科ヲ卒リタル兒童ヲシテ引繼キ高等小學校ノ教科ヲ修メシメントスルトキハ保護者ハ第六條ノ期限ニ從ヒ學校長又ハ首席教員ニ願出ツヘシ又既ニ

入學ノ後事故アリテ退學セシメントスルトキハ第七條ノ手續ヲナスヘシ

學校長又ハ首席教員ニ於テ願出ヲ受理シ又ハ退學ヲ許可シタルトキハ直ニ市町村長又ハ町村學校組合長ニ通知スヘシ

第九條 第一條及第五條ノ規定ハ私立學校ニモ之ヲ適用ス

### 第四節 教員及學務委員

◎丙第一百十二號 (明治十四年九月十三日)

十五年甲第百二十七號及廿五年丙第百二十七號

各 郡

小學校教員心得別冊之通被定候條右旨趣ニ基キ懇篤教誨ヲ加ヘ教員ノ本分ヲ誤ラシメサル様可致此旨相達候事

但別冊各小學校へ一部ツ、交付可致候事

(別冊)

#### 小學校教員心得

小學教員ノ良否ハ普通教育ノ弛張ニ關シ普通教育ノ弛張ハ國家ノ隆替ニ係ル其任タル重且大ナリト謂フヘシ今夫小學教員其人ヲ得テ普通教育ノ目的ヲ達シ人々ヲシテ身ヲ修メ業ニ就カシムルニアラスンハ何ニ由テカ尊

王愛國ノ志氣ヲ振起シ風俗ヲシテ淳美ナラシメ民生ヲシテ富厚ナラシメ以テ國家ノ安寧福祉ヲ増進スルヲ得ンヤ小學教員タル者宜ク深ク此意ヲ体スヘキナリ因テ